

令和2年度（2020年度）

全国学力・学習状況調査北海道版報告書

全国学力・学習状況調査を活用した 学力向上の取組の成果及び実践事例集

～学校、家庭、地域、行政が一体となった教育活動の充実に向けて～

北海道教育庁義務教育課
令和3年（2021年）3月

はじめに

令和2年度の全国学力・学習状況調査について、国は、新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮し、実施しないこととし、問題冊子等を教育委員会や学校の判断で有効に活用できるよう配布したところです。

全道の市町村教育委員会や学校では、これまで、全国学力・学習状況調査等の結果から子どもたちの状況や学校の取組について客観的に把握し、指導の改善に生かす取組が継続されています。

道教委では、令和2年度においても、こうした検証改善サイクルが途切れることのないよう、市町村教育委員会や学校の御協力をいただき、質問紙調査の結果を任意で提供いただいたり、教科に関する調査問題をチャレンジテストに活用したりするなどして、全道の状況をフィードバックしてきたところです。

このほど、これらの分析結果や結果を踏まえた改善策などについて取りまとめましたので、市町村教育委員会や学校におかれましては、次年度の教育課程の編成・実施や授業改善に役立てていただきますようお願いいたします。

北海道教育庁学校教育局義務教育課長 川端 香代子

目次

I 令和2年度全国学力・学習状況調査等を活用した取組について

道教委では、各学校の検証改善サイクルの確立に資するよう「ほっかいどうチャレンジテスト」2学期末問題、小学校第6学年、中学校第3学年の国語、算数・数学の問題において、令和2年度全国学力・学習状況調査の教科に関する調査問題を出題し、その結果を取りまとめるとともに、課題のあった設問については、授業改善のためのアイデア例を作成しました。ここでは、設問毎の全道の正答率、授業アイデア例をはじめ、結果を踏まえた教育課程の改善例を掲載しています。

また、全道の各市町村教育委員会や学校から任意で提供のあった令和2年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査の結果について、本道の継続した課題である生活習慣・学習習慣に係る設問を中心に取り上げ、「昨年度との比較」「経年比較による改善状況」によって整理し、掲載しています。

- 1 教科に関する調査問題の活用結果と改善例・・・・・・・・・・ 3
 - (1) 小学校国語・・・・・・・・・・ 3
 - (2) 小学校算数・・・・・・・・・・ 7
 - (3) 中学校国語・・・・・・・・・・ 11
 - (4) 中学校数学・・・・・・・・・・ 15
 - (5) 全校で取り組む教育課程の改善例・・・・・・・・ 19
- 2 児童生徒質問紙調査の結果とその分析・・・・・・・・・・ 21
 - (1) 児童生徒質問紙 全道の回答状況・・・・・・・・ 21
 - (2) 経年比較による改善状況・・・・・・・・・・ 28

II 「ほっかいどうチャレンジテスト」の結果を踏まえた授業アイデア例等

道教委が作成した「ほっかいどうチャレンジテスト」1学期末問題の国語、算数・数学で課題が見られた問題について授業改善を目的としてまとめた授業アイデア例や、「ほっかいどうチャレンジテスト」2学期末問題の学年毎の設問別正答率を示した資料を掲載しています。

- 1 「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例・・・ 31
- 2 「2学期末問題」集計結果・・・・・・・・・・ 49

III 本道の学力向上に向けた取組

本道で取り組まれている「検証改善サイクルの確立」「小学校と中学校が連携した取組の充実」「望ましい学習習慣の確立」「ICTを活用した取組の充実」「学力向上に向けた市町村の特色ある取組」に係る具体的な実践事例を掲載しています。また、今年度の道教委の学力向上に向けた様々な取組も掲載しています。

- 1 各学校や各市町村の取組・・・・・・・・・・ 52
 - (1) 検証改善サイクルの確立・・・・・・・・・・ 52
 - (2) 小学校と中学校が連携した取組・・・・・・・・ 54
 - (3) 望ましい学習習慣の確立・・・・・・・・・・ 55
 - (4) ICTを活用した取組・・・・・・・・・・ 57
 - (5) 学力向上に向けた市町村の特色ある取組・・・ 58
- 2 令和2年度（2020年度）道教委の取組・・・・・・・・ 60

I 令和2年度全国学力・学習状況調査等を活用した取組について

1 教科に関する調査問題の活用結果と改善例

(1) 小学校国語

〔小学校第6学年2学期末問題 問題別集計結果〕

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)	無解答率(%)	
			知識・技能	思考・判断・表現			知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組みの度	選択式	短答式			記述式
				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと		話す能力・聞く能力	書く能力	読む能力						
ー1	インスタント食品のよさについての取材の進め方の説明として適切なものを選択する	目的に応じた取材の進め方を捉える		5・6 ア					○				○		86.2	0.3
ー2	インスタント食品のよさについての取材における、メモの取り方の説明として適切なものを選択する	目的に応じたメモの取り方を捉える		3・4 ア					○				○		82.6	0.4
ー3	インスタント食品のよさについての【発表の様子】の□に、取材を通して分かったことを取り上げて書く	目的や意図に応じ、取材内容を基にして、自分の考えをまとめる		5・6 エ					○				○		76.8	2.1
二1	プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の最初の□の内容を、どのように工夫して書いているのか、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える		5・6 イ					○				○		83.3	1.0
二2	プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の□に、【本の一部】からプラスチックがずっと残ってしまう理由を書く	事実と意見とを区別して書く		5・6 ウ					○				○		46.9	4.4
二3	プラスチックの3R週間を提案する【下書き②】の「プラスチックの3R週間チャレンジ表」をどのような目的で書いているのか、適切なものを選択する	表を用いた目的を捉える		5・6 エ					○				○		82.1	2.0
二4ア	プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の中の□部アを、漢字を使って書き直す(ひじょうにおどろきました)	学年別配当表に示されている漢字を文中で正しく使う		5・6 (1) エ					○				○		73.9	5.1
二4イ	プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の中の□部イを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する(考えをあらため)	送り仮名に注意して、漢字を文中で正しく使う		5・6 (1) ウ					○				○		70.9	1.9
二4ウ	プラスチックの3R週間を提案する【下書き②】の中の□部ウを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する(たしかめましょう)	送り仮名に注意して、漢字を文中で正しく使う		5・6 (1) ウ					○				○		77.9	1.8
二5	プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】のAの文を、□部と□部とのつながりに気を付けて書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く		3・4 (1) カ					○				○		72.9	3.5

〈「ほっかいどうチャレンジテスト」小学校第6学年2学期末問題の主な特徴と具体的な設問〉

① 目的や意図に応じ、文章全体の構成や表現を工夫して提案する文章を書くことに課題がある。

大問二 提案する文章を書く（わたしたちにできる「プラスチックの3R週間」）

【書くこと】

設問2

事実と意見を区別して書くことができるかどうかをみる問題（記述式）

【条件】

- 【本の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 岩田さんが、何という本から言葉や文を取り上げて書いたのかが分かるように書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、三十字以上、八十字以内で書くこと。

正答率：全道 46.9%

設問3

表を用いた目的を捉えることができるかどうかをみる問題（選択式）

- ア 3Rの中で、どのような行動をしている人が多いのかを明らかにするため。
- イ 3Rをもとにして、学級みんなが取り組んだことを紹介するため。
- ウ 3Rを家族で分担し、自分の役割を明確にもらうため。
- エ 3Rを意識して、自分にできることを考え実行してもらうため。

正答率：全道 82.1%

② 学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。

大問二 提案する文章を書く（わたしたちにできる「プラスチックの3R週間」）

【言葉の特徴や使い方に関する事項 ○漢字】

児童が提案文の下書きを読み返すという場面設定の下、ひらがなを漢字に正しく書き直す問題（選択式）

設問4イ

「わたしは、便利だからといってプラスチックを当たり前のように使うという考えをあらため、…」という文章の下線部を正しい漢字に書き直す問題

- 1 改らため
- 2 改ため
- 3 改め

正答率：全道 70.9%

設問4ウ

「…、どのくらい実行できるのかをたしかめましょう。」という文章の下線部を正しい漢字に書き直す問題

- 1 確しかめ
- 2 確かめ
- 3 確め

正答率：全道 77.9%

〔改善の方向性〕

〔思考力、判断力、表現力等〕【B 書くこと】

○ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする授業改善の推進

- ・ 事実と感想、意見とを明確に区別して書くためには、文末表現に着目する必要があります。また、本などの資料を引用する場合は、原文に正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどに注意することが大切です。

〔知識及び技能〕【(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ○漢字】

○ 漢字を文の中で正しく使う授業改善の推進

- ・ 第5学年及び第6学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であることから、文や文章を書く際には、例えば、「収める」、「納める」、「修める」、「治める」などの同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが重要です。

授業アイデア例〔小学校国語〕

小学校第6学年
国語
二

【出題の趣旨】
事実と意見とを区別
して書く

		北海道
プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の□□□□に、【本の一部】からプラスチックがずっと残ってしまう理由を書く。	正答率	46.9
	無解答率	4.4

岩田さんの文章を通して、提案する文章の構成について話し合う。

(1) 構成について

〈岩田さんの文章構成〉

【下書き①】

提案します わたしたちができる「プラスチックの3R週間」

■ 知っていますか プラスチックごみの問題

提案の理由

■ みんなで減らそう プラスチックごみ

提案の内容
(提案の概要)

(岩田さんの文章構成の「提案の理由」の部分)

提案の理由

- 知っていますか プラスチックごみの問題
 - 身近な具体例
 - ・身近なプラスチック製品の例
 - プラスチックごみの現状・問題点
 - ・生き物に深くくえいきょうをあたえている
 - 海のクジラや森のサルへのえいきょう
 - ・プラスチック容器の生産量は増えている
 - 1964年は1500万トン
→2014年には3億1100万トン
(かん境省のホームページに示されている)
 - プラスチックの特ちょう
 - ・プラスチックは自然には分解されずに残ってしまう
(「プラスチックのひみつ」という本に書かれている)

【下書き②】

■ やってみよう プラスチックの3R

提案の内容
(具体的な行動例)

岩田さんは、どのような構成で書いていますか。



最初に「提案の理由」、次に「提案の内容」を書いていきます。「提案の内容」には、「プラスチックの3R週間」をしようという提案を書いてから、その具体的な行動例を示しています。大まかなことを書いてから、詳しいことを書くという工夫をすることで、読み手が理解しやすくなると思います。



「提案の理由」の中には、プラスチックごみの「現状・問題点」を書いています。そうすることでプラスチックごみを減らすという提案に納得してもらえようとしていると思います。



Fさんが言ったとおり、提案しようとすることについての「現状・問題点」はすごく大切だと思うけれど、なぜ、書き出しに「身近な具体例」を書いているのかがよく分かりません。



これを最初にとくとくと、プラスチックについてよく知らない人も、プラスチック製品が便利で身近にあるものだと知ってもらえることができ、分かりやすくなるからではないかと思います。



自分にとって身近なものが問題になっているということが最初に分かると、読み手も自分のこととして捉えて読み進めることができ、提案を受け入れてもらいやすくなるという効果もあると思います。



書き出しには、読み手に提案しようとすることについての興味や関心をもって読んでもらえるようなことを書くとよいと思います。例えば、書き手の経験を書いて興味を引くと、読み手にも自分の経験を思い出しながら文章を読んでもらえるという効果があると思います。

読み手がどういう人なのかを考えたり、どのような効果をねらうのかを考えたりして、文章全体の構成や書き出しの内容を工夫することが大切なんですね。自分が書くときにも考えてみたいです。



どのように書くと、提案を受け入れて行動に移してもらえるかを意識して構成を考えることが重要ですね。



教師

ポイント

構成を考える際には、それぞれの段落にどのようなことを書けばよいのか、どのように配置すると効果的に伝わるのかを考えることが大切である。提案する文章では、読み手に提案を受け入れてもらえるように書くことが最も重要であり、そのための構成を考えて書く必要がある。その一つの例として、読み手の知識や経験などを具体的に想定し、それに応じて書き出しの内容を考えることが挙げられる。

(2) 書き方について

〈岩田さんの文章〉



教師

岩田さんの文章の書き方について何か気付くことはありますか。

提案します わたしたちにできる「プラスチックの3R週間」

■ 知っていますか プラスチックごみの問題

わたしたちの周りには多くのプラスチック製品があります。例えば、ペットボトル、ストロー、レジぶくろなどです。プラスチック製品のおかげで、わたしたちは便利な生活を送ることができています。

しかし、これらのプラスチック製品がごみになると、大きな問題になります。最近の新聞には、海岸に打ち上げられたクジラの胃の中からペットボトルなどが発見されたという記事や、森のサルがプラスチックごみを食べてしまったという記事がありました。わたしは、プラスチックごみが生き物に深くなえいきょうをあたえていることに非常におどろきました。かん境省のホームページによると、世界のプラスチック容器の生産量は、1964年は1500万トンだったのが、2014年には3億1100万トンになっているそうです。以前に比べて増えていることが分かります。

プラスチックは時間がたつと分解されてなくなるだろうと考えている人がいるかもしれませんが、けれども、「プラスチックのひみつ」という本によると、プラスチックはほとんどが石油から作られているので、自然の中では分解されずに、ずっと残ってしまうそうです。

現状や問題点など、事実が多く書かれています。新聞記事や環境省のホームページ、本に書かれていた事実には、とても納得できます。



Aさん



Cさん

私もそう思います。「プラスチックごみを減らしたい」という考えを支える事実を挙げているので、説得力が増すのだと思います。そのためにも、事実と自分の考えとを区別して正確に書かないといけないと思います。

「かん境省のホームページ」や「プラスチックのひみつ」など、出典が正確に書いてあります。そのように書くと、本や資料から調べた事実だということがはっきりと伝わって、読み手にとって分かりやすくなると思います。それに、出典があることで、信頼性が高まると思います。



Fさん

そのとおりだと思います。書き方の工夫では、環境省のホームページや、「プラスチックのひみつ」の本に書かれていたということが分かるように、「～によると」という言葉を使ったり、「～そうです。」という文末で書いたりしています。



Dさん



Eさん

本や資料の言葉を引用するときには、「」を使って書くことを習ったけれど、これも事実と自分の考えとを区別して読み手にとって分かりやすくするためのものなのですね。



教師

事実と自分の感想、意見などを区別して書くことで、読み手に分かりやすく伝わるだけではなく、文章全体の信頼性や説得力が増すことになりそうですね。また、本や資料に書かれた内容を使って文章を書くときに、出典や資料名を書いたり、「」を使ったりすることは、著作権を守るために必要なことですから、書き手はいつも注意しなければいけません。それに、出典が正しく書かれていれば、読み手は、その本や資料の内容を確認することができますね。

ポイント

事実と感想、意見とを区別して書くことができるようにするために、区別して書く理由や効果について、児童自身が考えたり、理解したりする学習場面を設定することが考えられる。また、事実と感想、意見とを明確に区別して書くためには、文末表現などに注意することが重要である。「～によると」「～を見ると」「～が分かります。」「～だそうです。」などの言葉の使い方や文末の書き方について、具体的に理解することが大切である。

教科に関する調査問題の活用結果と改善例

(2) 小学校算数

〔小学校第6学年2学期末問題 問題別集計結果〕

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)	無解答率(%)	
			数と計算	図形	測定／変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	全道	全道	
1 (1)	三角柱の底面に貼る紙の枚数と、側面に貼る紙の枚数を書く	三角柱の底面と側面について理解している		5(2) ア					○				○	90.9	0.2
1 (2)	示された四角柱について、かけ算の式がどのようなことを表しているのかを書く	底面が正方形の四角形の構成要素や性質を基に、示された乗法の式の意味を記述できる	2(3) ア	5(2) ア					○				○	59.6	3.5
1 (3)	円柱の側面に貼る長方形の紙の横の長さを示す適切な点を選ぶ	直径、円周、円周率の関係について理解している		5(1) エ					○				○	54.5	1.0
1 (4)	エナメル線のおよその長さを求めるために、調べる必要のある数量を選ぶ	示された場面において、全体の大きさを求めるために、一つ分の大きさのほかに必要な数量を見いだすことができる	2(3) ア	4(1) 5(1) ア					○				○	72.2	0.7
2 (1)	$1\frac{1}{3} + 2\frac{2}{5}$ を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができる	5(5) アイ						○				○	77.5	1.7
2 (2)	$1\frac{1}{4}$ Lの図を直すわけとしてまとめた文章に入る数を書く	1 Lの大きさを表している図を基に、異分母の分数の加法における示された二つの図について解釈することができる	3(6) ア 5(4) アイ 5(5) アイ						○				○	49.8	2.1
2 (3)	$1\frac{1}{2} + 1\frac{1}{4}$ の計算の仕方を表している図について、一つ分の大きさが何Lであるのかを書く	示された計算の仕方を解釈し、異分母の分数の加法における単位分数の大きさを捉えることができる	5(4) アイ 5(5) アイ						○				○	76.8	1.6
2 (4)	$0.75 + 0.9$ について、ある数のいくつかを考え、整数のたし算に表して説明するときの求め方を書く	示された考えを基に、数の相対的な大きさを用いて、小数の加法を整数の加法に直して処理する方法を記述できる	4(4) アイ						○				○	54.7	7.1

〈「ほっかいどうチャレンジテスト」小学校第6学年2学期末問題の主な特徴と具体的な設問〉

① 図形の構成要素や性質を基に考察することに課題がある。

大問1 図形の構成要素や性質を基にした考察（角柱と円柱の側面）

【図形】

(2) 示された四角柱について、かけ算の式がどのようなことを表しているのかを書く問題

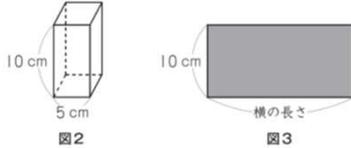


図3の横の長さは、次のように求めることができます。
求め方

$5 \times 4 = 20$ だから、答えは 20 cm です。

図2の四角柱について、求め方の中の「 5×4 」は、どのようなことを表していますか。「5」と「4」が何を表しているのかがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

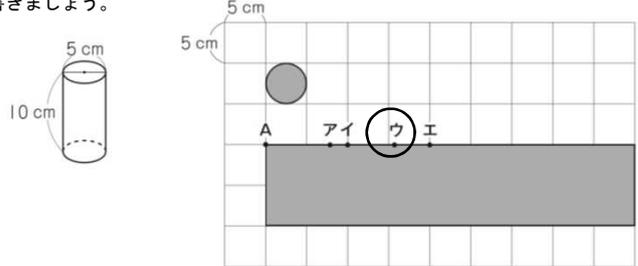
(正答例)

- 5は、底面の1辺の長さが5cmであることを表しています。
- 4は、底面の1辺の長さが4つであることを表しています。
- だから、 5×4 は、底面の1辺の長さ5cmが4つあることを表しています。

正答率：全道 59.6%

(3) 円柱の側面に貼る長方形の紙の横の長さを示す適切な点を選ぶ問題

あいりさんたちは、円柱にも紙をはろうとしています。
側面にはる長方形の紙は、横の長さが円柱の底面の円周の長さと等しくなるように作ります。
側面にはる長方形の紙の横の長さは、点Aからどの点までの長さですか。右のAからEまでの中から、最もふさわしいものを1つ選んで、その記号を書きましょう。



正答率：全道 54.5%

② 計算の仕方を解釈して検討したり、統合的に考察したりすることに課題がある。

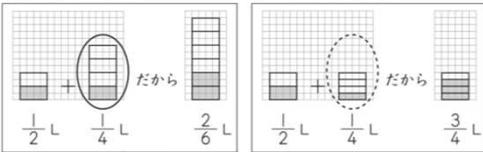
大問2 計算の仕方の解釈・検討と統合的な考察（分数の加法と小数の加法）

【数と計算】

(2) $1/4$ Lの図を直すわけとしてまとめた文章に入る数を書く問題

【はなこさんの考え】

【ようたさんの考え】



1 Lの大きさを \square と表すとき、【はなこさんの考え】の中の○は、【ようたさんの考え】の中の○のように直さなければいけません。
【はなこさんの考え】の中の○を直さなければならないわけを、次のようにまとめます。

【ようたさんの考え】の中の○のように、 \square Lを4等分しなければいけないのに、【はなこさんの考え】の中の○は、 \square Lを4等分しているからです。

(正答)

- ⑦...1 ④...2

正答率：全道 49.8%

(4) $0.75+0.9$ について、ある数のいくつ分かを考え、整数のたし算に表して説明するときの求め方を書く問題

【はなこさんの説明】

$2.51+0.36$ について、0.01のいくつ分かを考えると、 $251+36=287$ という整数のたし算に表すことができます。0.01が287個分なので、答えは2.87です。

$0.75+0.9$ について、【はなこさんの説明】と同じように、ある数のいくつ分かを考え、整数のたし算に表して説明すると、どのようになりますか。言葉と式を使って書きましょう。

(正答例)

$0.75+0.9$ について、0.01のいくつ分かを考えると、 $75+90=165$ という整数のたし算に表すことができます。0.01が165個分なので、答えは1.65です。

正答率：全道 54.7%

〔改善の方向性〕

【図形】

○ 図形と式とを関連付けて説明し合う授業改善の推進

- 問題場面をより簡潔・明瞭・的確に捉え、明らかになった式の意味をほかの図形にも適用し、発展的に考察できるよう、図形と式とを関連付けて説明したり、求め方を式に表したり、数や式の意味を解釈したりする場面を設定することが大切です。

【数と計算】

○ 計算の結果を振り返って確かめる活動や加法を統合的に捉える授業改善の推進

- 計算結果の妥当性を検討することができるよう、あらかじめ結果の大きさを見積もったり、図などを用いて結果のおよその大きさを捉えて判断したりする場面を設定することが重要です。
- 加法を統合的に捉えることができるよう、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目することで、被加数と加数を同じ数の幾つ分の集まりと捉える場面を設定することが大切です。

授業アイデア例〔小学校算数〕

小学校
算数
2(4)

【出題の趣旨】

示された考えを基に、数の相対的な大きさをを用いて、小数の加法を整数の加法に直して処理する方法を記述できる。

		北海道
0.75+0.9について、ある数のいくつ分かを考え、整数のたし算に表して説明するときの求め方を書く。	正答率	54.7
	無解答率	7.1

授業アイデア例

「ある数の幾つ分かを考えよう」

～数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、整数の加法に帰着して考察する～

〈実施対象学年〉
第5学年

【指導のねらい】

分数の加法や小数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、整数の加法に帰着して考察することができるようにする。

① 示された加法に表して、答えを求めることができるかどうかを予想し、確認する。

5+2 というたし算に表して、答えを求めることができる計算はどれですか。



$50+20$

$500+20$

$\frac{1}{2} + \frac{1}{5}$

$0.5+0.2$



50+20については、10のいくつ分かを考えると、5+2に表して、答えを求めることができます。



0.5+0.2 については、0.1のいくつ分かを考えると、5+2 に表して、答えを求めることができます。



500+20については、0をとって、5+2と表してもよいのかな。



500は100の5つ分で、20は10の2つ分なので、何のいくつ分かを考えているかが違います。だから、500+20 については、5+2 に表して、答えを求めることはできません。



同じ数のいくつ分かを考えていないので、5+2というたし算に表すことはできません。

みんなの予想

できる

できない

$50+20$

$500+20$

$0.5+0.2$

$\frac{1}{2} + \frac{1}{5}$

$500+20$

500は100の5つ分
20は10の2つ分
同じ数ではない。

ポイント

何十の加法や小数の加法について、被加数と加数を同じ数の幾つ分の集まりと捉えることで、数の相対的な大きさをを用いて処理することができることに気付くことができるようにすることが大切である。

② 分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、示された加法に表すことができるかどうかを考察する。



$\frac{1}{2} + \frac{1}{5}$ については、5+2 に表して、答えを求めることができるのかな。



分数のたし算についても、5+2に表して答えを求めることができます。



$\frac{1}{2}$ は $\frac{1}{2}$ の1つ分で、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1つ分で、同じ数のいくつ分かを考えていないので、できないと思います。

$\frac{1}{2} + \frac{1}{5}$ について、計算の仕方を振り返って、
5 + 2 に表して、答えを求めることができるかを考えましょう。



$\frac{1}{2} + \frac{1}{5}$ については、通分すると、
 $\frac{1}{2} + \frac{1}{5} = \frac{5}{10} + \frac{2}{10}$ なので、 $\frac{1}{10}$ のいくつかを考えると、
5 + 2 に表して、答えを $\frac{7}{10}$ と求めることができます。

ポイント

異分母の分数の加法について、通分することによって同じ単位分数の幾つ分として考えることに気付くことができるようにすることが大切である。

③ 学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感する。

5 + 2 に表して、答えを求めるためには、どのように考えればよかったですか。



50 + 20 については、10 のいくつかを考えました。



0.5 + 0.2 については、0.1 のいくつかを考えました。



$\frac{1}{2} + \frac{1}{5}$ については、 $\frac{1}{10}$ のいくつかを考えました。

この3つの考えについて、共通していることは何ですか。



ある数のいくつかを考えて、5 + 2 に表すことができます。

50 + 20	10 のいくつかを考えると、	5 + 2
0.5 + 0.2	0.1 のいくつかを考えると、	5 + 2
$\frac{1}{2} + \frac{1}{5} = \frac{5}{10} + \frac{2}{10}$	$\frac{1}{10}$ のいくつかを考えると、	5 + 2
ある数のいくつかを考えると、整数のたし算に表すことができる。		

5 + 2 というたし算に表して、答えを求めることができる計算について学習しましたが、整数の計算に表すことができるのは、たし算だけですか。



ひき算もできるのかな。

ある数のいくつかを考えると、5 - 2 というひき算に表して、答えを求めることができるひき算はありますか。



50 - 20 があります。10 のいくつかを考えればよいです。



0.5 - 0.2 があります。0.1 のいくつかを考えればよいです。



ある数のいくつかを考えると、整数のひき算に表すことができます。

ポイント

学習の過程と成果を振り返り、分数の計算や小数の計算について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目することで、整数の計算に帰着できることに気付くことができるようにすることが大切である。

教科に関する調査問題の活用結果と改善例

(3) 中学校国語

〔中学校第3学年2学期末問題 問題別集計結果〕

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)	無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す能力・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式			記述式
ー1	動画の活用の仕方について説明したのとして適切なものを選択する	資料や機器などを効果的に活用した話し方について理解する	2ウ									○			93.9	0.3
ー2	行書で書かれた「桜」の特徴の組合せとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する				1②イ						○	○		70.3	0.6
ー3	卒業生から学ぶ会の最後に述べるお礼の言葉を書く	自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す	1イ									○		○	66.8	8.0
二	創作している俳句に入れる言葉を選択し、その言葉を選んだ理由を書く	自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書く		2ウ								○		○	64.7	7.2
三1①	漢字を読む(震えて)	文脈に即して漢字を正しく読む				2①ウ(ア)						○	○		97.3	1.7
三1②	漢字を読む(支度)					2①ウ(ア)						○	○		96.1	1.8
三1③	漢字を読む(吹いて)					2①ウ(ア)						○	○		97.4	1.7
三2①	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(よささうな)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む				1①ア(ア)						○	○		94.3	2.5
三2②	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(ふる)					1①ア(ア)						○	○		92.4	2.3
三3	動作をしている人(もの)が異なるものを選択する	文の成分の照応について理解する				2①イ(ウ)						○	○		84.8	2.7

〈「ほっかいどうチャレンジテスト」中学校第3学年2学期末問題の主な特徴と具体的な設問〉

- ① 資料や機器などを効果的に活用した話し方について理解しているが、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことに課題がある。

大問一 スピーチをする（書道パフォーマンス）

【話すこと・聞くこと】

設問3

橋本さんに対して、話の構成に注意しながらお礼の言葉述べる問題

【条件】

- 橋本さんへのお礼の言葉を実際に話すように書くこと。
- 橋本さんの伝えたいことを取り上げて、自分がそれをどのように受け止めたのかが分かるように具体的に書くこと。

正答率：全道 66.8%

- ② 自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことに課題がある。

大問二 俳句を創作する

【書くこと】

俳句に用いる言葉を複数の候補の中から選び、その言葉を選んだ理由を書く問題

【条件】

- 選んだ【言葉の候補】について、【辞典の記述】の中のどのような意味に着目したのかを、他の【言葉の候補】の意味との違いが分かるように書くこと。
- 選んだ【言葉の候補】を用いることで、どのような情報や心情を表現できると考えたのかを、上の条件で取り上げた意味をもとに具体的に書くこと。

正答率：全道 64.7%

〔改善の方向性〕

【A 話すこと・聞くこと】

○ **自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す授業改善の推進**

- ・ お礼の言葉として相手に分かりやすく伝えるためには、相手の伝えたいことを取り上げ、自分がそれをどのように受け止めたのかが分かるように具体的に述べることが重要です。相手の話の要点を捉えて話を構成することで、よりお礼の言葉としてふさわしくなります。また、適切な敬語を用いて話すなど、お礼の言葉としてふさわしい言葉遣いで話すことも大切です。

【B 書くこと】

○ **説明や具体例を加えて書く授業改善の推進**

- ・ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるようにするためには、分かりやすい説明や具体例を加えることが重要です。その際、説明や具体例が自分の考えを支える根拠として適切かどうかについて検討する場を設けることが大切です。

授業アイデア例〔中学校国語〕

中学校第3学年
国語
二

【出題の趣旨】
自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書く

		北海道
創作している俳句に入れる言葉を選択し、その言葉を選んだ理由を書く。	正答率	64.7
	無解答率	7.2

指導のねらい

自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えるとともに、論理の展開を工夫して書くことができるようにする。

教材

● 令和2年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語 3

第1時

1 学習の見通しをもつ。



教師

「ほろほろ」、「ぼろぼろ」、「ぼろぼろ」の中から言葉の一つ選んで俳句を完成させ、その言葉を選んだ理由を書きましょう。書いた文章は、学級の他の人と交流します。

- 「ほろほろ」、「ぼろぼろ」、「ぼろぼろ」の三つの言葉の意味や用例を、本問にある【辞典の記述】や国語辞典を用いて確認する。
- 「卒業にこぼれる涙 と」の空欄に入れる言葉を、三つの言葉の中から一つ選び、俳句を完成させる。
- ③で完成させた俳句について、その言葉を選んだ理由を各自でノートに書く。
※ 生徒の実態等に即して、字数を指定することも考えられる。



教師

自分が選んだ言葉について、どのような意味に着目したのかを、他の言葉の意味との違いが分かるように書きましょう。また、その言葉を用いることで、どのような情景や心情を表現できると考えたのかを書きましょう。

小学校の卒業式の日、自分でも気付かないうちに涙が流れてきたことを表すには、どの言葉がふさわしいのかな。



Aさん

卒業にこぼれる涙
ほろほろと

私は、空欄に入れる言葉として「ほろほろ」を選びました。なぜこの言葉を選んだのかというと、「ほろほろ」には「音もななく続けてこぼれ落ちる」という意味があり、私が想像した情景が表現できると思ったからです。小学校を卒業したときのことです。六年間の喜びや悲しみがたくさん詰まった校舎が、振り返った私を笑顔で送り出してくれているように見えました。そのときに流れた涙が「ほろほろ」という感じだったので、この言葉を選びました。

つまり、「ぼろぼろ」や「ぼろぼろ」ではなく、「ほろほろ」が、そのときの私の気持ちにぴったりだったので、この言葉を選びました。

第2時

5 ④で書いた文章をグループで交流する。

交流する際の観点の例

- どのような意味に着目してその言葉を選んだのかについて、他の言葉の意味との違いが分かるように書かれているか。
- その言葉を用いることでどのような情景や心情を表現できると考えたのかが書かれているか。
- 選んだ言葉と、その言葉を用いることで表現できると考えた情景や心情との関係が分かるように書かれているか。

【交流している場面の例】



Aさんが「ほろほろ」の「音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味に着目したことは分かりますが、三段落目に書かれている情景や心情とどのように関係するかが分かりづらいので、もう少し説明を加えた方がよいと思います。

「ほろほろ」や「ぼろぼろ」を選ばなかった理由についても触れると、「ほろほろ」を選んだ理由がより明確に伝わるのではないのでしょうか。



⑥ ⑤で交流した内容を踏まえ、必要に応じて、各自で文章を書き直す。

【Aさんが書き直した文章】 ※ 青字は、書き直した部分。

卒業に こぼれる涙
ほろほろと

私は、空欄に入れる言葉として「ほろほろ」を選びました。なぜこの言葉を選んだのかというと、「ほろほろ」には「音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味があり、涙が自然に流れる様子を表現できると思ったからです。小学校を卒業したときのことです。六年間の喜びや悲しみがたくさん詰まった校舎が、振り返った私を笑顔で送り出してくれているように見えました。私は、お世話になった方々への感謝の思いと、これからに向けての決意が胸の中に広がるのを感じました。そのときの涙の様子をこの句で表現したいと思いました。

つまり、大粒で量が多い印象の「ぼろぼろ」や乾いた感じがする「ほろほろ」ではなく、心からしみ出るような涙の様子を表現できる「ほろほろ」が、そのときの私の気持ちにぴったりだったので、この言葉を選びました。

⑦ 学習を振り返る。

【活用のポイント】

- 本授業アイデア例は、第3学年「B 書くこと」(1)イを指導することを想定した学習の流れを示している。本問で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、④に示したように、これまでに学習したことを想起し、目的に応じて分かりやすい説明や具体例を加えて書くように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては、④～⑥で、初めに自分の考えを述べ、根拠となる辞書の意味などを示し、自分の考えの妥当性を示す書き方や、根拠となる辞書の意味などを初めに示し、自分の考えの妥当性へと結び付ける書き方などができているかについて、ノートに書いた内容やグループでの交流の様子などを基にして評価することが考えられる。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第1学年で指導するに当たっては、④を中心に授業を行うとよい。その際、第1学年「B 書くこと」(1)ウの指導事項を取り上げ、読み手に対して、どの部分が根拠であるかが明確になるような書き方について考えるように指導し、ノートに書いた内容などを基にして評価することが考えられる。
- 第2学年で、本問で取り上げた指導事項について指導する場合には、④を中心に授業を行い、ノートに書いた内容などを基にして評価することが考えられる。

教科に関する調査問題の活用結果と改善例

(4) 中学校数学

〔中学校第3学年2学期末問題 問題別集計結果〕

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)	無解答率(%)
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方・考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	全道	全道
1	2けたの自然数を文字を用いた式で表す	数量を文字を用いた式に表すことができる	1(2) ア											69.6	6.4
2	垂線を作図する手順において、ふさわしい点を選ぶ	垂線の作図の方法について理解している		1(1) ア										73.4	0.6
3	男子生徒35人がハンドボール投げを行い、記録の中央値が2.4mだったことについて、正しく記述しているものを選ぶ	中央値の意味を理解している				1(1) ア								72.0	0.5
4(1)	4日間で集まった紙パックの枚数を求めるために、枚数を何に置き換えて考えているかを書く	事象における数量の関係を見だし、それを的確に捉えることができる												74.4	3.1
4(2)	集まった紙パックの合計の重さを45000gとしたとき、紙パックの枚数の違いがおよそ何枚になるかをグラフから求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる												45.2	23.3
5(1)	洋平さんの求め方の手順2に対応する計算を連立方程式を解く過程1から選ぶ	連立方程式を解く過程を、事象に即して解釈することができる	2(1) イ 2(2) イウ											54.1	3.5
5(2)	里奈さんの求め方の手順3において、わる数の3がどんな数であるかを説明する	連立方程式を解く過程を振り返り、事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	2(1) イ 2(2) イウ											45.0	28.3

〈「ほっかいどうチャレンジテスト」中学校第3学年2学期末問題の主な特徴と具体的な設問〉

② 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

大問4 事象の数学的な解釈と問題解決の方法（紙パック）

【関数】

(2) 集まった紙パックの合計の重さを45000gとしたとき、紙パックの枚数の違いがおよそ何枚になるかをグラフから求める方法を説明する問題

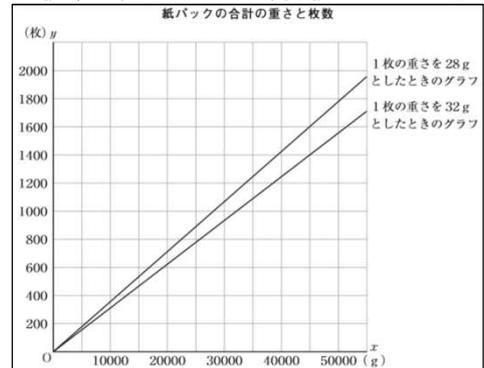
集まった紙パックの合計の重さを x gとしたときの、紙パックの枚数を y 枚とします。二人は、紙パック1枚の重さを28gとしたときと、32gとしたときの x と y の関係を、それぞれ右のような比例のグラフに表しました。

1か月間で集まった紙パックの合計の重さを45000gとします。このとき、紙パックの枚数の違いがおよそ何枚になるかは、右のグラフから求めることができます。その方法を説明しなさい。ただし、実際に枚数の違いを求める必要はありません。

(正答例)

- ・1枚の重さを28gとしたときのグラフと1枚の重さを32gとしたときのグラフについて、 x の値が45000のときの y の値の差を求める。
- ・1枚の重さを28gとしたときのグラフと1枚の重さを32gとしたときのグラフについて、 x の値が45000のときの2点間の y 軸方向の距離を読む。

正答率：全道 45.2%



② 事象を数学的に考察する場面において、解決の過程や結果を振り返り、事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

大問5 連立方程式を解く過程を振り返り、考察すること（連立方程式）

【数と式】

(1) 洋平さんの求め方の手順2に対応する計算を連立方程式を解く過程1から選ぶ問題

太一さんは、壁にかかれた枠に向かってボールを何回か投げ、次の得点設定1でゲームを行いました。

- 得点設定1
- 枠の内側に1回当たるとの得点を3点とする。
 - 枠の外側に1回当たるとの得点を2点とする。

里奈さんは、枠の内側に当たった回数を、投げた回数と合計得点をもとにして、すぐに求められることを洋平さんから聞きました。

洋平さんの求め方

- 手順1 投げた回数に、枠の外側に1回当たるとの得点をかける。
手順2 合計得点から手順1の計算結果をひく。

右の連立方程式を解く過程1には、手順1、2にそれぞれ対応する計算があります。手順1に対応する計算がある部分は、連立方程式を解く過程1の下線部です。手順2に対応する計算がある部分を、右のアからエまでの中から1つ選びなさい。

連立方程式を解く過程1

枠の内側に当たった回数を x 回、枠の外側に当たった回数を y 回とすると、

$$\begin{cases} x + y = 15 & \cdots\cdots ① \\ 3x + 2y = 40 & \cdots\cdots ② \end{cases}$$

①の両辺を2倍すると、 $2x + 2y = 30$ $\cdots\cdots ③$

②から③をひくと、 $3x + 2y = 40$
 $-) 2x + 2y = 30$
 $x = 10$ $\cdots\cdots ④$

④を①に代入すると、 $10 + y = 15$
 $y = 15 - 10$
 $y = 5$ $\cdots\cdots ⑤$

④、⑤より、 $x = 10$ 、 $y = 5$

正答率：全道 54.1%

(2) 里奈さんの求め方の手順3において、わる数の3がどんな数であることを説明する問題

三人は、得点設定1を、次の得点設定2に変えてゲームを行いました。

- 得点設定2
- 枠の内側に1回当たるとの得点を5点とする。
 - 枠の外側に1回当たるとの得点を2点とする。

里奈さんは、右の連立方程式を解く過程2の□□の部分から、洋平さんの求め方に新たな手順を加えることで得点設定2でも、投げた回数と合計得点をもとに、枠の内側に当たった回数を求められることに気づきました。

里奈さんの求め方

- 手順1 投げた回数に、枠の外側に1回当たるとの得点をかける。
手順2 合計得点から手順1の計算結果をひく。
手順3 手順2の計算結果を3でわる。

上の里奈さんの求め方において、新たな手順3の「手順2の計算結果を3でわる。」のわる数である3がどんな数であることを考えます。わる数の3がどんな数であるかは、得点設定2の条件をもとに説明することができます。里奈さんの求め方の手順3において、わる数の3は、どんな数ですか。「～は、…である。」という形で書きなさい。

(正答例)

- ・わる数の3は、枠の内側に1回当たるとの得点の5点と枠の外側に1回当たるとの得点の2点との差である。
- ・わる数の3は、連立方程式を解く過程2で $5x$ から $2x$ をひいた式である $3x$ の x の係数である。

正答率：全道 45.0%

〔改善の方向性〕

【関数】

○ 事象の数学的な解釈に基づき、問題解決の方法を数学的に説明する授業改善の推進

- ・問題解決に向けて着目すべき点を確認する場面を設定することが重要です。
- ・問題解決の方法を説明し合う際、不十分な説明に対して、どう考えると問題解決につながるかを検討し、説明を改善する場面を設定することが大切です。

【数と式】

○ 事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する授業改善の推進

- ・考えを見いだした過程を振り返ったり、文字を用いた式の意味を読み取ったりして捉えた事柄の特徴を数学的に説明する場面を設定することが大切です。

授業アイデア例〔中学校数学〕

中学校
数学
5(2)

【出題の趣旨】
連立方程式を解く過程を振り返り、事象に即して解釈し事柄の特徴を数学的に説明することができる。

		北海道
里奈さんの求め方の手順3において、わる数の3がどんな数であるかを説明する。	正答率	45.0
	無解答率	28.3

授業アイデア例

得点設定が変わっても、枠の内側に当てた回数をすぐに求められる方法を考えましょう。

〈実施対象学年〉
第2学年

【指導のねらい】

連立方程式を解く過程を振り返り、事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明できるようにする。

洋平さんの求め方

- 手順① 投げた回数に、枠の外側に1回当たるときの得点をかける。
手順② 合計得点から手順①の計算結果をひく。

1. 得点設定2に変わっても得点設定1のときと同じように求められるか調べる。



得点設定を右の得点設定2のように変えて、ゲームを行います。そのとき、投げた回数が25回で合計点数が92点でした。得点設定をこのように変えても、枠の内側に当てた回数を洋平さんの求め方ですぐに求めることができるでしょうか。

得点設定2

- 枠の内側に1回当たるときの得点を5点とする。
- 枠の外側に1回当たるときの得点を2点とする。



洋平さんの求め方で計算すると、枠の内側に当てた回数は42回になったよ。

- 手順① 投げた回数の25に得点の2をかけると、
 $25 \times 2 = 50$
手順② 合計得点の92から50をひくと、
 $92 - 50 = 42$



投げた回数は25回なのに、枠の内側に当てた回数がそれよりも多い42回になるのはおかしいよ。



連立方程式を使って求めると、枠の内側に14回、枠の外側に11回当てたことがわかるね。

枠の内側に当てた回数を x 回、
枠の外側に当てた回数を y 回とすると、
$$\begin{cases} x + y = 25 \\ 5x + 2y = 92 \end{cases}$$

これを解くと、 $x = 14, y = 11$



どうして今度は洋平さんの求め方では求めることができなかったのかな。

2. 得点設定2でもすぐに求められる方法を説明する。



得点設定が変わっても、すぐに求められる方法を考えます。得点設定1のときには、洋平さんの求め方が正しいことを連立方程式を解く過程を振り返って確認しましたね。同じようにして考えてみましょう。



得点設定1で考えたときと比べてみると、手順①、②のところは同じようになっているよ。

得点設定1のときは、手順②で回数を求めることができたよね。



$3x = 42$ の両辺を3でわるという計算はなかったよね。

そうか。ということは、洋平さんの求め方に「手順②の計算結果を3でわる」という手順③を加えればいいんだ。



○連立方程式を用いた求め方

枠の内側に当てた回数を x 回、
枠の外側に当てた回数を y 回とすると、

$$\begin{cases} x + y = 25 & \dots\dots ① \\ 5x + 2y = 92 & \dots\dots ② \end{cases}$$

①の両辺を2倍すると、
 $2x + 2y = 50 \dots\dots ③$

$$\begin{array}{r} ②から③をひくと、 \\ 5x + 2y = 92 \\ -) 2x + 2y = 50 \\ \hline 3x = 42 \\ x = 14 \end{array}$$

○洋平さんの求め方を使った考え方

手順① 投げた回数の25に、
枠の外側に1回当たるときの得点の2をかけて、
 $25 \times 2 = 50$

手順② 合計得点の92から手順①の
計算結果50をひくと、
 $92 - 50 = 42$

手順③を新たに加える
手順②の計算結果を3でわると、
 $42 \div 3 = 14$

よって、枠の内側に当てた回数は14回



洋平さんの求め方に新たな手順③として「手順②の計算結果を3でわる」を加えることで、枠の内側に当たった回数をすぐに求めることができました。
手順③において、わる数の3はどんな数かを説明してみましょう。



$5x - 2x$ をして $3x$ がでてきたから両辺を3でわったよね。

$5 - 2 = 3$ 。つまり x の係数の差ということだね。



3は x の係数の差を表しているのですね。 x の係数の5と2は何を表していますか。



$5x$ の x の係数5は、枠の内側に当たる得点の5点を表し、 $2x$ の x の係数2は、枠の外側に当たる得点の2点を表しています。



だから、わる数の3は、枠の内側に1回当たるとの得点の5点と枠の外側に1回当たるとの得点の2点との差だといえます。

得点設定2 すぐに求められる方法

- 手順① 投げた回数に、枠の外側に1回当たるとの得点をかける。
手順② 合計得点から手順①の計算結果をひく。
手順③ 手順②の計算結果を③でわる。

わる数の3は、枠の内側に1回当たるとの得点の5点と枠の外側に1回当たるとの得点の2点との差である。



連立方程式を解く過程を振り返ることで、新たに加えた手順③のわる数の3の意味がわかりましたね。

3. 得点設定1のときの洋平さんの求め方について、振り返って考察する。



得点設定1のときの洋平さんの求め方に、手順③が必要なかったのはどうしてでしょうか。



得点設定2で得点の差が3ということから手順③を加えたけど、得点設定1ではどうなるかな。



得点の差は1だから、手順③として「手順②の計算結果を得点差1でわる」が隠れていたんだね。



計算結果を1でわっても結果は同じだから、得点設定1で手順③が必要なかったんだね。

得点設定1

- 枠の内側に1回当たるとの得点を3点
- 枠の外側に1回当たるとの得点を2点

洋平さんの求め方

- 手順① 投げた回数に、枠の外側に1回当たるとの得点をかける。
手順② 合計得点から手順①の計算結果をひく。

(手順③ 手順②の計算結果を得点差1でわる。)

【活用のポイント】

- 新たに加えた手順である「手順②の計算結果を3でわる。」を見いだした過程を振り返ったり、文字を用いた式の意味を読み取ったりすることで、わる数の3はどんな数であるかについて、事柄の特徴を捉え、それを数学的に説明することが大切である。
- 得点設定をいろいろに変えても、枠の内側に当たった回数をすぐに求めることができるようにするために、手順③について「手順②の計算結果を得点差でわればよい」ということを見いだす場面を設定することも考えられる。

(5) 全校で取り組む教育課程の改善例

国語

児童生徒に必要な資質・能力を身に付けるためには、9年間を見通して指導の工夫・改善を図ることが重要です。

本資料を各学校における指導計画の改善や日常の授業改善に御活用ください。

本道における9年間を通じた国語の課題

- 自分の思いや考えが明確になるように文章の構成を考えること
- 書き表し方を工夫し、自分の思いや考えが伝わる文章にすること
- 話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすること

教育課程改善の方向性

【小学校第1学年、第2学年】

小学校低学年では、身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりする学習において、**構成メモを作成**する活動を取り入れるなど、**簡単な構成を考える**ことができるよう指導することが重要です。

今年度中に、「はじめ」「中」「おわり」など**事柄の順序に沿って構成を考える**ことを繰り返し指導するなど、**順序立てて考える力**を確実に身に付けられるようにするとともに、次年度の教育課程の編成に当たっては、年間指導計画において、「**B 書くこと**」の**学習過程を一層明確にする**などの改善を図ることが大切です。

【小学校第3学年、第4学年】

小学校中学年では、調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く学習において、**組み立て表を作成**する活動を取り入れるなど、**段落相互の関係に注意して文章構成を考える**ことができるよう指導することが重要です。

今年度中に、**引用の仕方を理解し使う**ことを繰り返し指導するなど、**自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にする力**を確実に身に付けられるようにするとともに、次年度の教育課程の編成に当たっては、年間指導計画において、「**B 書くこと**」の**単元と他教科等の調べたことをまとめて報告する活動とを関連付ける**などの改善を図ることが大切です。

【小学校第5学年、第6学年】

小学校高学年では、事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く学習において、**調べたことや考えたことを図に表す**活動を取り入れるなど、**事柄や考えをつないだり、広げたりする**ことができるよう指導することが重要です。

今年度中に、**箇条書き等により伝えたい内容を整理すること**を繰り返し指導するなど、**目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする力**を確実に身に付けられるようにするとともに、次年度の教育課程の編成に当たっては、年間指導計画において、**他教科等の内容の系統性や関連性を考慮して「B 書くこと」の指導の時期を工夫する**などの改善を図ることが大切です。

【中学校第1学年から第3学年】

中学校では、本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く学習において、**複数のデータを比較する**活動を取り入れるなど、**根拠を明確にしながらか、考えが伝わる文章を書く**ことができるよう指導することが重要です。

今年度中に、**表やグラフから共通点や相違点を整理すること**を繰り返し指導するなど、**意見を支える根拠を示す力**を確実に身に付けられるようにするとともに、次年度の教育課程の編成に当たっては、年間指導計画において、**コンピュータや情報通信ネットワークを活用する機会を「B 書くこと」の単元に計画的に位置付ける**などの改善を図ることが大切です。

全校で取り組む教育課程の改善例

算数・数学

児童生徒に必要な資質・能力を身に付けるためには、9年間を見通して指導の工夫・改善を図ることが重要です。

本資料を各学校における指導計画の改善や日常の授業改善に御活用ください。

本道における9年間を通じた算数・数学の課題

- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- 事象を数学的に考察する場面において、解決の過程や結果を振り返り、事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること

教育課程改善の方向性

【小学校第1学年、第2学年】

小学校低学年では、実生活で探した数量を式に表したり、問題解決の仕方を考えたりする学習において、具体物や図、式を用いて考えを伝え合う活動を取り入れるなど、数学的な表現を用いて説明することができるよう指導することが重要です。

今年度中に、自分の計算を図と関連付けて振り返ることを繰り返し指導するなど、数学的な表現を用いて説明しようとする態度を確実に身に付けられるようにするとともに、次年度の教育課程の編成に当たっては、年間指導計画において、問題解決の過程や結果を、具体物、図、数、式などを用いて表現し伝え合う活動を重点的に位置付けるなどの改善を図ることが大切です。



【小学校第3学年、第4学年】

小学校中学年では、問題を具体物、図、数、式などを用いて解決したり、結果を確かめたりする学習において、発展的に考察する活動を取り入れるなど、既習の計算の意味を別な視点から捉え直すことができるよう指導することが重要です。

今年度中に、計算で得られた結果の意味を図やテープ図で表すことを繰り返し指導するなど、得られた結果を常に振り返って吟味しようとする態度を確実に身に付けられるようにするとともに、次年度の教育課程の編成に当たっては、年間指導計画において、問題解決の結果を確かめたり、発展的に考察したりする活動を重点的に位置付けるなどの改善を図ることが大切です。



【小学校第5学年、第6学年】

小学校高学年では、問題を具体物、図、数、式、表、グラフなどを用いて解決したり、結果や方法を振り返ったりする学習において、統合的・発展的に捉え直す活動を取り入れるなど、別々に理解していた計算を同じものとして捉え直すことができるよう指導することが重要です。

今年度中に、小数や分数の乗法をテープ図と数直線の図に表すことを繰り返し指導するなど、統合的・発展的に考えるための数学的な表現の方法を確実に身に付けられるようにするとともに、次年度の教育課程の編成に当たっては、年間指導計画において、解決過程を振り返り統合的・発展的に捉え直す活動を重点的に位置付けるなどの改善を図ることが大切です。



【中学校第1学年から第3学年】

中学校では、思考の過程や判断の根拠などを数学的に表現したり、表現されたものを解釈したりする学習において、不十分な説明を改善する活動を取り入れるなど、根拠が明確で過不足なく順序立てた説明ができるよう指導することが重要です。

今年度中に、自分なりに書いた説明をより適切な数学的な表現に改善していくことを繰り返し指導するなど、数学的に表現することのよさを実感できるようにするとともに、次年度の教育課程の編成に当たっては、年間指導計画において、数学的な表現を意見交流や議論を通じて洗練させていく活動を重点的に位置付けるなどの改善を図ることが大切です。

2 児童生徒質問紙調査の結果とその分析

(1) 児童生徒質問紙 全道の回答状況

■ 児童生徒質問紙調査(指定都市を除く参考値)の概要

() 内は質問番号

【授業改善・学習に取り組む態度等】に関連する質問項目

- ① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合は、小学校で27.1%、中学校で26.6%であり、昨年度と比べて、小学校で3.8ポイント、中学校で0.2ポイント低い。(小31、中31)
- ② 学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童生徒の割合は、小学校で32.7%、中学校で37.6%であり、昨年度と比べて、小学校で4.1ポイント、中学校で10.6ポイント高い。(小37、中37)

【学習習慣・生活習慣等】に関連する質問項目

- ① 家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、小学校で34.5%、中学校で21.6%であり、昨年度と比べて、小学校で1.9ポイント、中学校で6.8ポイント高い。(小20、中20)
- ② 普段、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校で57.6%、中学校で72.4%であり、昨年度と比べて、小学校で同様で、中学校で9.2ポイント高い。(小21、中21)
- ③ 毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の割合は、小学校で36.9%、中学校で38.1%であり、昨年度と比べて、小学校で2.7ポイント低く、中学校で4.3ポイント高い。(小2、中2)
- ④ 毎日、同じくらいの時刻に起きている児童生徒の割合は、小学校で54.0%、中学校で60.1%であり、昨年度と比べて、小学校で3.3ポイント低く、中学校で1.7ポイント高い。(小3、中3)

【自己有用感・粘り強さ、挑戦心・将来の夢や目標、規範意識等】に関連する質問項目

- ① 自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合は、小学校で28.5%、中学校で29.8%であり、昨年度と比べて、小学校で7.1ポイント低く、中学校で0.1ポイント高い。(小11、中11)
- ② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う児童生徒の割合は、小学校で40.7%、中学校で36.2%であり、昨年度と比べて、小学校で0.7ポイント低く、中学校で3.2ポイント高い。(小12、中12)
- ③ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると思う児童生徒の割合は、小学校で75.4%、中学校で75.2%であり、昨年度と比べて、小学校で3.7ポイント、中学校で2.1ポイント低い。(小14、中14)
- ④ 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している児童生徒の割合は、小学校で23.8%、中学校で22.4%であり、昨年度と比べて、小学校で3.4ポイント低く、中学校で0.7ポイント高い。(小15、中15)
- ⑤ 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は、小学校で56.0%、中学校で43.6%であり、昨年度と比べて、小学校で8.2ポイント、中学校で2.1ポイント低い。(小13、中13)
- ⑥ 学校のきまり(規則)を守っている児童生徒の割合は、小学校で45.1%、中学校で65.2%であり、昨年度と比べて、小学校で2.8ポイント、中学校で0.3ポイント高い。(小16、中16)

児童生徒質問紙調査（昨年度との比較）

【児童生徒質問紙】

※令和元年度の数値は、指定都市を含む中で、令和2年度は、指定都市を除く参考値

【授業改善・学習に取り組む態度等】に関する質問項目

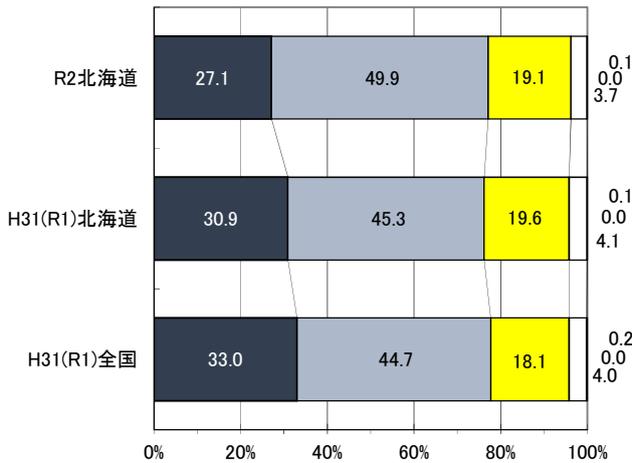
①「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」

（児童生徒 質問番号 小31、中31）

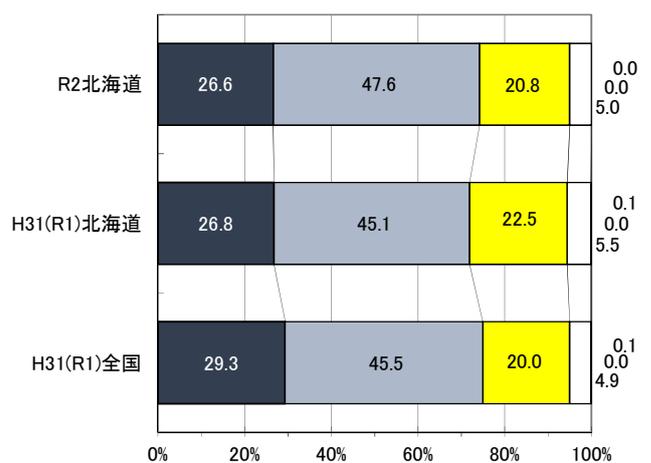
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で3.8ポイント、中学校で0.2ポイント低い。昨年度の全国と比べて、小学校で5.9ポイント、中学校で2.7ポイント低い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 ■無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



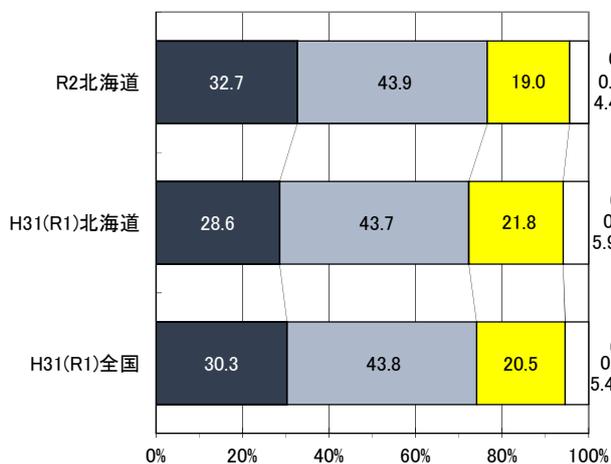
②「学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思う」

（児童生徒 質問番号 小37、中37）

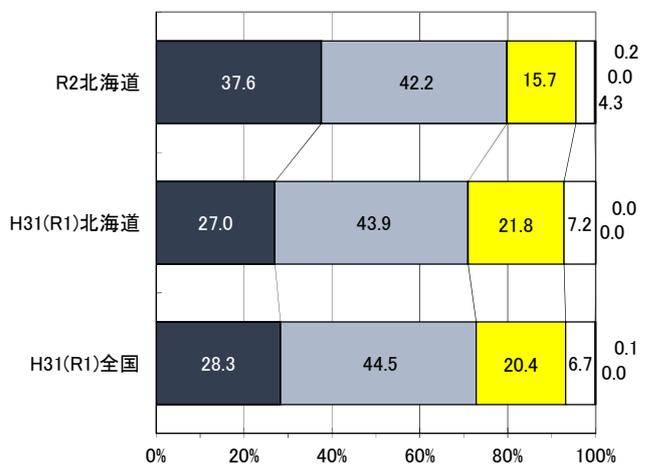
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で4.1ポイント、中学校で10.6ポイント高い。昨年度の全国と比べて、小学校で2.4ポイント、中学校で9.3ポイント高い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 ■無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



児童生徒質問紙調査（昨年度との比較）

【児童生徒質問紙】

※令和元年度の数値は、指定都市を含む値で、令和2年度は、指定都市を除く参考値

【学習習慣・生活習慣等】に関する質問項目

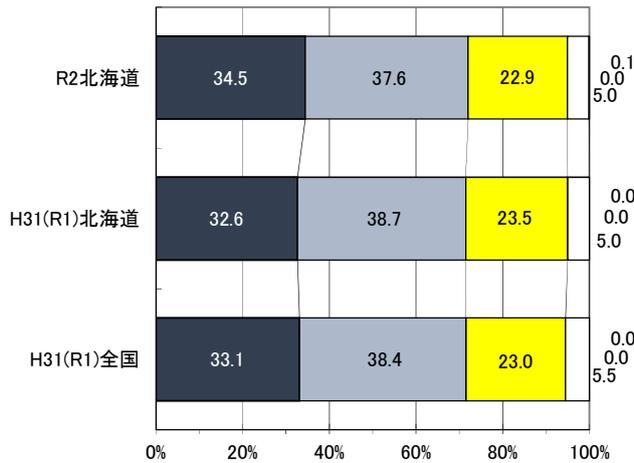
①「家で自分で計画を立てて勉強している」

（児童生徒 質問番号 小20、中20）

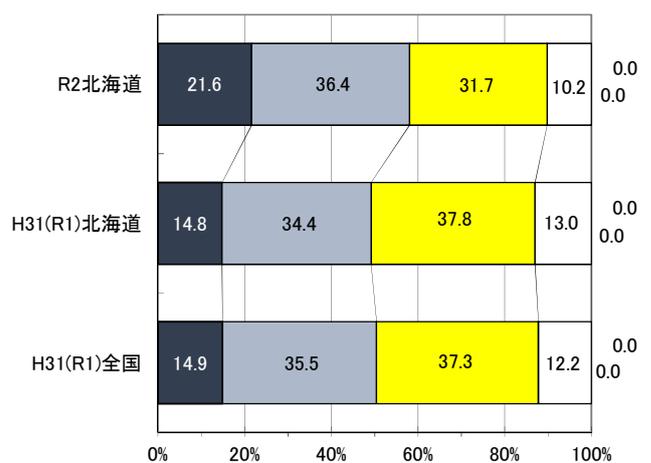
「1. している」と「2. どちらかといえば、している」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で0.8ポイント、中学校で8.8ポイント高い。昨年度の全国と比べて、小学校で0.6ポイント、中学校で7.6ポイント高い。

■ 1. している □ 2. どちらかといえば、している ■ 3. あまりしていない □ 4. 全くしていない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



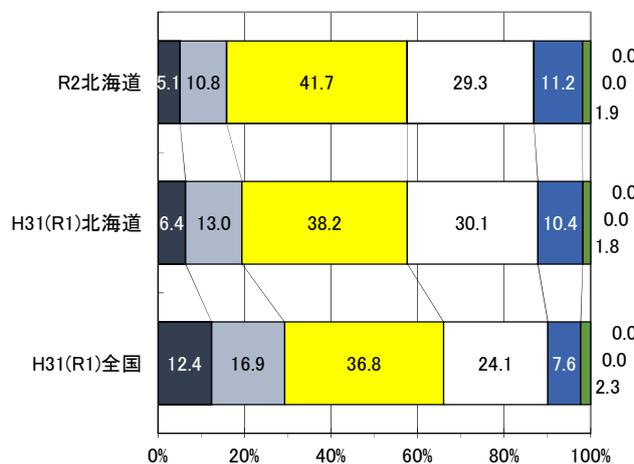
②「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上勉強する(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」

（児童生徒 質問番号 小21、中21）

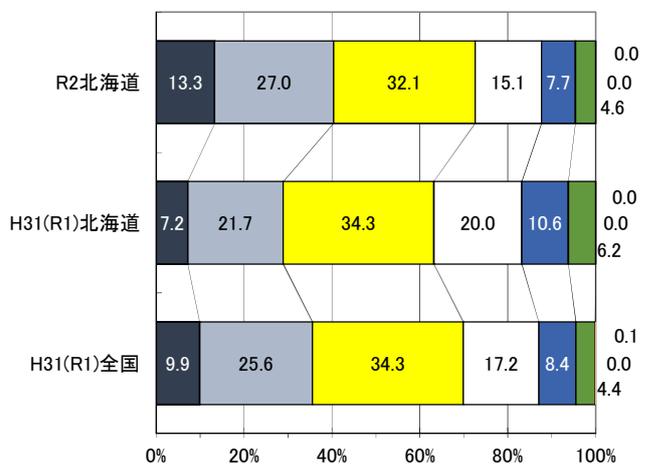
「1～3. 1時間以上」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で同様、中学校で9.2ポイント高い。昨年度の全国と比べて、小学校で8.5ポイント低く、中学校で2.6ポイント高い。

■ 1. 3時間以上 □ 2. 2時間以上、3時間より少ない ■ 3. 1時間以上、2時間より少ない □ 4. 30分以上、1時間より少ない
■ 5. 30分より少ない ■ 6. 全くしない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



児童生徒質問紙調査（昨年度との比較）

【児童生徒質問紙】

※令和元年度の数値は、指定都市を含む値で、令和2年度は、指定都市を除く参考値

【学習習慣・生活習慣等】に関する質問項目

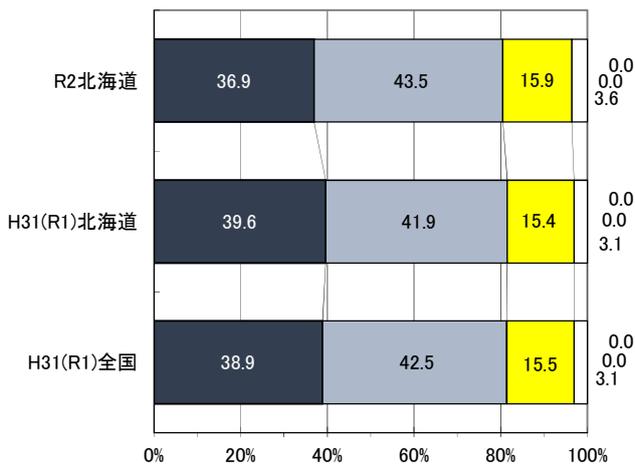
③「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」

（児童生徒 質問番号 小2、中2）

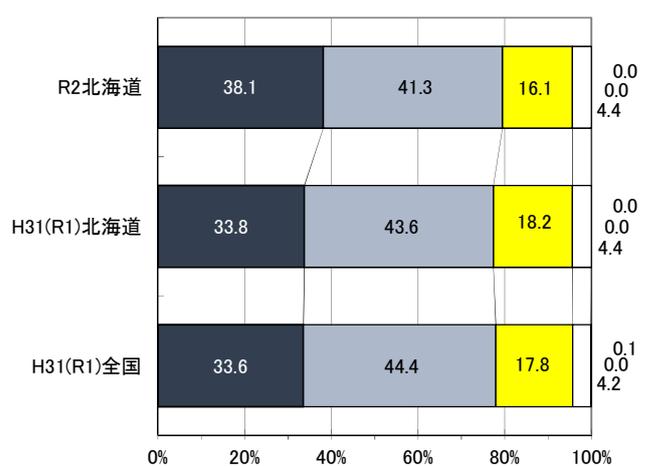
「1. している」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で2.7ポイント低く、中学校で4.3ポイント高い。昨年度の全国と比べて、小学校で2.0ポイント低く、中学校で4.5ポイント高い。

■ 1. している □ 2. どちらかといえば、している ■ 3. あまりしていない □ 4. 全くしていない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



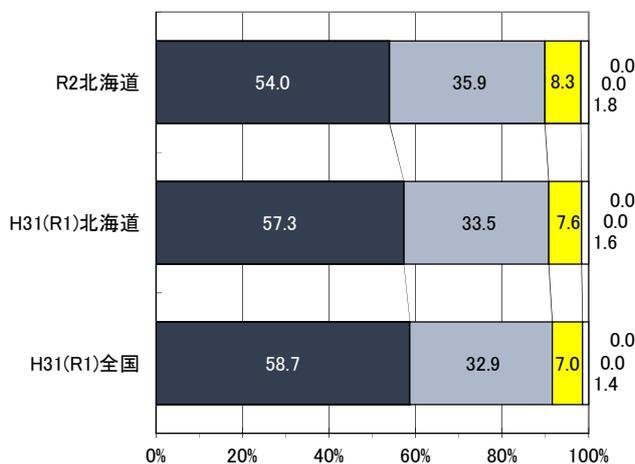
④「毎日、同じくらいの時刻に起きている」

（児童生徒 質問番号 小3、中3）

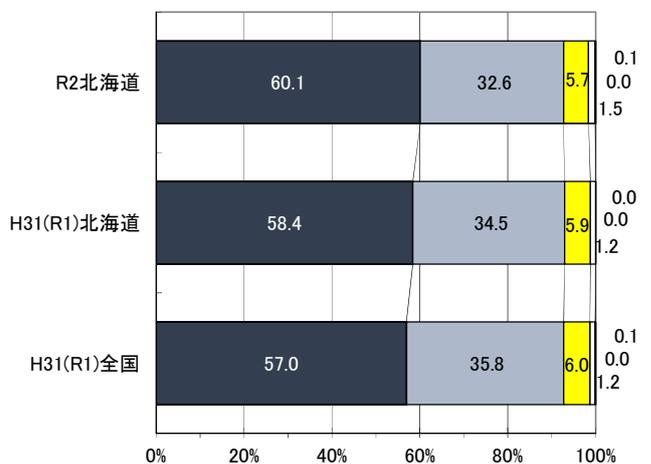
「1. している」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で3.3ポイント低く、中学校で1.7ポイント高い。昨年度の全国と比べて、小学校で4.7ポイント低く、中学校で3.1ポイント高い。

■ 1. している □ 2. どちらかといえば、している ■ 3. あまりしていない □ 4. 全くしていない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



児童生徒質問紙調査（昨年度との比較）

※令和元年度の数値は、指定都市を含む値で、令和2年度は、指定都市を除く参考値

【児童生徒質問紙】

【自己有用感・粘り強さ、挑戦心・将来の夢や目標、規範意識等】に関する質問項目

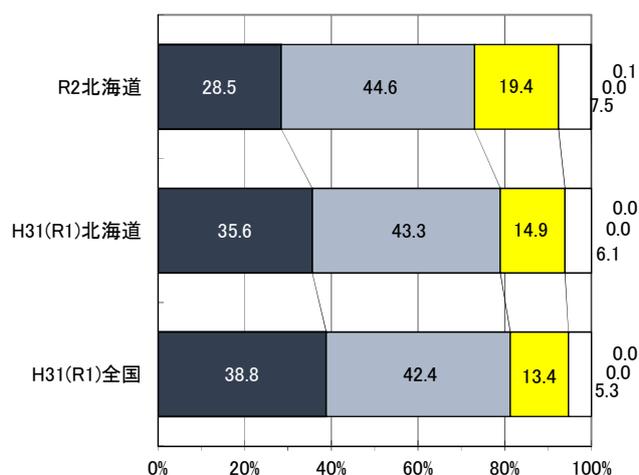
①「自分には、よいところがあると思う」

（児童生徒 質問番号 小11、中11）

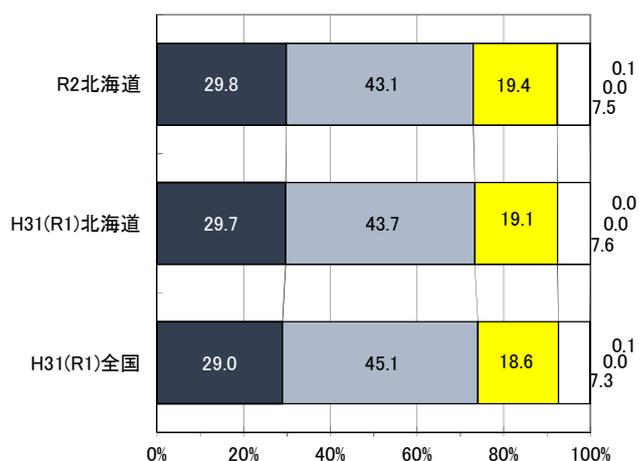
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で7.1ポイント低く、中学校で0.1ポイント高い。昨年度の全国と比べて、小学校で10.3ポイント低く、中学校で0.8ポイント高い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 ■無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



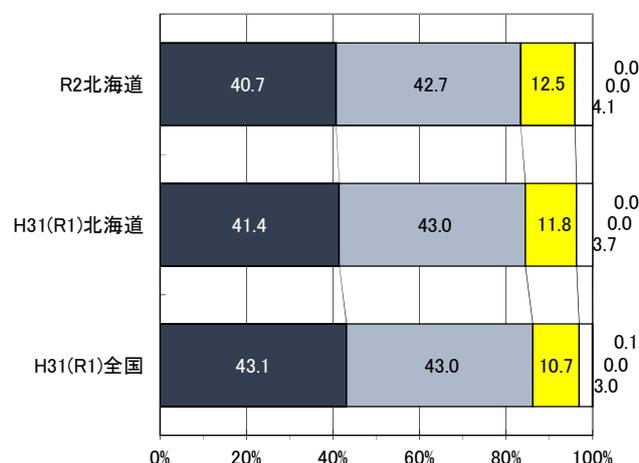
②「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」

（児童生徒 質問番号 小12、中12）

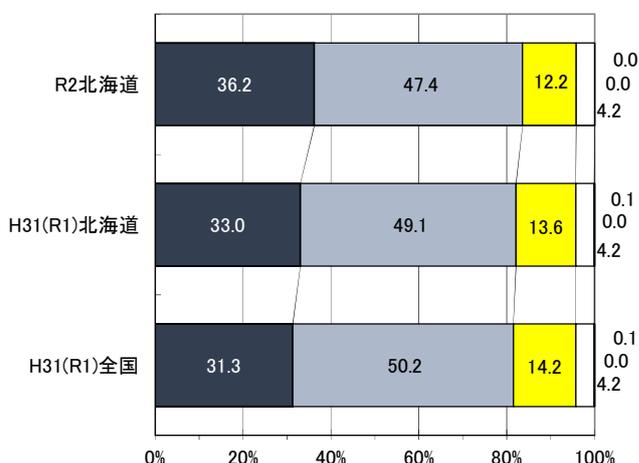
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で0.7ポイント低く、中学校で3.2ポイント高い。昨年度の全国と比べて、小学校で2.4ポイント低く、中学校で4.9ポイント高い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 ■無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



児童生徒質問紙調査（昨年度との比較）

※令和元年度の数値は、指定都市を含む値で、令和2年度は、指定都市を除く参考値

【児童生徒質問紙】

【自己有用感・粘り強さ、挑戦心・将来の夢や目標、規範意識等】に関する質問項目

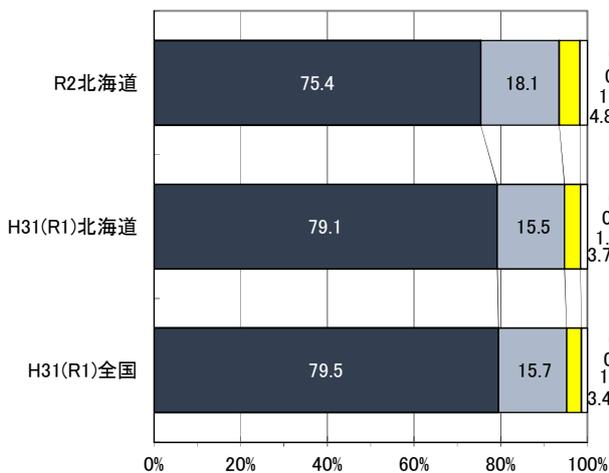
③「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」

（児童生徒 質問番号 小14、中14）

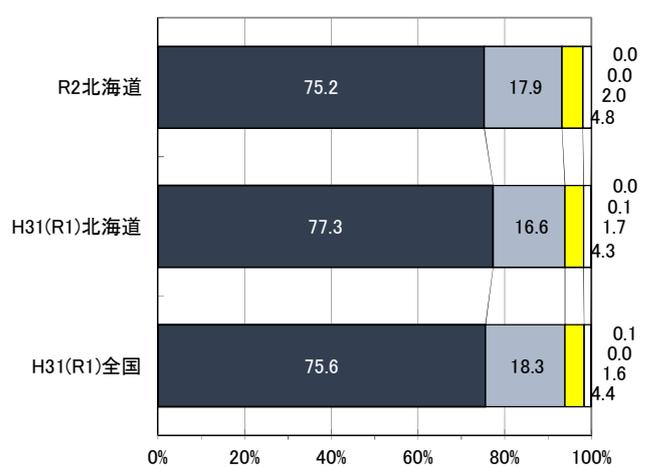
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で3.7ポイント、中学校で2.1ポイント低い。昨年度の全国と比べて、小学校で4.1ポイント、中学校で0.4ポイント低い。

■ 1. 当てはまる □ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない □ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



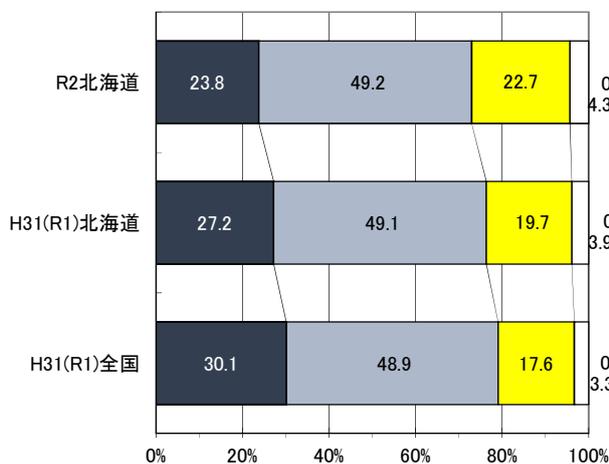
④「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」

（児童生徒 質問番号 小15、中15）

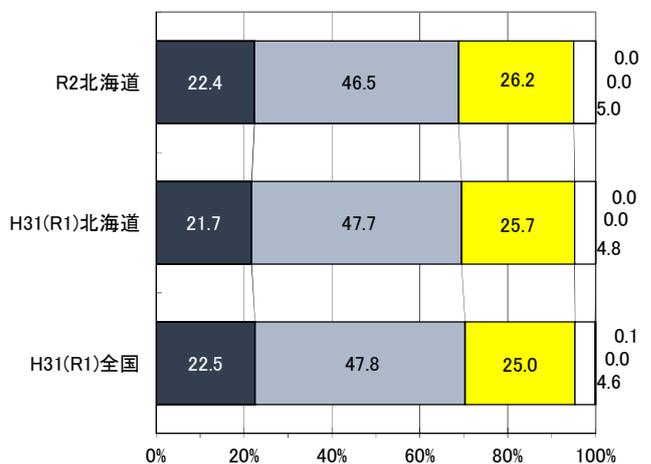
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で3.4ポイント低く、中学校で0.7ポイント高い。昨年度の全国と比べて、小学校で6.3ポイント、中学校で0.1ポイント低い。

■ 1. 当てはまる □ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない □ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



児童生徒質問紙調査（昨年度との比較）

※令和元年度の数値は、指定都市を含む値で、令和2年度は、指定都市を除く参考値

【児童生徒質問紙】

【自己有用感・粘り強さ、挑戦心・将来の夢や目標、規範意識等】に関する質問項目

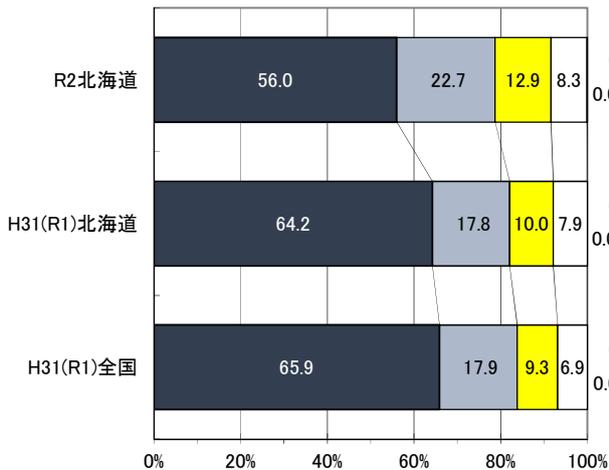
⑤「将来の夢や目標を持っている」

（児童生徒 質問番号 小13、中13）

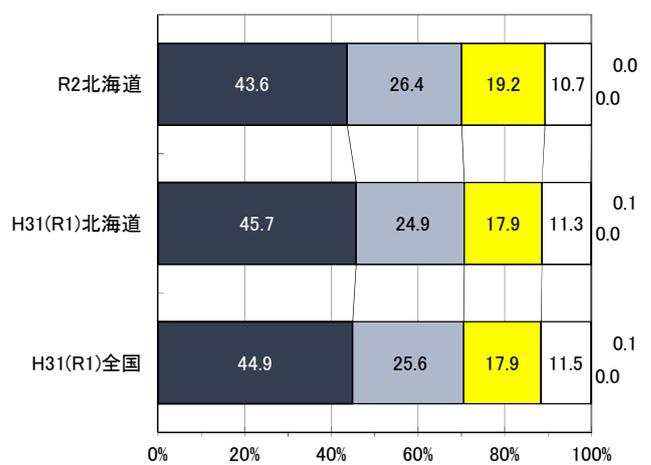
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で8.2ポイント、中学校で2.1ポイント低い。昨年度の全国と比べて、小学校で9.9ポイント、中学校で1.3ポイント低い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 ■無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



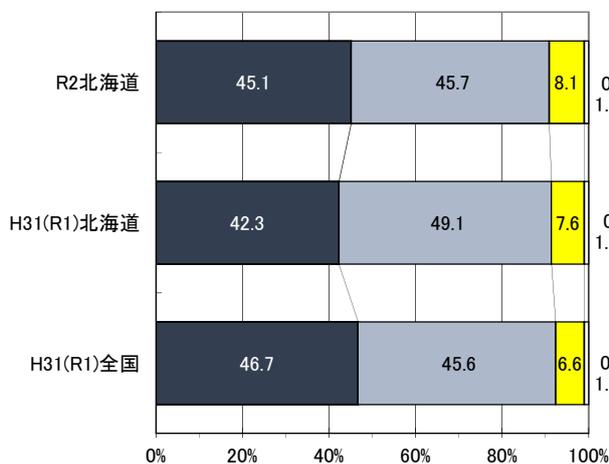
⑥「学校のきまり(規則)を守っている」

（児童生徒 質問番号 小16、中16）

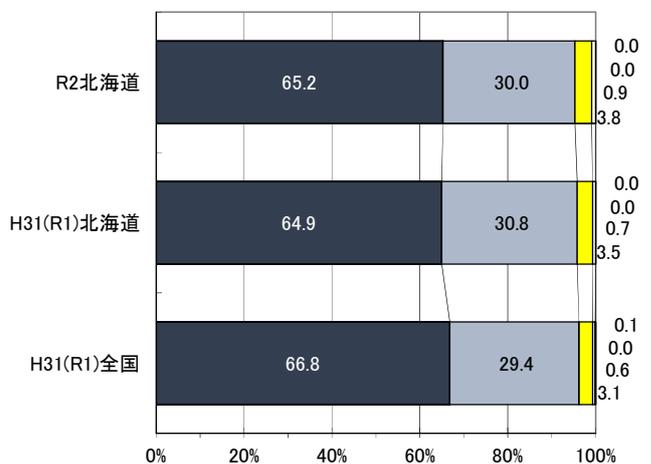
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で2.8ポイント、中学校で0.3ポイント高い。昨年度の全国と比べて、小・中学校ともに1.6ポイント低い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 ■無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



(2) 経年比較による改善状況

概要で取り上げた項目について、平成25年度または項目が設定された年度から令和2年度までの推移を示しています。

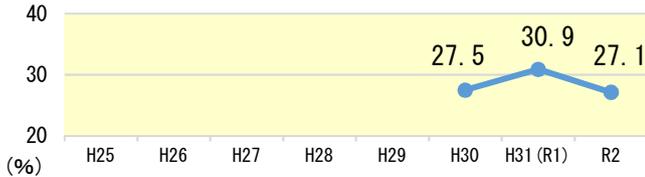
授業改善・学習に取り組む態度等について

※令和元年度までの数値は、指定都市を含む値で、令和2年度は、指定都市を除く参考値

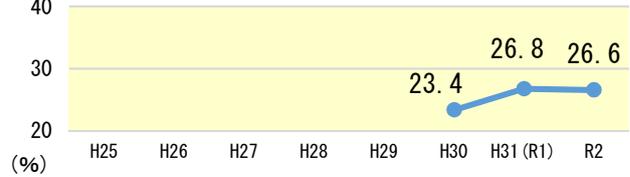
児童生徒質問紙調査

「あなたが5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」（「当てはまる」の割合）（質問番号 小31、中31）

【小学校】

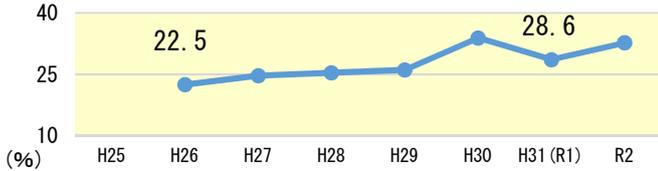


【中学校】

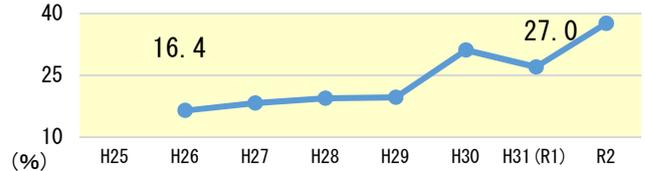


「学級の友達と〔生徒〕の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」（「当てはまる」の割合）（質問番号 小37、中37）

【小学校】



【中学校】



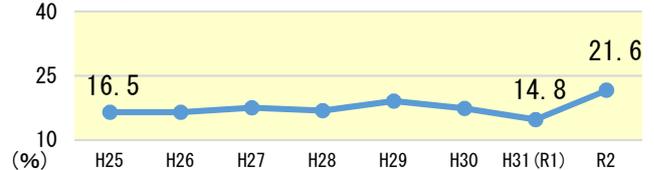
学習習慣・生活習慣等について

「家で自分で計画を立てて勉強していますか」（「している」の割合）（質問番号 小20、中20）

【小学校】



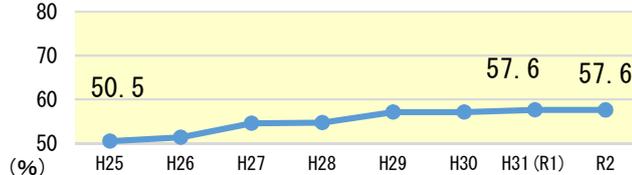
【中学校】



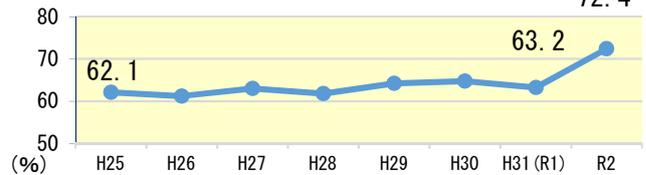
「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）」（「1時間以上」の割合）（質問番号 小21、中21）

「1時間以上」の割合

【小学校】



【中学校】



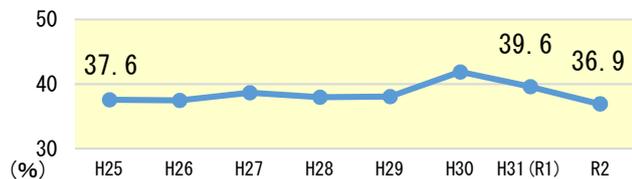
学習習慣・生活習慣等について

※令和元年度までの数値は、指定都市を含む値で、令和2年度は、指定都市を除く参考値

児童生徒質問紙調査

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」（「している」の割合）（質問番号 小2、中2）

【小学校】

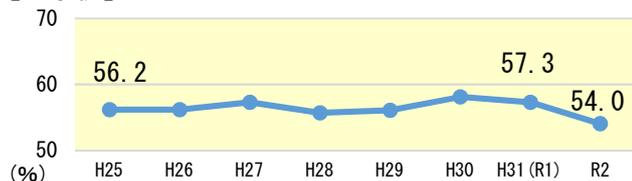


【中学校】

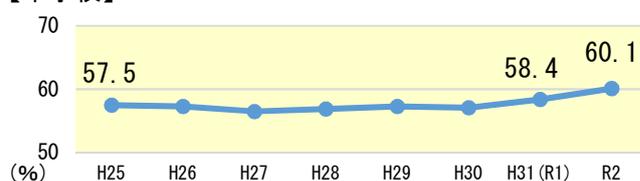


「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」（「している」の割合）（質問番号 小3、中3）

【小学校】



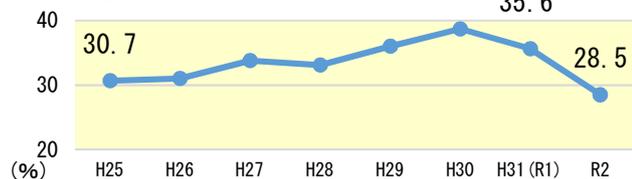
【中学校】



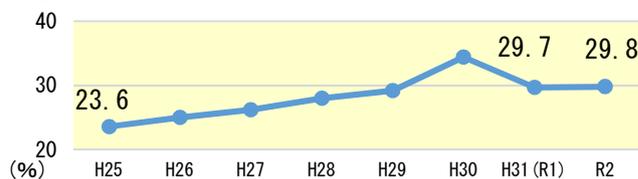
自己有用感・粘り強さ、挑戦心・将来の夢や目標、規範意識等について

「自分には、よいところがあると思いますか」（「当てはまる」の割合）（質問番号 小11、中11）

【小学校】

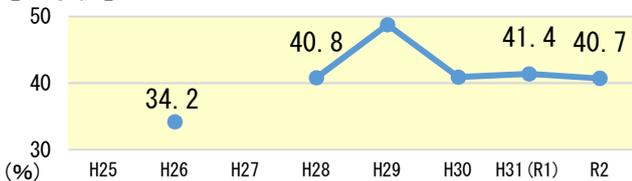


【中学校】

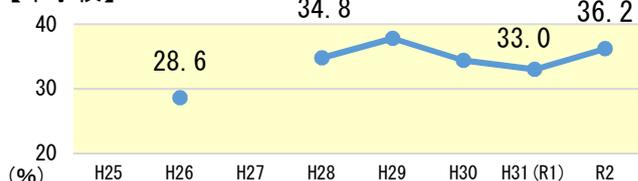


「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」（「当てはまる」の割合）（質問番号 小12、中12）

【小学校】



【中学校】



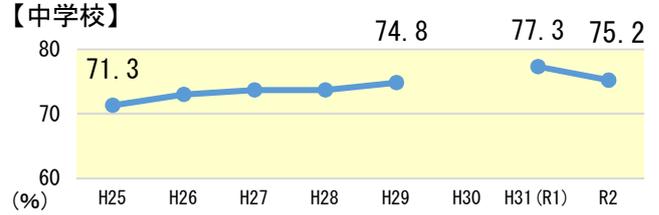
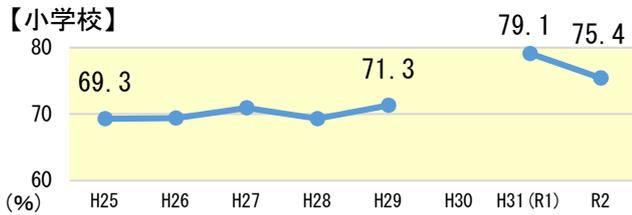
H25、H27は項目なし

※令和元年度までの数値は、指定都市を含む値で、令和2年度は、指定都市を除く参考値

自己有用感・粘り強さ、挑戦心・将来の夢や目標、規範意識等について

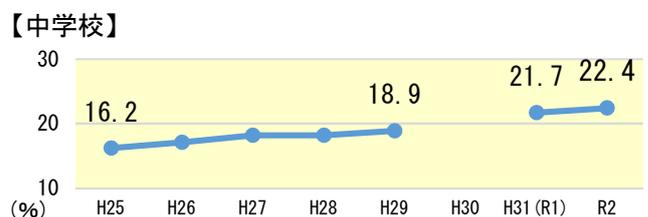
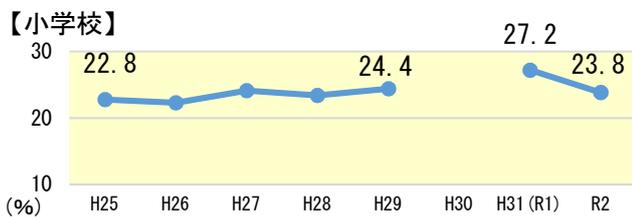
児童生徒質問紙調査

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」（「当てはまる」の割合）（質問番号 小14、中14）



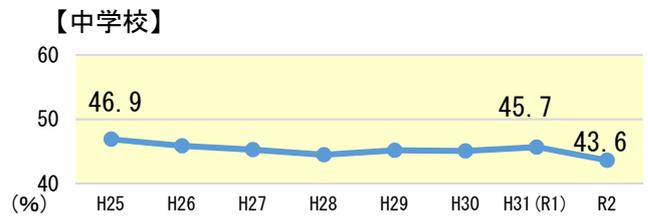
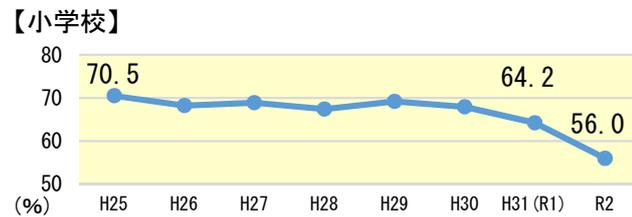
H30は項目なし

「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」（「当てはまる」の割合）（質問番号 小15、中15）

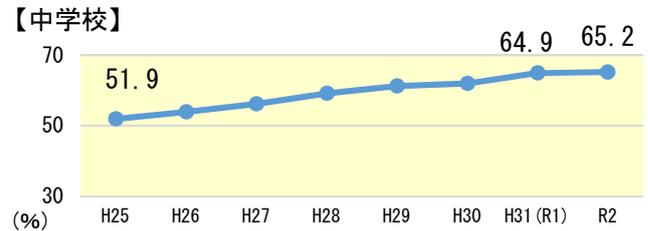
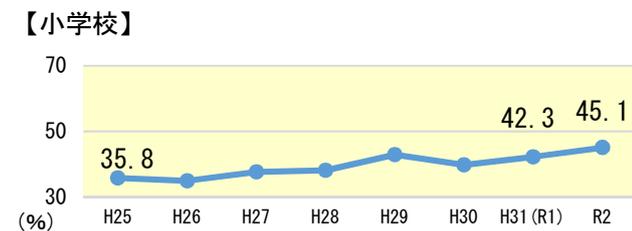


H30は項目なし

「将来の夢や目標を持っていますか」（「当てはまる」の割合）（質問番号 小13、中13）



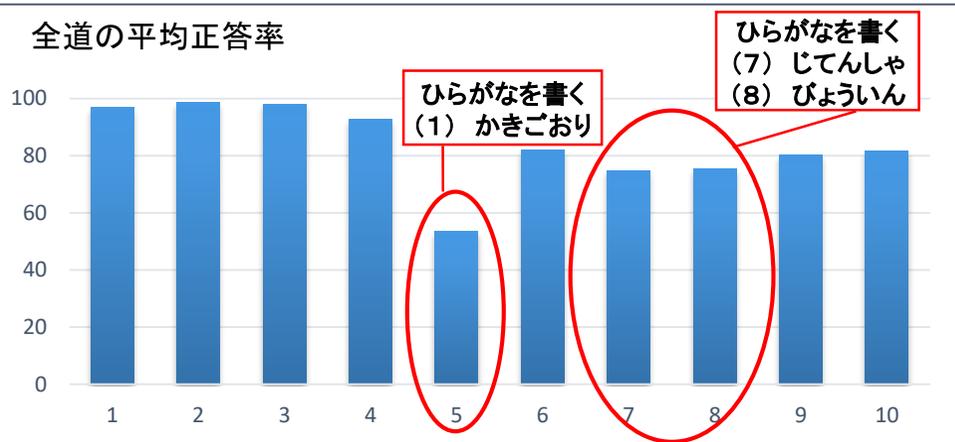
「学校のきまり〔規則〕を守っていますか」（「当てはまる」の割合）（質問番号 小16、中16）



II 「ほっかいどうチャレンジテスト」の結果を踏まえた授業アイデア例等

1 「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

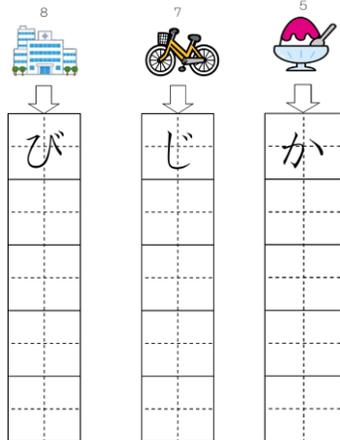
【小学校 第1学年 国語】



- 設問番号1～4の絵を見て平仮名で言葉を書くことはできています。平仮名の読み書きは、各教科等の学習の基礎となるものであり、第1学年でその全ての読み書きができるよう発音に関する指導と関連させるとともに、日々の学習の積み重ねの中で、次第にその規則性に気付く、身に付けていくことができるようにすることが大切です。
- 設問番号9、10の絵を見て文を書くことについては、文末に句点を書くことができるように指導することが大切です。

課題の見られた問題 大問一 設問5、7、8(設問番号5、7、8)

「絵を見て平仮名でいろいろな言葉を書く」場面



- 設問5 正答率:全道 53.4%
(設問番号5)
- 設問7 正答率:全道 74.9%
(設問番号7)
- 設問8 正答率:全道 75.4%
(設問番号8)

設問
一
つ
ぎ
の
え
を
み
て、
□
に
ひ
ら
が
な
を
か
い
て
こ
と
ば
を
か
ん
せ
い
さ
せ
ま
し
よ
う。

めあて「ひらがなをつかっていることばをかこう」

～えをみて、いろいろなことばや文をかこう～

〔知識及び技能〕 (1)、 (〔思考力・判断力・表現力等〕)

B 書くこと

ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

◎ 10月以降に指導可能な教材:「見つけたよ、いきもの ひみつ」(教育出版「1下」)、「しらせたいな、見せたいな」(光村図書「1下」)

授業アイデア例

ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(言語活動例)

学習過程

〔主な学習活動〕

〔指導上の留意点〕

第一次

- ① 学校などで見つけた〇〇について、家の人に紹介する文章を書くという課題を設定し、**学習の見通し**をもつ。
ポイント1

- 〇〇について、知っていることや疑問点などを出し合い、**自分が見つけたことを家の人に紹介する**という学習の見通しをもつことができるようにする。
- 読む人に、どのようなものが分かるようにするために、何を書けばよいか考えさせる。
ポイント2

第二次

- ② 教材文を読んで学習の流れを確かめ、知らせたいものを考える。
③ 家の人に紹介したいものを決め、絵や見つけたことをカードに記録する。
④ 見つけたことを文章に書く。

- 知らせたいものをよく見て、**色や形、触った感じ、様子などを短い言葉で書けばよいことに気付かせる**。
- 教材文を通して、見つけたことをどのように文章に表すとよいか考えさせる。
- カードを用いるなど、**文章の順序を考えさせる**。

第三次

- ⑤ 文章を読み返し、言葉が正しく使えているか見直す。
⑥ 家の人に書いた文章を読んでもらい、**学習を振り返る**。

- ひらがなや助詞の「は」、「へ」及び「を」、句読点を正しく使って文章を書くことができているかなど、**見直す視点を明確に示す**。
ポイント3
- 相手に分かりやすく紹介する上で、文章を読み返すときの視点について**振り返る場を設ける**。

〔授業改善の方向性〕

ポイント1 国語科における単元の見通しのもたせ方

身に付けたい力(資質・能力)の明確化

- 誰に対して、何のために書くのかなど、相手や目的などを意識しながら、単元を通して、どのような活動をするのかを児童と共有する。
- 単元を通じた言語活動を踏まえ、単元のゴールを明確にするとともに、各単位時間の学習の積み重ねを意識させることで、主体的な学びの実現に結び付ける。

ポイント2 書き表し方の工夫

指導事項の明確化

- 教材文(モデル文)の書き表し方の工夫を取り上げるなど、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書くポイントを理解できるようにする。

ポイント3 ひらがなや助詞等の正しい使い方・推敲

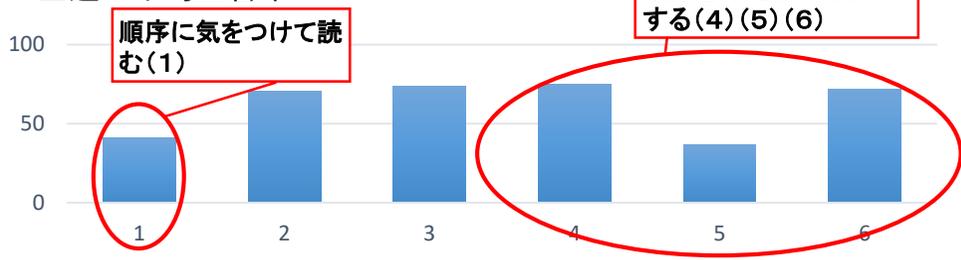
学びを振り返り、文や文章を見直したり、書き直したりする活動の設定

- 自分が書いた文や文章を読み返し、間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりするなど、学習を振り返り、よりよい文や文章に整えようとする意識を高める。

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【小学校 第2学年 国語】

全道の平均正答率



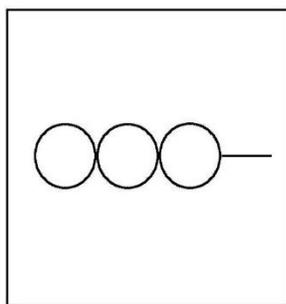
順序に気をつけて読む(1)

順序を考えながら説明する(4)(5)(6)

- 設問番号2の文章の全体に何が書かれているかを考えながら読むことはできています。時間的な順序や、事柄の順序などを考えながら読むことについては(設問番号1)、説明されている順序や大まかな文章の構造を理解させることが大切です。
- 順序を考えながら説明することについては(設問番号4、5、6)、聞き手を意識して聞き手に伝わるかどうかを想像しながら話の構成を考えるように指導することが大切です。

課題の見られた問題 大問二 設問2(設問番号4、5、6)

「聞く人に分かりやすい順序で説明する」場面



山下さんがかいた絵

山下さんの説明

① くだんこの 絵の かき方を せつめいします。

② ①、さらを かきます。大きい 四角の 中に、小さい 丸を 三つ、 つぎに、だんごを かきます。大きい 四角の 中に、小さい 丸を 三つ、 ならべて かいて ください。

③ 丸の よこに、みじかい よこの 線を かいて ください。

④ これに、くだんこの 絵の できあがりです。

⑤ くだんこに ささった くしを かきます。左から 三つ目の

設問

2 山下さんは、左のような 絵を かきました。上田さんの せつめいを 見ながら、①から ③に ことばを 入れて、せつめいする 文を かんせいさせましょう。

設問2 正答率:全道 74.9% (設問番号4)
正答率:全道 37.0% (設問番号5)
正答率:全道 71.8% (設問番号6)

めあて「聞く人に分かりやすい順序で説明しよう」

～相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えて説明できる～

(思考力・判断力・表現力等) **A 話すこと・聞くこと**

- ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
- イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。
- ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。

◎ 10月以降に指導可能な教材:「むかしのあそびせつめいしよう」(教育出版「2下」)、「楽しかったよ、二年生」(光村図書「2下」)

授業アイデア例 ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(言語活動例)

学習過程	主な学習活動	指導上の留意点
第一次	① ○○について、調べたことを友だちに説明するという課題を設定し、 学習の見通し をもつ。	■ 学校や家庭、地域における 身近なことや経験したことの中から、くわしく調べたい内容を想起 する場を設ける。 ポイント1
第二次	② ○○について、図書室などで調べる。 ③ 説明したいことをメモに書き、メモをもとに、○○について 話す事柄の順序に気を付けて説明する 練習をする。 ポイント2	■ 子どもの興味や関心の度合い、伝えたい思いの強さを手掛かり にして、説明する内容を定めることができるようにする。 ■ 内容が相手に伝わるようにするために、「 始め—中—終わり 」のような話の構成に関わる順序を考えて説明するよう促す。
第三次	④ ○○について、友だちに伝わるように、 話す事柄の順序に気を付けて説明 する。 ⑤ 説明をした感想や、説明を聞いた感想を述べ合い、 単元の学習を振り返る 。	■ 大事なところは特に大きな声でゆっくり話すなど、 何を伝えたいのかを意識 させ、声の大きさや速さについて工夫して説明するよう促す。 ■ 話の順序をよく考える活動を通して、自分の伝えたいことを表現できたという 実感をもてる 場を設ける。 ポイント3

授業改善の方向性

- ポイント1 必要な事柄を選ぶための支援の工夫**

教材や発問の工夫

 - 子どもの発達や学習の状況に応じて、体験したことを写真や具体物を見て思い出すことができるようにしたり、対象とする内容の特徴を考えさせる発問をしたりするなど、話す話題を選ぶための支援を工夫する。
- ポイント2 伝えたいことや相手を意識した「話すこと」の指導**

相手に伝えることを意識した指導の充実

 - 相手に伝わるかどうかを考えながら、話を構成することができるようにする。
 - 相手として、教師や同級生、幼児など身近な人々を想定するとともに、人数については、ペアから小グループ、学級全体へと広げるなどして、様々な相手に話す経験を積み重ねながら、相手を具体的に意識することができるようにする。
- ポイント3 主体的な学びを充実させる指導**

相手に伝わる実感をもたせる指導 振り返りの時間の確実な設定

 - 相手に伝わるように「始め—中—終わり」といった話の構成に関わる順序などを考える学習活動を単元の指導計画に設定する。
 - 話す順序をよく考えることで、自分の伝えたいことが相手に伝わる実感を味わわせ、工夫して話そうとする態度を醸成し、主体的な学びを充実させる。

「1 学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【小学校 第3学年 国語】

全道の平均正答率



ふしぎに思うことや気になることについて調べ、レポートにまとめる手順について選ぶ(2)

「問い」のはたらきをしている段落を選ぶ(4)

- 設問番号2のレポートにまとめる手順については、学習指導要領に示されている「書くこと」の指導事項「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」の学習過程に沿って、重点化を図りながら指導することが大切です。
- 設問番号4の段落のはたらきについては、第4段落が問いのはたらきをしていること、第5段落がその答えとなる事例を示していることに気付かせることが大切です。

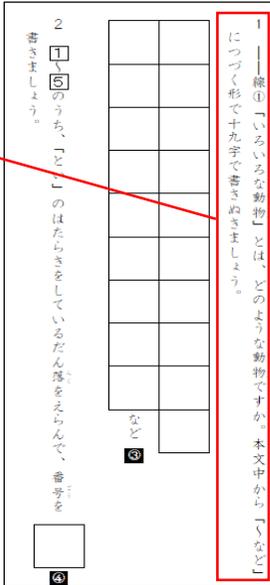
課題の見られた問題 大問二 設問1、2(設問番号3、4)

「段落と段落の関係に気を付けながら読む」場面

段落3が段落2の「いろいろな動物」を具体的に説明している段落であることに気付かせることが大切です。
段落相互の関係に着目し、書き手の考えがどのような理由によって説明されているか、どのような事例によって具体化されているかなど、叙述を基に正確に捉えさせる指導が必要になります。

段落と段落の関係に気を付けて読む際には、児童が言語意識を働かせながら段落相互の関係に着目できるよう、教材の特徴を踏まえた適切な言語活動を単元に位置付ける必要があります。

設問1 正答率:全道 66.9% (設問番号3)
設問2 正答率:全道 55.3% (設問番号4)



設問1 次の文章を読んで、あとの問題に答えましょう。
説明文の一部【省略】

めあて「段落と段落の関係に気を付けて読む」

～ 段落相互の関係に着目しながら、筆者の説明の工夫について読む～

〔思考力・判断力・表現力等〕 C 読むこと

ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。
オ 文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつこと。

◎ 10月以降に指導可能な教材:「川をさかのぼる知恵」(教育出版「3下」)、「すがたをかえる大豆」(光村図書「3下」)

授業アイデア例 ウ 学校図書館などを利用し、辞典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。(言語活動例)

学習過程	〔主な学習活動〕	〔指導上の留意点〕
第一次	① 筆者の説明の工夫について調べたことを紹介し合うという課題を設定し、学習の見通しをもつ。 ポイント1	■ 様々な科学的読み物について、知っていることやよさなどを出し合い、筆者の説明の工夫について紹介し合うという学習の見通しをもつことができるようにする。 ■ 学校図書館等を利用し、筆者の説明の工夫に着目しやすい本を教師が選書しておく。 ポイント2
第二次	② 文章全体の組み立てに着目して、教材文を読む。 ③ 「初め」、「中」、「終わり」、それぞれの段落の役割や働き、どのような事例が挙げられているのかに着目しながら読む。 ポイント3	■ 教材文を通して、段落相互の関係、事例などの取り上げ方など、筆者が文章全体の組み立てを工夫していることに気付けるようにする。 ■ 教材文から、段落の役割や働き、段落相互の関係、事例の上げ方などを読み取るとともに、筆者の説明の工夫を紹介するときに、それらがどのように筆者の考えとつながっているかを紹介することを意識付ける。
第三次	④ 筆者の説明の工夫についてまとめ、紹介し合う。 ⑤ 様々な科学的読み物を読み、感想を友だちに伝える。 ⑥ 単元の学習を振り返る。	■ 筆者の説明の工夫について紹介し合う際には、感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付けるような活動を取り入れる。 ■ 段落と段落の関係に気を付けて読むことよきについて振り返る場を設ける。

〔授業改善の方向性〕

- ポイント1 国語科(説明的な文章)における単元の見通しのもたせ方
- 身に付けたい力(資質・能力)の明確化
 - 単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した教材研究
 - 何のために読むのか、読んだことを生かしてどのような活動をするのかを児童と共有する。
 - 教師自身が、実際に言語活動に取り組み、指導事項との関連性を確認する。また、成果物等がある場合は、単元の導入でモデルとして示すことも考えられる。
- ポイント2 知りたいことや調べたいことを明確にする(問題を見出す)ための支援
- 教室環境の工夫
- 掲示板など、情報を共有する場を作ったり、関連図書を集めて展示したりする。
- ポイント3 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉える力の育成
- 言語活動を通して、重点とする指導事項を指導する指導計画の工夫
- 単元を通した言語活動と一単位時間の言語活動を有機的に結び付けることで、それぞれの学習活動の意味をもたせながら、言語活動を通して重点とする指導事項を指導する指導計画を構想する。

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

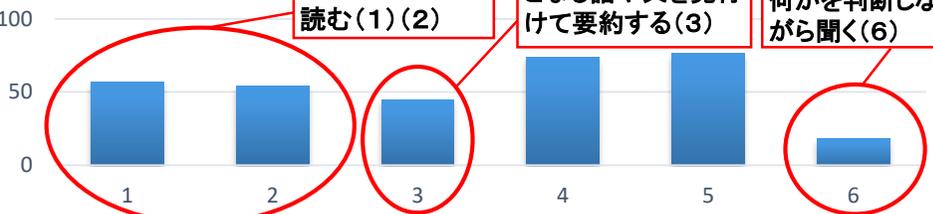
【小学校 第4学年 国語】

全道の平均正答率

段落相互の関係に着目しながら読む(1)(2)

目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する(3)

重要な語句は何かを判断しながら聞く(6)



□ 設問番号6の必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことは、目的に応じて必要な内容を記録するために、重要な語句は何かを判断しながら聞いたり、聞いた後に話の内容を振り返ったりするよう指導することが大切です。
自分が聞きたいことの中心を明確にして聞くためには、どのような目的で聞くのか、自分が聞いたことは何かなどをよく確かめて聞くことが重要です。

課題の見られた問題 大問一 設問1、2(設問番号1、2、3)

「説明のまとまりを見付けながら読む」場面

【設問】

1 小野さんは、「ヤドカリ」とインゲンチャクはどのようにして、いっしょになるのか、谷口さんは、「なぜ、ヤドカリはインゲンチャクを貝から付けているのか」についてまとめることにしました。二人は【文章】のどの段落を中心に読めばよいですか。最もふさわしい段落を、①から⑥までの中からそれぞれ一つえらんで、その番号を書きましょう。

①

②

③

④

⑤

⑥

【文章のまとまりを整理した表】

まとまり2	まとまり1
⑥段落 ⑤段落	①段落 ②段落
インゲンチャクをはがして、自分の貝がらにおしつけてうつすヤドカリ	A

設問1 正答率: 全道 57.1% (設問番号1)

設問2 正答率: 全道 54.0% (設問番号2)

正答率: 全道 44.8% (設問番号3)

めあて「説明のまとまりを見付けながら読む。」

～目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する～

【思考力・判断力・表現力等】 **C 読むこと**

ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。
ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

◎ 10月以降に指導可能な教材:「ウミガメの命をつなぐ」(教育出版「4下」)、「世界にほこる和紙」(光村図書「4下」)

授業アイデア例 ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(言語活動例)

学習過程	主な学習活動	指導上の留意点
第一次	① 自分が興味をもったことについて、中心となる語や文を見付けて要約し、紹介し合うという課題を設定し、 学習の見通し をもつ。 ポイント1	■ 単元名から学習の内容を確認し、 自分が興味をもったことについて要約して紹介し合う という学習の見通しをもつことができるようにする。 ■ 要約について、 分量を考 えて、元の文章の組み立てを生かしたり、自分の言葉を用いたりして 短くまとめる ことを確認する。
第二次	② 筆者が伝えたいこと(筆者の考え)は何かを考えながら、 段落相互の関係に着目して、考えとその理由、事例との関係を捉えて読む 。 ③ 興味をもったことを中心に、 中心となる語や文を見付けて要約する 。 ポイント2	■ 教材文から、筆者の考えが、どのような理由や事例を用いて説明されているのか、 正確に捉えることができる ようにする。 ■ 要約する際には、必要な言葉や文だけを引用することや、自分の言葉で短く言いかえてもよいことを確認する。
第三次	④ 「 要約 」を取り入れて、教材文を読んで自分が興味をもったことについて紹介する文章を書く。 ⑤ 自分が興味をもったことを紹介し合い、 単元の学習を振り返る 。	■ 興味をもったことを紹介し合う際には、何に興味をもち、それを分かりやすく要約できているかについて、 互いに交流する活動 を取り入れる。 ■ 中心となる語や文を見付けて要約することのよさ について 振り返る場 を設ける。 ポイント3

【授業改善の方向性】

ポイント1 国語科(説明的な文章)における単元の見通しのもたせ方

身に付けたい力(資質・能力)の明確化 **単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した教材研究**

□ 何のために読むのか、読んだことを生かしてどのような活動をするのかを児童と共有する。
□ 教師自身が、実際に言語活動に取り組み、指導事項との関連性を確認する。また、成果物等がある場合は、単元の導入でモデルとして示すことも考えられる。

ポイント2 中心となる語や文を見付けて要約する力の育成

目的を明確にした言語活動の工夫

□ 文章の内容を端的に説明するといった要約する目的を意識して、文章の構造や内容を基に内容の中心となる語や文を選んで、要約の分量などを考えて要約する活動を意図的・計画的に位置付ける。

ポイント3 児童に学習の成果を自覚させ、新たな課題をもたせる工夫

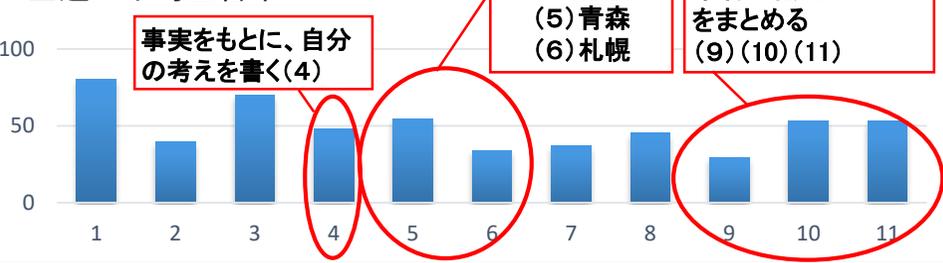
視点を明確にした振り返りの工夫

□ 学習して分かったことや次に生かしたいことなど、何について振り返るのかを明確にし、児童が学習の成果を実感したり新たな課題をもったりできるようにする。

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【小学校 第5学年 国語】

全道の平均正答率



- 設問番号3の円グラフから分かる「事実」について自分の言葉でまとめることはできています。「事実」をもとに、自分はどのように考えるかについては(設問番号4)、国語科だけでなく、社会や算数など、様々な教科等の学習で取り上げて指導することが大切です。
- ローマ字(設問番号5、6)については、高学年においても、日常目にする簡単な単語について、学校生活の中で、取り上げる機会を設けましょう。

課題の見られた問題 大問三 設問3、4(設問番号9、10、11)

「筆者の伝えたいことについて話し合う」場面

設問

4 次は、「話し合いの様子」の中の「原さんのノート」です。「原さんのノート」の「ア」に入る言葉を「説明文の一部」に書きましよう。(完全解答)

3 「話し合いの様子」の中の「線部」が分かったこととは、どのようなことですか。「説明文の一部」に書かれている言葉を使って二つ書きましよう。(完全解答)

原さんのノート

〔筆者が考えたこと〕

動物たちにとって大切なのは、速く泳ぐことではなく、できるだけ移動すること。

動物たちにとって、時速四・〇から八・〇キロメートルで泳ぐのは、エネルギーの消費を最小限におさえる。

イ 速度である。

海の中でくらす動物たちの行動には意味があることが分かってきた。

説明文の一部(省略)

話し合いの様子の一部

横山 筆者の言うとおりに、動物に取り付ける記録計のて小さくなっていくと、考えもつかないと思うな。

原 そうだね。知りたいことがどんどん増えてくるね。

田中 この説明文では、マッコウクジラに取り付けた装置の記録計から分かったことが二つ書かれていたね。

木村 どこにそのことが書いてあるの。

田中 (書かれている場所を示しながら説明) ほら、ここに書いてあるよ。

木村 本当だ。マッコウクジラ以外にも、たくさん動物に記録計を取り付けただよね。

横山 その結果、体の大きさに関係なく、泳ぐ速さは時速四・〇から八・〇キロメートルのせいまい範囲におさまっていることが分かったんだよね。

原 ぼくは、この結果から筆者が考えたことをノートにまとめてみたんだ。

設問3 正答率: 全道 29.6% (設問番号9)

設問4 正答率: 全道 53.5% (設問番号10)

正答率: 全道 53.0% (設問番号11)

めあて「筆者の伝えたいことをまとめよう。」

～目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けながら読む～

(思考力・判断力・表現力等) **C 読むこと**

ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

◎ 10月以降に指導可能な教材:「まんがの方法」(教育出版「5下」)、「固有種が教えてくれること」(光村図書「5年」)

授業アイデア例

ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(言語活動例)

学習過程	主な学習活動	指導上の留意点
第一次	① ○○について調べたことを紹介し合うという課題を設定し、 学習の見通し をもつ。 ポイント1	<ul style="list-style-type: none"> ■ ○○について、知っていることや疑問点などを出し合い、自分が興味をもったことについて調べて紹介し合うという学習の見通しをもつことができるようにする。 ■ 調べたいことについて、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかを明確にできるようにする。 ポイント2
第二次	② 教材文から、筆者が伝えたいこと(筆者の考え)と必要な情報が書かれた 文章と図表などを結び付けて読む。 ポイント3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教材文を通して、図表を用いることで、筆者が自分の考えに説得力をもたせていることに気付くことができるようにする。 ■ 教材文から、筆者が伝えたいことを読み取るとともに、自分が調べたいことについて、紹介するときには図表と結び付けて紹介することを意識付ける。
第三次	④ 自分が調べたいことについて整理した情報を用いて、 紹介の仕方 を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調べたことを紹介し合う際には、資料として用いた図表が、紹介した内容のどの部分と結び付いていたのかについて、互いに評価し合う活動を取り入れる。 ■ 図表と結び付けて説明することのよさについて振り返る場を設ける。
	⑤ 調べたことを紹介し合い、 単元の学習を振り返る。	

(授業改善の方向性)

ポイント1 国語科(説明的な文章)における単元の見通しのもたせ方

身に付けたい力(資質・能力)の明確化 単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した教材研究

- 何のために読むのか、読んだことを生かしてどのような活動をするのかを児童と共有する。
- 教師自身が、実際に言語活動に取り組み、指導事項との関連性を確認する。また、成果物等がある場合は、単元の導入でモデルとして示すことも考えられる。

ポイント2 知りたいことや調べたいことを明確にする(問題を見出す)ための支援

教室環境の工夫

- 掲示板など、情報を共有する場を作ったり、関連図書を集めて展示したりする。

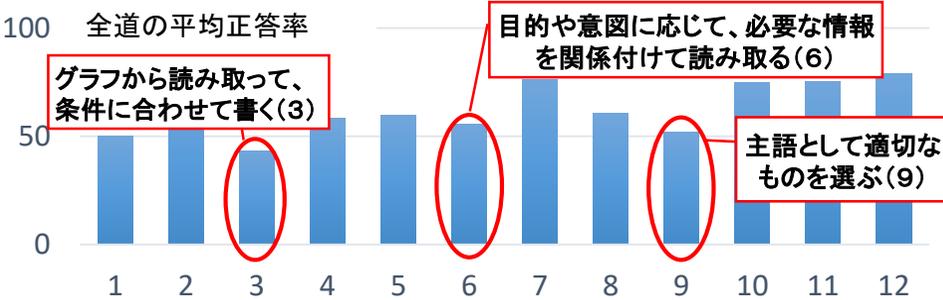
ポイント3 文章と図表などを効果的に結び付けて読む力の育成

教材文を通して学んだことを、一人一人の学習活動に生かす場の保障

- 教材文に出てくる図表の効果について、話し合うとともに、児童が調べたことを紹介する際に図表を用いるように促す。

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【小学校 第6学年 国語】



- 設問番号6の条件に合わせて書くは、書く目的や意図を明確にした上で、事実と感想、意見との関係を十分捉えて書くことが大切です。
- 設問番号9の主語として適切なものを選ぶは、主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係について指導することが大切です。

課題の見られた問題 大問一 設問3(設問番号3)

「グラフから読み取って、条件に合わせて書く」場面

設問3 正答率:全道 43.2% (設問番号3)

設問で問われていることについて、グラフから読み取って書かせる必要があります。

授業では、読み手に呼びかけるときに、図表やグラフなどの資料が、どのような役割をもっているかについて考える場を設けることが大切です。また、児童が図表やグラフを本や文章などから引用して使う場合は、出典を明示するよう指導することが大切です。

【設問】

3 石川さんは、「防災を呼びかけるポスター」の①の中には、大地震に備えてとっている対策における課題を書くことになりました。②に入る内容を、次の【条件】に合わせて書きましよう。

【条件】

○ 「防災を呼びかけるポスター」の「大地震に備えてとっている対策（内閣府の資料による）」のグラフから考えて書くこと。

○ 書き出しの言葉に続けて二十文字以上、三十文字以内をまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にふくまれない。

【グラフ】

（省略）

【防災を呼びかけるポスター】

めあて「表現の効果を考えて報告しよう」

～引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように工夫しよう～

（思考力・判断力・表現力等） **B 書くこと**

- ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
- エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

◎ 10月以降に指導可能な教材:「自分の考えを発信しよう」(教育出版「6下」)、「大切にしたい言葉」(光村図書「6年」)

授業アイデア例 ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(言語活動例)

学習過程	〔主な学習活動〕	〔指導上の留意点〕
第一次	① 学校生活で気になることを調べて、学級の友だちに報告する文章を書くという課題を設定し、 学習の見通し をもつ。 ポイント1	■ 委員会活動での取組などから、学校生活で気になることについて話し合う場を設け、必要なことを調べて学級の友達に報告するという学習の計画を立てるようになる。 ■ 本問をモデルとして示し、報告する文章の大まかな特徴を捉えることができるようにする。
第二次	② 調べて分かったことを整理し、自分の考えをもつ。 ポイント2 ③ 必要な事柄を取捨選択をしながら、 自分の考えを明確にする 。 ④ 報告する文章全体の構成表を作る。 ⑤ 報告する文章を書く。	■ 報告する内容に照らして、必要な情報を得ることができたかどうかを確かめるように促し、必要があれば追加調査を行うようにする。 ■ 調査の結果から「分かったこと」を付箋などを用いて整理しながら、自分の考えを明確にすることができるようにする。 ■ 報告する文章の特徴を踏まえて、構成表を作ることができるようにする。 ■ 事実と考えを区別しながら書いたり、 図表やグラフを用いて書いたりすることができるようにする 。 ポイント3
第三次	⑥ 互いに読み合い、単元の学習を振り返る。	■ 完成した報告する文章を読み合い、本単元で身に付いた力について振り返ることができるようにする。

〔授業改善の方向性〕

ポイント1 国語科（説明的な文章）における単元の見通しのもたせ方

適切な題材を選択する工夫

- 児童の「調べてみたい」という思いを大切にすため、身近な生活に題材を求めたり、調べる価値や報告する必要性が実感できる題材を選んだりすることが考えられる。

ポイント2 自分の考えを明確にする（問題を見出す）ための支援

必要な事柄を取捨選択する工夫

- 自分の考えをまとめる際には、事柄の内容を関係付けて考えるようにしたり、選んだ事柄が自分の考えの理由や事例としてふさわしいか吟味することで、字数制限などの条件に合わせて書くことができる。

ポイント3 文章と図表などを効果的に結び付けて読む力の育成

図表やグラフを用いて書く工夫

- 報告する文章を書く際は、必要に応じて図表やグラフを用いたり、読み手に伝わりやすい記述の仕方を考え、「調べて分かったこと」と「自分の考え」を区別し、文末表現などに気を付けて書き分けたりすることが大切である。

「1 学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【中学校 第1学年 国語】

全道の平均正答率



具体例を読み取る(2)

語句の意味を的確にとらえる(3)

メモを使ってスピーチの構成を考える(5)(6)

- 設問番号2の説明的な文章については、論の展開の中心となる部分とそれを支える例示などを読み分けるため、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、さらに大きな意味のまとまりごとに、文章全体における役割を捉えさせて指導することが大切です。
- 設問番号3の文脈の中における語句の意味を捉えるについては、その語句の一般的な意味を踏まえ、思考力や想像力を働かせて、文脈の中における、具体的な、個別的な意味について考えるよう指導することが大切です。

課題の見られた問題 大問二 設問2、3(設問番号5、6)

「メモを使ってスピーチの構成を考える」場面

3 【構想メモ】を使ってスピーチをするよさについて述べてはまるものを、次のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア 集めた材料を整理し、スピーチする内容を検討することができる。

イ 自分の立場や根拠を明確にし、相手を説得することができる。

ウ 事実と感想、意見とを区別して話を構成することができる。

エ 異なる立場や考えを想定しながらスピーチすることができる。

2 【スピーチメモ】の「初め」の内容をもとにスピーチをします。「が、私とマウンテンバイクとの出会いです。」につなげるスピーチになるように□に文を書きなさい。

(省略)

【構想メモ】とスピーチメモ

設問2 正答率: 全道 60.2% (設問番号5)

設問3 正答率: 全道 67.1% (設問番号6)

めあて「目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を集めて整理し、構成を考えて話そう。」
～全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、話す～

A 話すこと・聞くこと

イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。
オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。

◎ 10月以降に指導可能な教材
「アイデアを出して話し合う」(教育出版「伝え合う言葉 中学国語1」)、「話題や方向を捉えて話し合う」(光村図書「国語1」)

授業アイデア例 イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。(言語活動例)

学習過程	(主な学習活動)	(指導上の留意点)
第一次	① ○○についてアイデアを出して話し合うという課題を設定し、 学習の見通し をもつ。 ポイント1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常生活の中から課題となっていることをテーマとして設定し、解決に向けたアイデアを出して話し合うという学習の見通しをもつことができるようにする。 ■ 「話し合いデザインシート」を作成し、何について、どのような方向で話し合うのかを明確にできるようにする。
第二次	② 課題の解決に向けて、自分が伝えたいことを 事実と意見との関係に注意して整理 する。 ③ 課題の解決に向けて「話し合いデザインシート」に沿って、話し合う。 ポイント2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の伝えたい意見を述べるのにどのような事実を根拠として取り上げればよいのか、聞き手を意識しながら考えられるようにする。 ■ 「話し合いデザインシート」を基に、話し合いの進行状況や深まり具合などを確認し、必要に応じて話し合いの仕方を修正する場を設定する。
第三次	④ 「話し合いデザインシート」を基に話し合いについて 振り返る 。 ⑤ 話し合いを踏まえ、 自分の意見がどのように変わったり、まとまりましたか振り返る 。 ポイント3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 話し合いを振り返る際には、話し合いの目的を理解して何について、どのような方向で話し合っていたか、話し合いの仕方を見直すことができるようにする。 ■ 自分の考えが変容していく過程をノートに記述させ、単元を通して学んだことを振り返る場を設定する。

※ 「話し合いデザインシート」については、「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」を参照

(授業改善の方向性)

ポイント1 国語科(話すこと・聞くこと)における単元の見通しのもたせ方

身に付けさせたい力(資質・能力)の明確化 単元のゴールを見据えた課題解決の学習過程の構築

- 話し合う目的や学習と日常生活、社会生活との関連を明確に示し、生徒に課題意識をもたせる。
- 単元を通して設定した言語活動と毎時間の学習がつながるよう単元をデザインし、目指すゴールまでの学習過程を生徒と共有する。

ポイント2 話し合いの仕方を意識させる手立ての工夫

話し合いの可視化

- 「話し合いデザインシート」を活用することで、話し合いの全体をイメージしやすくなり、生徒が話し合いの流れを意識しながら話し合えるようになる。また、「話し合いデザインシート」に基づいて、話し合いの仕方を見直すことで、振り返る場面でも活用することができる。

ポイント3 単元を通して学んだことを自覚するための振り返り

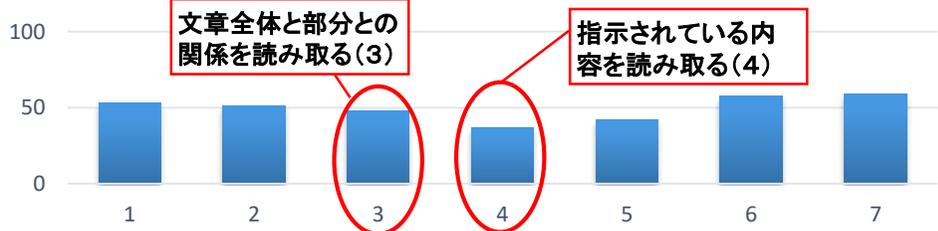
自分の学びを振り返る時間の確保 振り返る活動の充実

- 1単位時間の時間配分を工夫し、生徒が自分の学びを振り返る時間を確保する。振り返りの場面では、何が分かったのか、何ができるようになったのかを具体的に記述するよう促す。

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【中学校 第2学年 国語】

全道の平均正答率



文章全体と部分との関係を読み取る(3)

指示されている内容を読み取る(4)

- 設問番号3の文章全体と部分との関係を読み取るについては、文章中に示されている具体的な例が書き手の論の展開の中で果たしている役割を考えさせるなど、例示の効果について指導することが大切です。
- 設問番号4の指示されている内容を読み取るについては、各段落が文章全体の中で果たす役割について捉え、叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているかなどを考えながら読むよう指導することが大切です。

課題の見られた問題 大問一 設問2、3(設問番号3、4)

文章全体と部分との関係に気を付けて読む

設問

ア 米作りを中心にするが、家畜を飼い、裏山から肥料となる枯れ葉を集め、時々ドジョウやフナを捕るなど、米作りが行われていたこと。

イ 大規模な土木工事によって、甲んぼの水が管理しやすいように用水路を作り変え、効率的に米を作ることができるようになったこと。

ウ 一九六〇年代から始まった農業整備事業によって、工場や米といろいろの製品を作ることに。

エ 用水路をより字管にしたことで、大量の水が勢よく流れるようになり、甲んぼで生きていける動物がいなくなったこと。

オ 米作りは、先祖から引き継いだ土地に祈りを込め、収穫物に感謝をささげるといふ心を支えられたものであったこと。

文章

(省略)

設問2 正答率:全道 47.9% (設問番号3)

設問3 正答率:全道 36.5% (設問番号4)

めあて「文章全体と部分との関係に気を付けて文章を読む」

～各段落が文章全体の中で果たす役割を捉えながら読む～

C 読むこと

イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。

◎ 10月以降に指導可能な教材:「学ぶ力」(教育出版「中学国語2」)、「君は『最後の晩餐』を知っているか」(光村図書「国語2」)

授業アイデア例

イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること(言語活動例)

学習過程

(主な学習活動)

(指導上の留意点)

第一次

① 筆者のものの見方や考え方について、自分の知識や体験と関連付けて考えをまとめるという課題を設定し、**学習の見直しをもつ**。

ポイント1

- 目的に応じて文章の内容を読み取ることができるよう、単元の冒頭で学習の見直しをもたせる。
- 生徒がこれまでに身に付けた知識や様々な体験とを関連付けるなど、具体的なものに基づいて考えを形成できるような学習計画を設定する。

第二次

② 全文通読し、文章の構成や展開に注意しながら**概要を捉える**。

③ 論理の展開の仕方や例示されている事例等に注目しながら、**筆者の考えを読み取る**。

ポイント2

- 各段落が文章全体の中で果たす役割について考えながら読むことができるようにする。
- 主張と例示の関係を捉えるとともに、論の展開がどのような説得力や効果をもたらしているかなど、自分の考えを明確にしながら読ませるようにする。

第三次

④ 筆者のものの見方や考え方に対して、**自分の考えをまとめる**。

ポイント3

⑤ **まとめたものを交流する**。
⑥ **単元の学習を振り返る**。

- 文章について理解したことや考えたことを、関連する知識や経験と結び付けるなど、具体的なものに基づいて考えをまとめさせる。
- 考えが多様なものになることから、まとめたものを交流する場を設ける。

(授業改善の方向性)

ポイント1 育成を目指す資質・能力を明確にした言語活動の設定

育成を目指す資質・能力の明確化 単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した教材研究

□ 相手意識や目的意識を明確にした言語活動や社会生活と関連を図った言語活動を設定する。

ポイント2 目的に応じて文章の内容を読み取る力の育成

読む観点の明示

- 文章の内容を的確に読み取るため、文章の構成や展開を捉えて内容を理解できるよう指導する。
- 筆者が挙げる事例の適切さや事例が主張とどのように結び付いているかなど、文章の構成や表現の特徴などについて着目するよう指導する。

ポイント3 「考えの形成」の重視

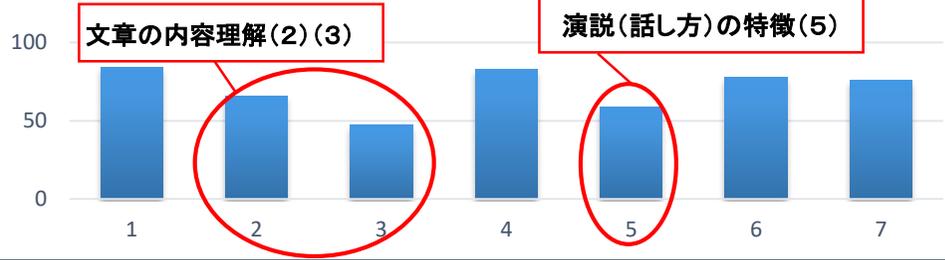
考えを広げたり深めたりする題材の設定 複数の文章の比較

- 自分の考えを広げたり深めたりするために、文章を読んで理解したことや考えたことを、関連する知識や経験と結び付けることができる題材を設定する。
- 文章を読んで自分の考えをもつために、文章の構成や論理の展開、表現の効果等について、複数の文章を比較しながら読むなど、単元の学習活動を工夫するとともに、日常の読書活動との関連を図る。

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【中学校 第3学年 国語】

全道の平均正答率



文章の内容理解(2)(3)

演説(話し方)の特徴(5)

- 設問番号3の登場人物の言動の意味については、登場人物の言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのようにかかわっているかを考えることが、文章の理解を深めることになります。文章全体への理解を深めるためには、場面や登場人物の設定について考えさせることも効果的です。
- 設問番号5の表現の仕方を評価することについては、話の論理的な構成や展開などの面だけでなく、語句や文の使い方、声の出し方や言葉遣い、資料や機器の活用の仕方などにも目を向けさせるようにしましょう。

課題の見られた問題

大問一 設問2、3(設問番号2、3)

「表現の仕方や特徴に注意して、内容を正確に読む」場面

設問

設問2 設問3

設問2 設問3

文学的文章の一部

「ではみなさん、さういふふうで川だと言われたり、鹿の流れたあどと言われたりして、おのぼんやりと白くながる川は何かと知らずか、先生は、黒板に流した大きな黒い墨の跡のカムパネルラが手をあげました。それから四一五人手をあげました。ジョバンニも手をあげました。息でそのままだけました。たしかにあれがみんな星だ。いつか雑誌でも読んで読んだのだ。だが、このころはジョバンニはまるで毎日授業でもねむりで、本を読む習慣もなかった。だかどんか先生は早くもそれを見つけたのでした。

「ジョバンニは、さういふふうで川だと言われたり、鹿の流れたあどと言われたりして、おのぼんやりと白くながる川は何かと知らずか、先生は、黒板に流した大きな黒い墨の跡のカムパネルラが手をあげました。それから四一五人手をあげました。ジョバンニも手をあげました。息でそのままだけました。たしかにあれがみんな星だ。いつか雑誌でも読んで読んだのだ。だが、このころはジョバンニはまるで毎日授業でもねむりで、本を読む習慣もなかった。だかどんか先生は早くもそれを見つけたのでした。

「ジョバンニは、さういふふうで川だと言われたり、鹿の流れたあどと言われたりして、おのぼんやりと白くながる川は何かと知らずか、先生は、黒板に流した大きな黒い墨の跡のカムパネルラが手をあげました。それから四一五人手をあげました。ジョバンニも手をあげました。息でそのままだけました。たしかにあれがみんな星だ。いつか雑誌でも読んで読んだのだ。だが、このころはジョバンニはまるで毎日授業でもねむりで、本を読む習慣もなかった。だかどんか先生は早くもそれを見つけたのでした。

設問2 正答率
全道 65.7%
(設問番号2)
設問3 正答率
全道 47.0%
(設問番号3)

めあて「表現の仕方や特徴に注意して、内容を正確に読む。」 ～作品批評会を開く～

C 読むこと

イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。

◎ 10月以降に指導可能な教材:「故郷」(教育出版「伝え合う言葉 中学国語3」)、(光村図書「国語3」)

授業アイデア例

ア 物語や小説を読んで批評する言語活動。(言語活動例)

学習過程	〔主な学習活動〕	〔指導上の留意点〕
第一次	① ○○の作品(教科書教材を含む)について、批評会を開くという課題を設定し、 学習の見通し をもつ。 ポイント1	■ これまでに取り上げた文学的作品について、 教師が作成した批評文(モデル)を紹介し、「批評」 することについて共通理解を図る。 ■ モデルの批評文を参考に、 批評する際の視点について、明確にできるようにする。
第二次	② 教材文について、場面や登場人物の設定に着目して読み取る。 ③ 批評する際の視点に沿って、自分なりの考えを整理する。 ④ 教材文以外の○○の作品を 並行して読み進める。 ポイント3	■ 「人物ファイル」には、①名前、②外見の特徴、③主人公との関係、④エピソード、⑤物語上の役割などについてまとめるように促す。 ■ 場面や登場人物の設定の仕方を捉え、内容の理解につながるような視点を設定する。 ポイント2 ■ 同じ作者による複数の作品を読み比べることができるよう、本を用意する。
第三次	⑤ ○○の作品の中から、興味をもった作品を選び、 批評文を書く。 ⑥ 同一作品を選んで生徒でグループになり、批評会を開く。 ⑦ 学級全体で○○の作品について批評し合ったことを交流し、 単元の学習を振り返る。	■ ③の学習活動を生かし、 視点に沿って批評文を書くように働きかける。 ■ 生徒一人一人が自分の考えを述べたり、友だちの考えと比較したりできるよう、 グループの人数に配慮する。

〔授業改善の方向性〕

ポイント1 国語科(文学的文章)における単元の見通しのもたせ方

身に付けたい力(資質・能力)の明確化 単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した教材研究

- 教師自身が、実際に言語活動に取り組み、指導事項との関連性を確認する。また、成果物等がある場合は、単元の導入でモデルとして示すようにする。

ポイント2 場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解につながるような視点の設定

批評の視点と批判的な読み

- 批評の視点として、例えば、「人物の生き方や描かれた方」「語り手の思いや考え」「構成や展開」「表現の効果」などを設定する。
- 作品を批判的に読むために、登場人物の考え方に共感や納得ができるかについて、自分の知識や経験、考えと比べてみるように促す。

ポイント3 作品を分析する力の育成

並行読書

- 物語や小説を適切に批評する力を高めるために、同じ作者による複数の作品や類似したテーマの作品を読み比べることが効果的である。

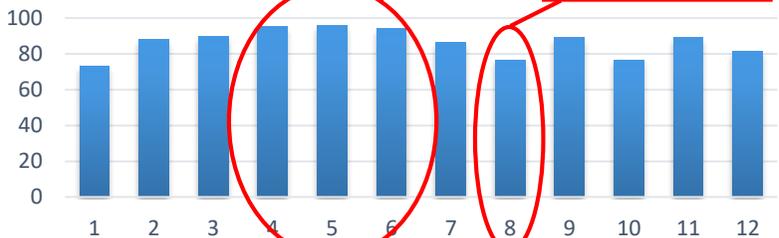
「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【小学校 第1学年 算数】

全道の平均正答率

正答率の高い問題

課題の見られた問題



A 数と計算

A(1) 数の構成と表し方

〔知識及び技能〕

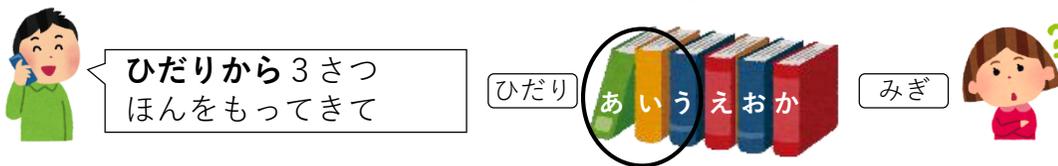
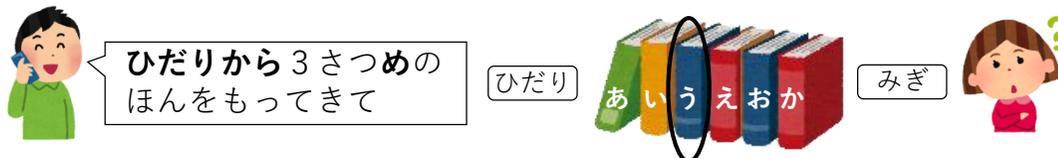
(イ) 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。

○ 考えられる要因

- ・「□本まで」と「□本目」との違いが理解できていない。
- ・「右から」と「左から」を勘違いするなど、問題場面を正確に捉えられていない。

○ 授業改善アイデア例

- ・次のように、「め」がついているときと、ついていないときをそれぞれ数えさせ、その違いに気付かせることにより、表している対象が違っていることを確実に理解させることが大切です。



- ・集合数や順序数について、日常生活の様々な場面を取り上げて考えさせたり、実際に体を動かして場面を確実に理解できるようなロールプレイを位置付けたりすることが大切です。

まえから3にんまでのることができます。



○ 課題の見られた問題

(2) みぎから 4ほんまで ○で かこみましょう。



○ 正答率の高い問題

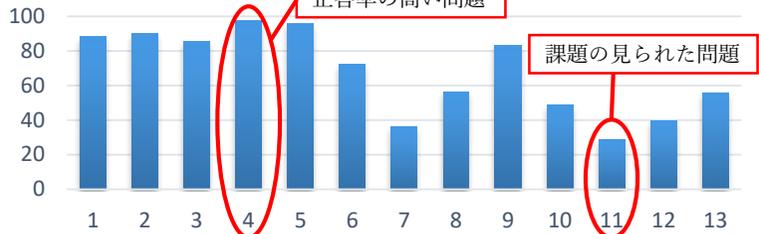
3 おなじ こたえに なる けいさんを、せんで つなぎましょう。

4	5	6
$1 + 7$	$5 + 5$	$7 + 2$
•	•	•
•	•	•
$6 + 4$	$2 + 6$	$4 + 5$

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【小学校 第3学年 算数】

全道の平均正答率



正答率の高い問題

課題の見られた問題

○ 課題の見られた問題

5 ひろみさんたちは、バスに乗って図書館に行きます。下の表は、乗車するバスでの時刻表の一部です。

時	20	50		
8	20	50		
9	20	35	50	
10	05	20	35	50
11	05	20	35	50

朝いちばん早いバスは、午前8時20分です。そのつぎのバスは、午前8時50分です。



(2) ひろみさんたちは、このバスで午前10時15分に集合しました。図書館までは、バスで20分かかります。午前11時までに、図書館に着くためには、午前何時何分に発車する予定のバスに乗ればよいですか。その時刻をすべて書きましょう。

○ 正答率の高い問題

2 下の表は、九九の表です。表の●と★にあてはまる数を書きましょう。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	●	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	8	16	24	★	40	48	56	64	72
9	9	18	27	36	45	54	63	72	81

C 測定

C(2) 時刻と時間

〔思考力、判断力、表現力等〕

(ア) 時間の単位に着目し、時刻や時間の求め方について考察し、日常生活に生かすこと。

○ 考えられる要因

- ・与えられた情報を整理して考えることができていない。
- ・集合時刻や到着時刻、経過時間等の情報を関連付けて、時刻表から条件にあてはまる時刻を選び出すことができていない。

○ 授業改善アイデア例

- ・問題文をよく読み、条件を確認するなどして、問題文から分かることを整理することが大切です。

(問題)

このバス停には、午前9時40分に集合します。港博物館までは、バスで20分かかります。午前10時20分までに、港博物館に着くためには、午前何時何分に発車する予定のバスに乗ればよいですか。その時刻をすべて書きましょう。

大事なことは、次の3つだと考えました。

- ・バス停に午前9時40分に集合
- ・港博物館までは、バスで20分
- ・午前10時20分までに、港博物館に到着



- ・次のように、条件に当てはまらない時刻を除外したり、当てはまる時刻を取り出したりして、筋道を立てて考えることが大切です。



集合時間の9時40分前のバスには乗れないよ。(ア)



10時10分よりあとのバスだと間に合わないよ。(イ)

ア

時	10	20		
6	10	20		
7	10	20		
8	10	20		
9	10	25	45	55
10	10	25	45	55
11	10	30	50	

イ

時	10	20	30	40	
6	10	20	30	40	
7	10	20	30	40	
8	10	20	30	40	
9	10	25	45	55	
10	10	25	35	45	55
11	10	30	40	50	

ア イ

時	10	20	30	40	
6	10	20	30	40	
7	10	20	30	40	
8	10	20	30	40	
9	10	25	45	55	
10	10	25	35	45	55
11	10	30	40	50	

- ・指導学年や児童の学習状況に応じて条件や素材、場面を変えた問題を扱い、筋道を立てて考える場面を設けることが大切です。

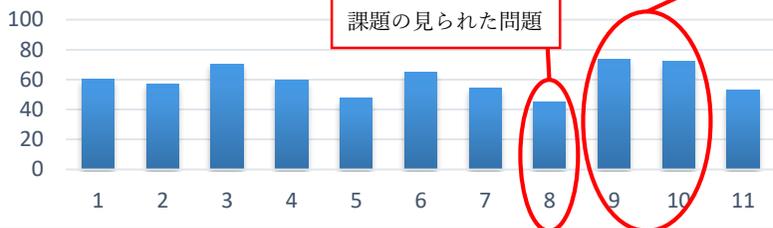
- ・集合時刻や到着時刻、経過時間を変える。
- ・集合時刻や到着時刻を求める問題を出題する。

など

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

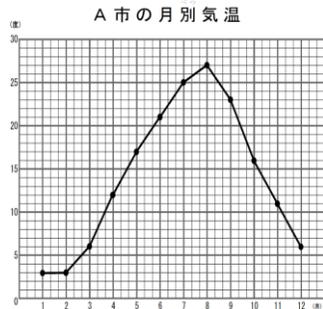
【小学校 第4学年 算数】

全道の平均正答率



○ 課題の見られた問題

3 下の折れ線グラフは、A市の1年間の気温の変わり方を表したものです。次の問題に答えましょう。



(3) 1年間の気温の変わり方のほかに、10日ごとのヒマワリの高さの変わり方など、変化していくものの様子を表すには、折れ線グラフを使うとよいです。その理由を、「線のかたむき」という言葉を使って書きましょう。

○ 正答率の高い問題

4 次の問題に答えましょう。(分度器を使います)

(1) 次のア、イの角度をはかりましょう。



D データの活用 D(1) データの分類整理

〔思考力、判断力、表現力等〕

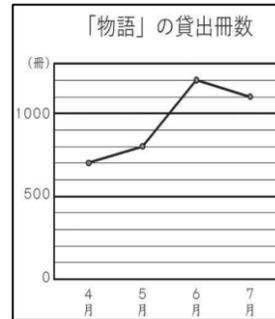
(ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について考察すること。

○ 考えられる要因

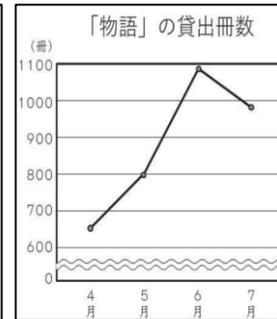
- ・折れ線グラフの特徴を理解し、折れ線グラフを使う理由を記述することができていない。
- ・目的に応じてデータの特徴や傾向に着目し、問題を解決することができていない。

○ 授業改善アイデア例

- ・次のように、2つの折れ線グラフを提示し、2つの学校の貸出冊数の変化を比較する場面を位置付けるなどして、線の傾きや縦軸目盛りに着目できるようにすることが大切です。



A小学校



B小学校

【グラフを見て気付いたこと】

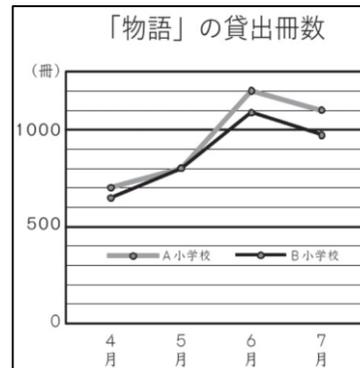
B小学校の方が増え方が急だね。

2つの折れ線グラフは、たてじくのめもりが違うよ。

2つのグラフを比べるには、どうしたらよいのだろう。

- ・2つの学校の貸出冊数の変化を1つのグラフ用紙に表し、それぞれの線の傾きの大小に着目することで、変化の大きさを読み取ることができるようにすることが大切です。

【1つのグラフにして分かったこと】



A小学校の方がB小学校よりも増え方が大きいね。

めもりをそろえれば、線のかたむきで比べられるね。

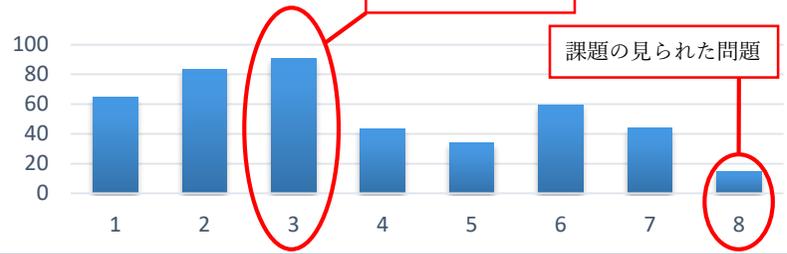
(学習のまとめ)

2つの折れ線グラフの変化の様子を比べるためには、たてじくのめもりを確認して、めもりをそろえたり、線のかたむきを比べたりするとよい。

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【小学校 第5学年 算数】

全道の平均正答率



正答率の高い問題

課題の見られた問題

○ 課題の見られた問題

使いやすいはしの長さのめやす

使いやすいはしの長さは「^{ひと}一あた半」と言われています。
 一あとは、親指と人差し指を直角に広げたときのそれぞれの指先を結んだ長さです。
 一あた半は、一あたを1.5倍した長さです。



(2) ももさんは新しいはしを買いに行こうと思いました。
 また、ももさんは一あたの長さについてさらに調べて、下のことがわかりました。

一あたは、身長の約0.1倍の長さです。

ももさんの身長は140cmです。
 ももさんの身長と、上の使いやすいはしの長さのめやすをもとに、はしの長さは約何cmになるかを求めましょう。

○ 正答率の高い問題

2 1, 3, 4, 9 のカードを1まいずつ使い、下の□に当てはめて小数をつくります。

□.□□□

次の問題に答えましょう。

(1) つくることのできる数のうち、いちばん小さい数をつくりましょう。

A 数と計算

A(3) 小数の乗法、除法

〔思考力、判断力、表現力等〕

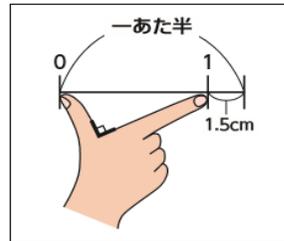
(ア) 乗法及び除法の意味に着目し、乗数や序数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。

○ 考えられる要因

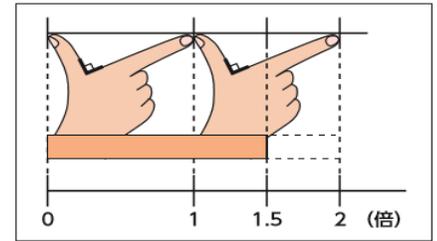
- ・問題解決に必要な数量に着目できていない。
- ・「一あた」「一あた半」「身長」の数量関係を捉えられていない。
- ・小数倍したときのおおよその値を見積もることができていない。
- ・問題解決に向け、「身長」から「一あた」の長さを求め、さらに、「一あた半」の長さを求めるという二つの段階を見通すことができていない。

○ 授業改善アイデア例

・次のように、間違った考え方の図を示して図の誤りを指摘させる場面を位置付けるなど、1.5倍の意味を図と関連付けて理解できるようにすることが大切です。



(間違った考え方の図)

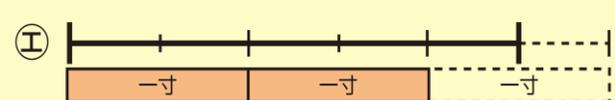
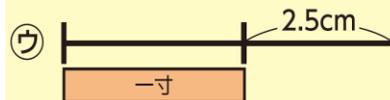
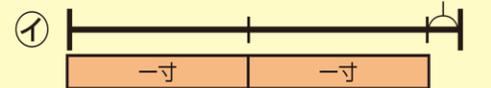
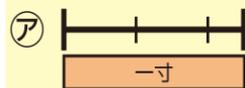


(正しい考え方の図)

・倍の見方を別の場面に当てはめ、図を基に、立てた式の根拠を説明できるようにすることが大切です。

(別の場面例) 「寸(すん)」は、昔から使われている長さの単位で、約3cmです。持ちやすい湯飲みの直径は「二寸半」とされています。二寸半は、一寸を2.5倍した長さです。これは、約何cmになりますか。

二寸半の長さ()を表している図はどれでしょうか。



「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【小学校 第6学年 算数】

全道の平均正答率



正答率の高い問題

課題の見られた問題

○ 課題の見られた問題

えいたさんは、たいしやう対称な図形の学習をふり返っています。次の問題に答えましょう。

(2) 下の図形はてんたいしやう点対称な図形ですが、えいたさんは、この図形の対称の中心が見つけれず、こまっています。たいしやう対称の中心を見つける方法とその方法で見つけられるわけを説明しましょう。



○ 正答率の高い問題

さくらさんは、ひし形の1辺の長さを x cm、周りの長さを y cm として、 x と y の関係を式に表そうとしています。次の問題に答えましょう。

(1) さくらさんは、まず、1辺の長さといし形の周りの長さの数量の関係を調べようと考え、下のような表をつくりました。表のあいているところに数をかきましょう。

1辺の長さ(cm)	1	2	3	4
周りの長さ(cm)				

(すべてできて正解)

B 図形

B(1) 縮図や拡大図、対称な図形

〔思考力、判断力、表現力等〕

(ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること。

○ 考えられる要因

- 1つの点のまわりに 180° 回転させたとき、もとの図形にぴったり重なる図形を、点対称な図形といい、この点を対称の中心ということを理解していない。
- 「点対称な図形では、対応する2つの点を結ぶ直線は、対称の中心を通る」ということを理解していない。

○ 授業改善アイデア例

- 既習の図形を対称性の観点から捉え直す活動を通して、図形の性質の違いや構成の仕方などの考察を深めることが大切です。



これらの図形の中で、1つの点のまわりに 180° 回転させたとき、もとの図形にぴったり重なる図形を探しましょう。

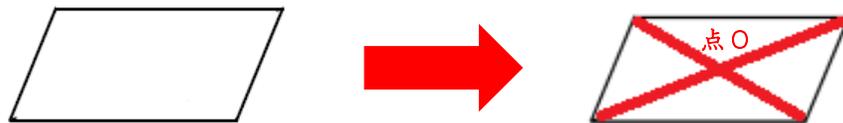


平行四辺形はもとの図形にぴったり重なるから点対称な図形といえるけれど、台形はもとの図形にぴったり重ならないから点対称な図形とはいえません。

- 実際に作図する活動を通して図形を構成する要素に着目し、図形の性質を見いだせるようにするとともに、図形の性質について気付いたことを説明させる場面を位置付けることが大切です。



平行四辺形の対応する2つの点を結ぶ直線を引いて、気付いたことを説明しましょう。

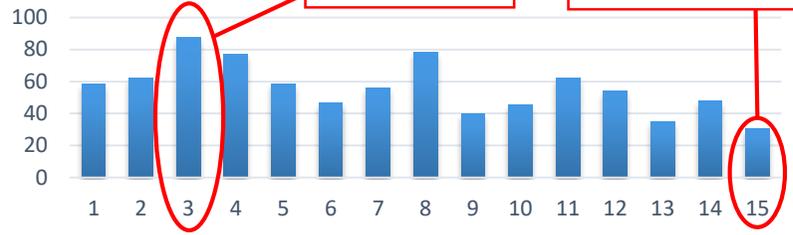


直線は2本引くことができました。対応する点を結んだ2本の直線はそれぞれ対称の中心を通ります。だから、2本の直線が交った点Oは、対称の中心といえます。

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【中学校 第1学年 数学】

全道の平均正答率



正答率の高い問題

課題の見られた問題

○ 課題の見られた問題

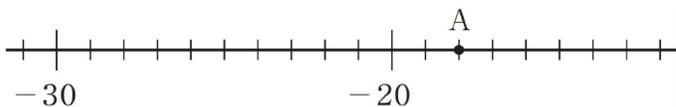
6

式 $a - b \times c$ について考えます。この式の a, b, c は、 $-5, 4, 6$ のいずれかの数であり、 a, b, c が同じ数になることはありません。
 $a - b \times c$ の計算の結果が最も小さくなる時、 -5 となる文字は、 a, b, c のうち、どれですか。
 -5 となる文字を選び、選んだ理由を書きなさい。

○ 正答率の高い問題

1

(3) 下の図は数直線の一部です。点Aが表す数を書きなさい。



A 数と式

[数学的な見方や考え方]

(2) エ 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすること。

○ 考えられる要因

- ・問題解決に必要な、式 $a - b \times c$ を、 $a + (-b \times c)$ として加法と見たとき、式の値を最も小さくするには、 a と $(-b \times c)$ がどちらも負の数になることを見通し、値を代入して調べたり確かめたりすることができていない。
- ・式の値を求める際に、負の数を代入する場合について、正しく処理することができていない。

○ 授業改善アイデア例

- ・文字式に条件を満たす値を見通しをもって代入し、式の大小関係を調べたり、判断したことを確かめたりできるようにすることが大切です。

n が負の整数のとき、最も大きな数になる式を、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

ア $3 + n$ イ $3 \times n$ ウ $3 - n$ エ $3 \div n$



n は負の整数だから、 n に -1 を代入して確かめてみよう。
 -5 を代入しても同じ結果になるのかな？

- ・次のように、間違った考え方の例を示してその誤りを指摘させる場面を位置付けるなど、負の数を代入して式の値を求める際に、正しく処理できるようにすることが大切です。

$x = -3$ のとき、式が $5 - 2x$ の値を右のように計算しましたが、間違っています。
 どこが間違っているか説明し、正しく計算しなさい。

計算
 $5 - 2x$
 $= 5 - 2 - 3$
 $= 5 - 5$
 $= 0$



x に -3 を代入してたので、正しいように見えるけど、どこが間違えているのかな？

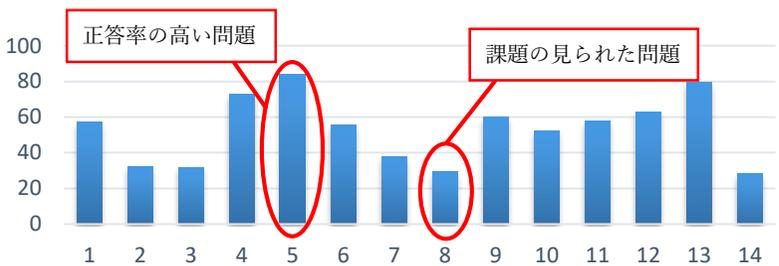


$-2x$ は $-2 \times x$ のことだから、代入すると $5 - 2 \times (-3)$ になると思うよ。本当は乗法なのに、加法で計算しているね。

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【中学校 第2学年 数学】

全道の平均正答率



正答率の高い問題

課題の見られた問題

○ 課題の見られた問題

6 さつきさんは、2つの偶数の和が偶数になることについて、文字式を使って説明することにしました。下の に式や言葉を書き、さつきさんの説明を完成させなさい。

<さつきさんの説明>

m 、 n を整数とすると、2つの偶数は、 $2m$ 、 $2n$ と表される。このとき、それらの和は、

8

○ 正答率の高い問題

5 次の問題の解き方を説明した文章の に当てはまる式を、 n を用いて書きなさい。

問題

「連続する3つの整数の和は、中央の整数の3倍になる」ことを文字式を使って説明しなさい。

連続する3つの整数の和は、例えば、
1、2、3 のとき、 $1+2+3=6$
となり、6は中央の整数である2の3倍です。

「連続する3つの整数の和は、中央の整数の3倍になる」ことは、次のように考えると、説明することができます。

- ① 連続する3つの整数のうち最も小さい整数を n として、連続する3つの整数を n 、 $n+1$ 、 $n+2$ と表す。
- ② それらの和が中央の整数の3倍になることを示すために、 n 、 $n+1$ 、 $n+2$ の和を $3 \times \text{$ の形の式に変形する。

A 数と式

〔数学的な見方や考え方〕

(1) イ 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解すること。

○ 考えられる要因

- ・ 式を $2 \times (\quad)$ の形にするという見通しをもつことができていない。
- ・ $2 \times (\quad)$ のかっこの中が整数でなければならない理由を理解していない。
- ・ 「 $2m+2n$ 」や「 $2(m+n)$ 」の式の意味のちがいを事象に即して解釈できていない。

○ 授業改善アイデア例

- ・ 説明を書く前に、「説明したいことは何か」「説明したいことを示す式はどのような形か」など、説明の目的を明確にし、見通しをもつ学習活動を位置付けて指導することが大切です。



計算の結果が偶数になることを説明したいな。



式を $2 \times (\quad)$ の形に変形すると偶数になることを示せるね。



これまでの学習内容と関連付けると、他にもいろいろなことを式で示すことができます。

説明したいこと	説明したいことを示す式の形の例
奇数になること	$2 \times (\quad) + 1$
5の倍数になること	$5 \times (\quad)$
3で割ると2余る数になること	$3 \times (\quad) + 2$

- ・ 一旦解決された問題の解決過程を振り返り、問題の条件や仮定を見直したり、共通する性質を見いだしたり、概念を一般化したり拡張したりするなど統合的・発展的に考察する場面を設定することが大切です。



2つの偶数の和が偶数になることは、下のようように説明できました。偶数が3つ以上でも、同じことがいえるのでしょうか。



偶数の数が増えたときの式の形がどうなるかを考えてみよう。

m 、 n を整数とすると、
2つの偶数は、 $2m$ 、 $2n$ と表される。
このとき、それらの和は、

$$2m+2n=2(m+n)$$

$m+n$ は整数だから、 $2(m+n)$ は偶数である。
したがって、2つの偶数の和は偶数である。



偶数がいくら増えても、式は $2 \times (\quad)$ になりそうだね。



奇数だったらどうなるか考えてみたいな。

「1学期末問題」の結果を踏まえた授業アイデア例

【中学校 第3学年 数学】

全道の平均正答率

正答率の高い問題

課題の見られた問題



○ 課題の見られた問題

8

みさきさんは、連続する2つの整数について、大きい方の数の2乗から小さい方の数の2乗をひいた差は、もとの2つの整数の和になると予想しました。みさきさんの予想が正しいことを、下の□に式や言葉を書き、証明を完成させなさい。

<証明>

連続する2つの整数は、整数 n を使って、 $n, n+1$ と表される。このとき、大きい方の数の2乗から小さい方の数の2乗をひくと、

となる。

したがって、大きい方の数の2乗から小さい方の数の2乗をひいた数は、もとの2つの整数の和になる。

○ 正答率の高い問題

2

次の問いに答えなさい。

(1) 4 と $3\sqrt{2}$ の大小を、不等号を使って表しなさい。

A 数と式

〔数学的な見方や考え方〕

(2) ウ 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明すること。

○ 考えられる要因

- ・問題解決に必要な数量に着目し、それを文字を用いた式に表すことできていない。
- ・乗法公式や因数分解の公式のもつ意味を理解し、式を効率よく処理することができていない。
- ・最後の式を「 $2n+1$ 」として、目的に応じた「もとの2つの整数の和」の式に変形するという見通しをもつことができていない。

○ 授業改善アイデア例

- ・次のように、証明や説明をする場合、単に証明や説明を書けることだけでなく、その内容を、簡潔・明瞭・的確に表現し相手に分かりやすく伝える活動を行うことが大切です。

大きい方の数の2乗は、 $(n+1)^2$ と表すことができるね。そうすると式は $(n+1)^2 - n^2$ かな。



「もとの2つの整数の和」になることを説明するには、 $n+1$ と n の和になるように式を変形するといいいのかな。

- ・式を変形して導き出された式を振り返り、説明したかったこととは別の意味を読み取るなど、証明を読んで新たな性質を見いだすことが大切です。

8の説明

(略)

大きい方の数の2乗から小さい方の数の2乗をひくと、

$$\begin{aligned} & (n+1)^2 - n^2 \\ &= (n^2 + 2n + 1) - n^2 \\ &= \mathbf{2n+1} \\ &= n + (n+1) \end{aligned}$$

となる。

したがって、大きい方の数の2乗から小さい方の数の2乗をひいた数は、もとの2つの整数の和になる。



教師

式を計算すると、途中で $2n+1$ となります。この式には、「もとの2つの整数の和」という意味以外に、どのような意味がありますか。



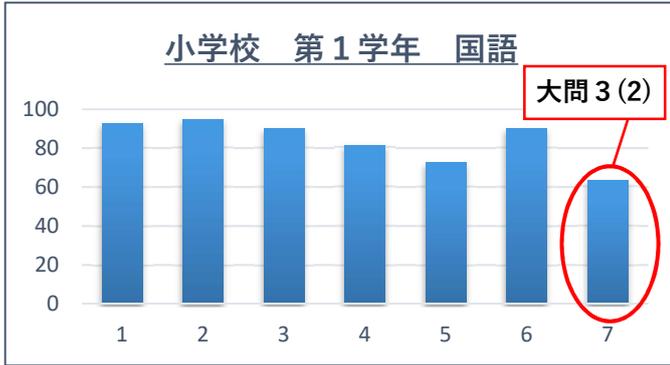
奇数という意味があります。



大きい方の数の2乗から小さい方の数の2乗をひくと、必ず奇数になるということですね。

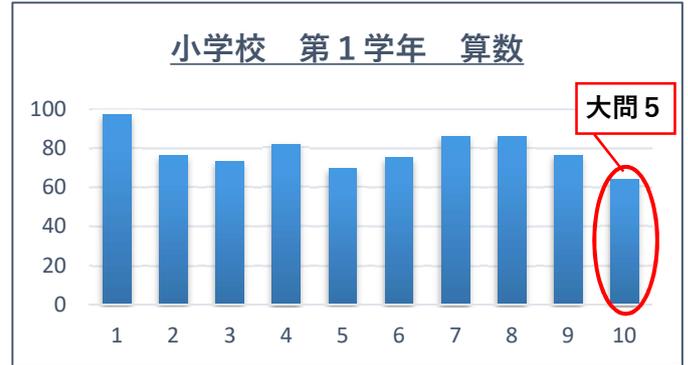
2 「2学期末問題」集計結果

※グラフは、設問ごとの全道の平均正答率を表しています。



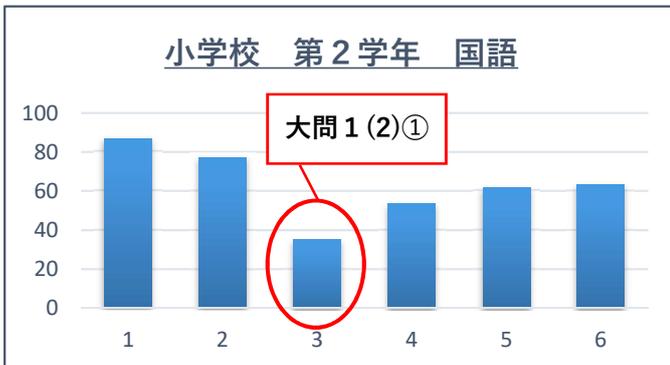
【C 読むこと】

設問番号7については、物語の登場人物について、だれが、何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのかなどを具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりできるよう指導することが大切です。



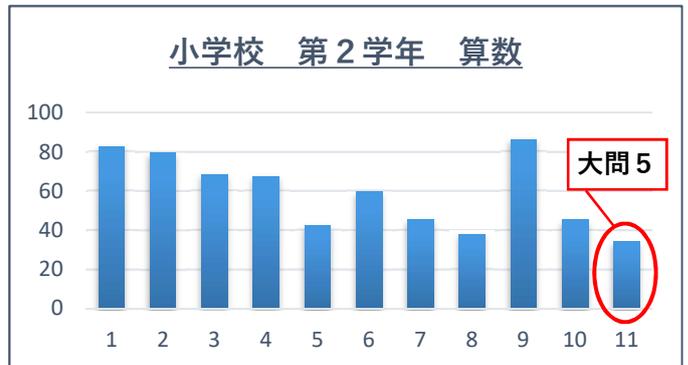
【A 数と計算】

設問番号10については、式に表される場面を探して言葉や絵、図を用いて表したり、実生活で探した数量について式に表したりする学習活動を取り入れて、式と具体的な場面とを結び付けることができるよう指導することが大切です。



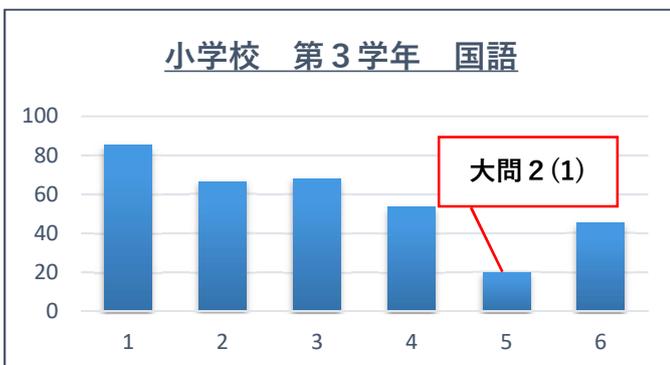
【B 書くこと】

設問番号3については、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集める過程に重点を置いて指導することが大切です。その際、身近なことを表す語句について、「言葉の働き」の指導との関連を図りましょう。



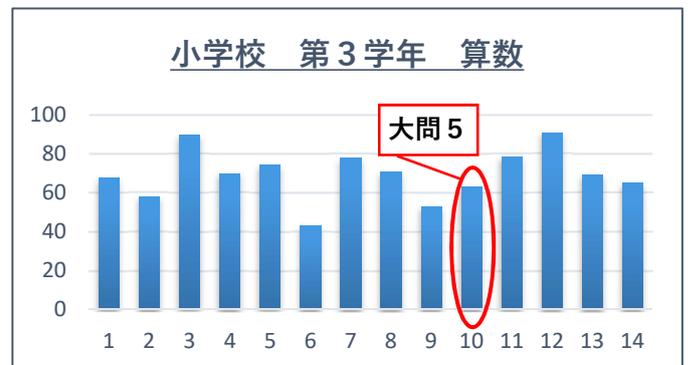
【A 数と計算】

設問番号11については、百の位の数字が同じとき、十の位の数字に着目して数の大小を判断するなどの学習活動を取り入れて、数の大小比較においてどの位の数字に着目すればよいかを判断できるよう指導することが大切です。



【C 読むこと】

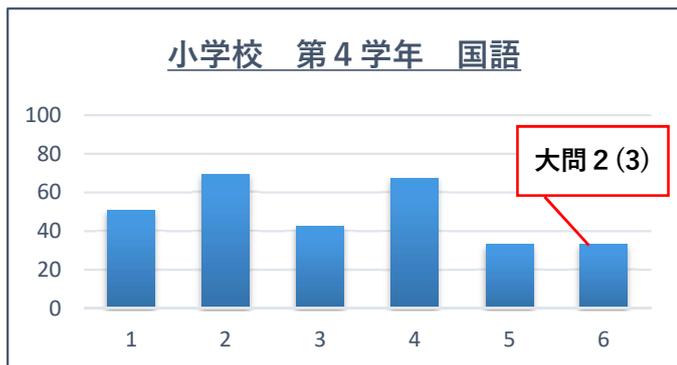
設問番号5については、段落相互の関係に着目しながら、書き手の考えがどのような理由によって説明されているのか、どのような事例によって具体化されているのかなどを、叙述を基に正確に捉えるよう指導することが大切です。



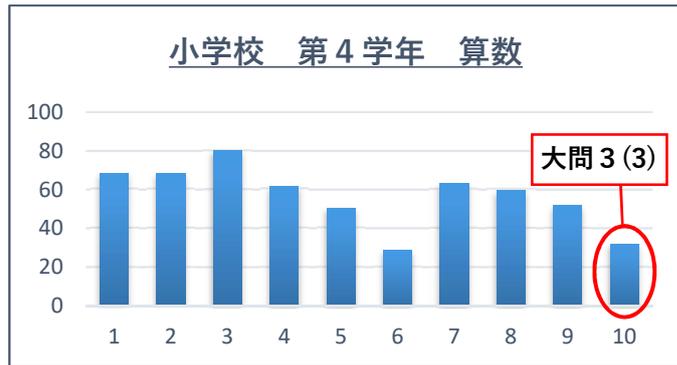
【B 図形】

設問番号10については、身の回りのものを図形を構成する要素に着目して捉える学習活動を取り入れて、図形のもつ性質が日常生活でどのように役立てられているかを考察できるよう指導することが大切です。

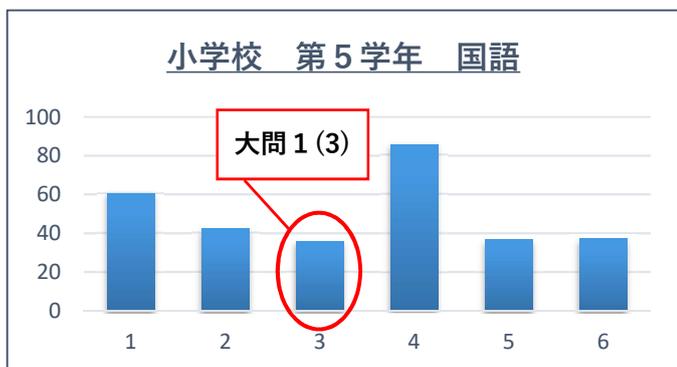
※グラフは、設問ごとの全道の平均正答率を表しています。



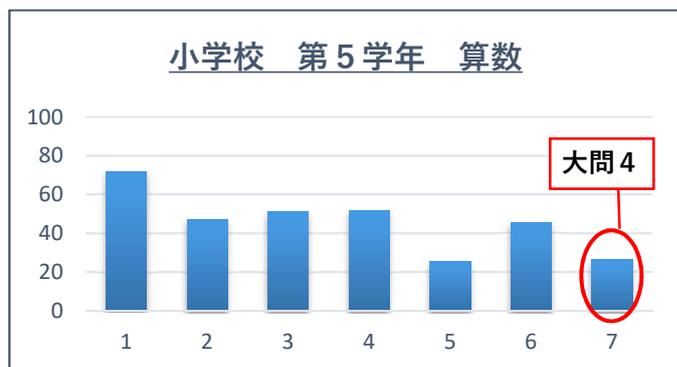
【B 書くこと】
 設問番号6については、行事の案内やお礼の文章などの実用的な文章としての手紙を書く場面を意図的、計画的に設け、相手や目的を意識して、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にできるよう指導することが大切です。



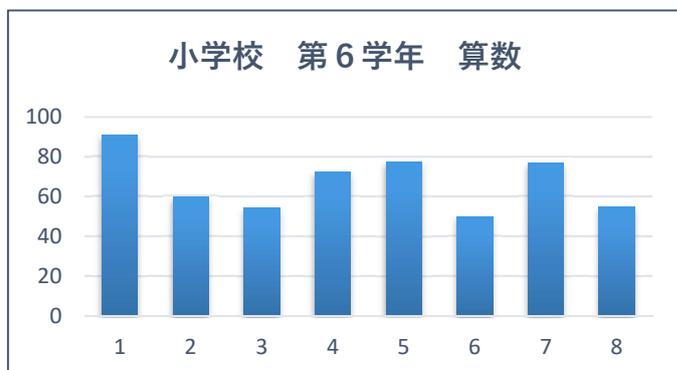
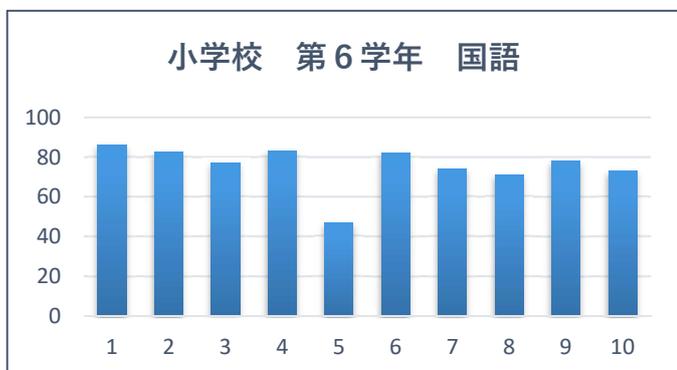
【A 数と計算】
 設問番号10については、「どのような概数で計算したのか」など、判断したことの根拠を過不足なく挙げて説明する学習活動を取り入れて、目的に応じた見積もりができるよう指導することが大切です。



【A 話すこと・聞くこと】
 設問番号3については、インタビューなどをする際に、自分がどのような情報を相手から引き出そうとしているのかなど、自分が聞こうとする意図を明確にして聞くことができるよう指導することが大切です。

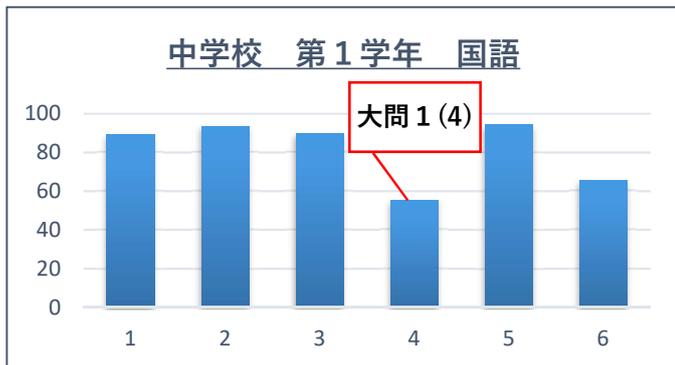


【D データの活用】
 設問番号7については、測定値を使う方法と基準値を設定する方法を、グラフや式などを用いて解釈したり、説明したりする学習活動を取り入れて、平均を工夫して求めるよさを実感できるように指導することが大切です。



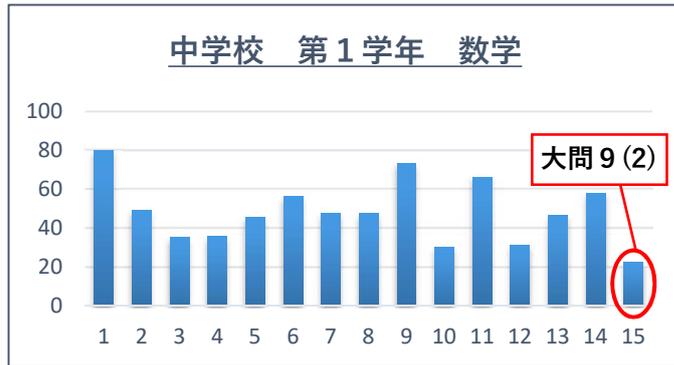
「2学期末問題」集計結果

※グラフは、設問ごとの全道の平均正答率を表しています。



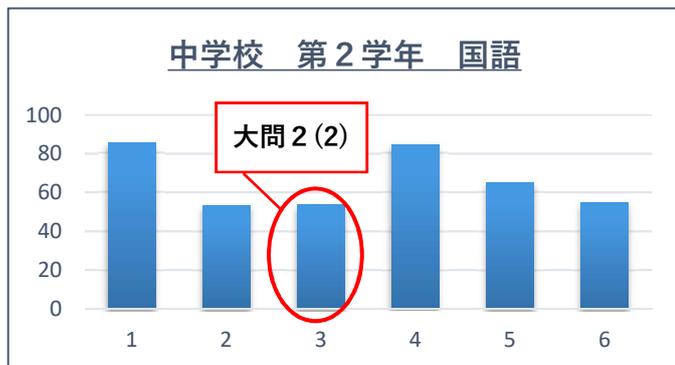
【C 読むこと】

設問番号4については、言葉を手掛かりにしながらか文脈をたどり、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読むことができるよう指導することが大切です。



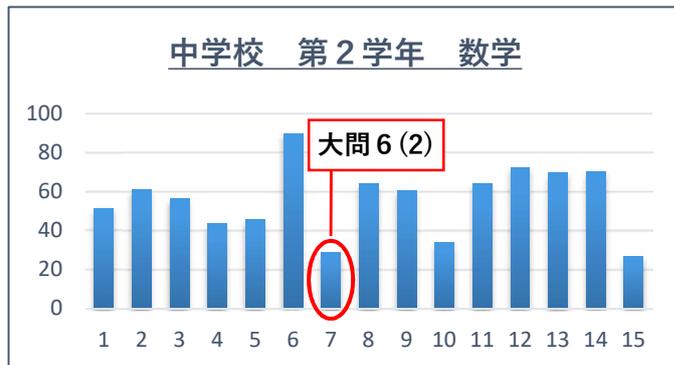
【A 数と式】

設問番号15については、数量の関係を表す式を事象に即して解釈する学習活動や、数量の関係を式に表し、その式を事象に即して説明する学習活動を取り入れて、事象を数学的に考察することができるよう指導することが大切です。



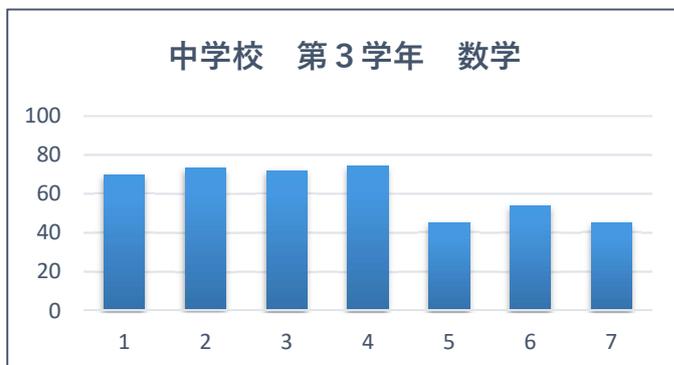
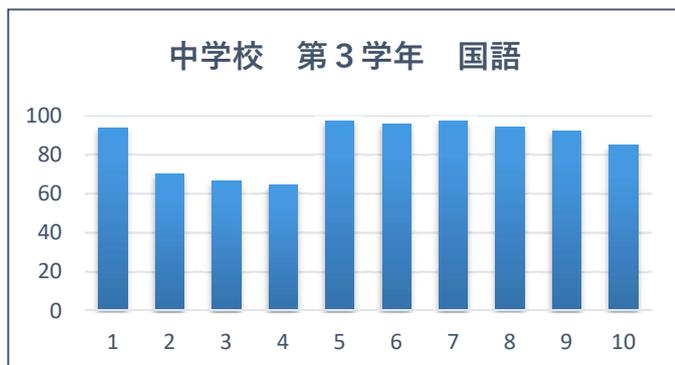
【B 書くこと】

設問番号3については、記録文や報告文を書く学習をする際に、伝えたい事実や事柄を文章全体のどこに位置付けることが適切であるかを考えながら書くよう指導することが大切です。



【C 関数】

設問番号7については、実際に行った解決の過程を振り返り、問題解決に「用いるもの」と「用い方」の両方を説明する学習活動を取り入れて、問題解決の方法を的確に説明できるよう指導することが大切です。



Ⅲ 本道の学力向上に向けた取組

1 各学校や各市町村の取組

(1) 検証改善サイクルの確立

検証改善サイクルの確立 【後志管内 京極町立京極小学校の取組】

取組のポイント

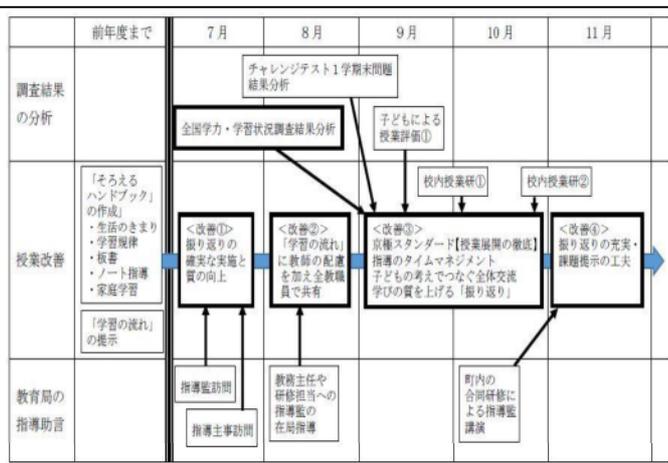
・全国調査やチャレンジテストの結果分析等を年間スケジュールに位置付けた組織的・計画的な授業改善

Before

- ①若い教職員が多く、指導力に差があった。
- ②教職員間に「みんなで京極小の授業をつくる」というチームとしての意識が醸成されていなかった。
- ③教職員の指導力の格差を是正するため、全校である程度、指導力の差を埋める授業スタイルの統一が必要であったため。

After

- 学力向上に向けた取組における年間スケジュールの明確化
 - ・学校全体の取組として、小さな成果を可視化して前へ進めるマネジメントの確立
- 具体的な取組内容
 - ・義務教育指導監訪問と指導主事訪問による指導助言を生かした振り返りの確実な実施と質の向上
 - ・教務主任や研修担当への在局指導を生かした「学習の流れ」の共有
 - ・町内合同研修の指導助言を生かした振り返りの充実・課題提示の工夫
 - ・授業展開の徹底を図る「京極スタンダード」の確立
 - ・児童生徒の実態や各種調査結果の分析などの客観的な資料を基に、その都度、授業を検証し、課題の改善の方策について全教職員で共有するなど、検証改善を推進



検証改善サイクルの確立 【上川管内 美瑛町立美瑛中学校の取組】

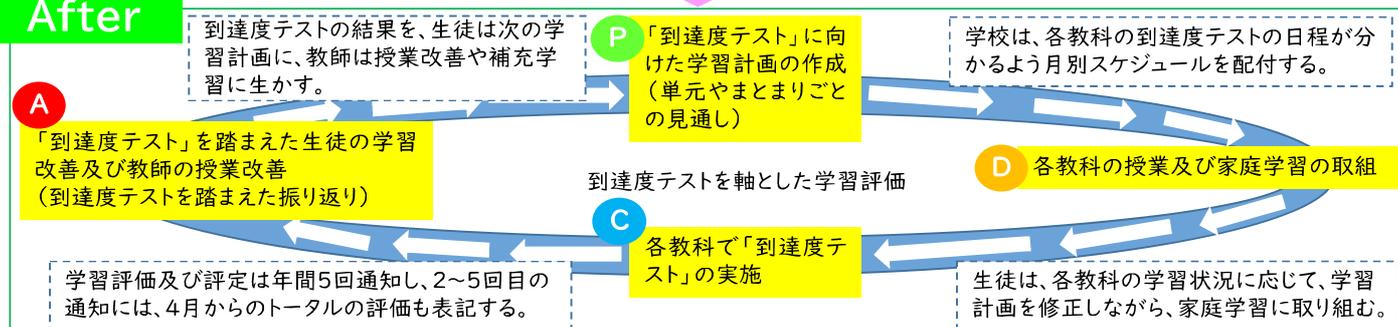
取組のポイント

- ・生徒の定着状況をきめ細かく把握する短いスパンでの学習評価の取組
- ・定期テストを廃止して単元や内容等のまとまりごとを実施する「到達度テスト」の導入

Before

- ①生徒による学校評価の結果において、学習習慣の定着及び学力向上の実感が60%~70%であった。
- ②定期テストは範囲が長く、定期テスト前に集中的に学習する時間が増え、生徒にとって学習の定着が実感しづらいとともに、日常的な学習習慣の定着に結び付いていなかった。
- ③①②の実態を踏まえるとともに、新学習指導要領総則において、「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫すること」「指導の改善や学習意欲の向上を図ること」などが求められていることから「到達度テスト」を導入した。

After



【成果と課題】

- 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査で「自分で計画を立てて勉強している」「1時間以上家庭学習に取り組んでいる」「国語、数学の内容は、よく分かる」の項目において、令和元年度の結果よりも肯定的な回答の割合が10~20ポイント改善した。
- 生徒からは、「目標が明確になり、短いスパンで計画的に学習に取り組むことができた」などの感想が寄せられている。
- 各教科の「到達度テスト」が重なり、生徒の負担感が増え、学習計画の実行が難しくなることがあるため、日程を調整する必要がある。

検証改善サイクルの確立 【オホーツク管内 遠軽町立南小学校の取組】

取組のポイント

・SMARTの考え方に基づく学校経営のグランドデザインや学校改善プランの策定

Before

- ①学校経営の重点項目や学校改善プランの内容について、各職員の取組に差が見られ、学校全体として期待する児童の変容が見られなかった。
- ②その要因として、いずれも具体的な方策と評価指標が明確でなかったため、職員の取組が一貫・徹底されなかった。
- ③学力向上に向けた取組の実現に向け、校内の検証改善サイクルを確立するとともに、全職員が同じベクトルで取組を推進することが重要であることから、SMARTの考え方に基づく改善を図ることとした。

After

SMARTの視点

S: Specific (具体性) 目標は明確に、詳細にする。手段や期限など詳細を説明できる。
 M: Measurable (測定可能性) 取組の結果が定量的に測定可能である。
 A: Achievable (達成可能性) 達成可能で、現実的な目標である。
 R: Result Oriented (達成したい成果) ゴール達成のためにクリアすべき目標である。
 T: Time-bound (期限の有無) 期限を区切って活動の振り返りや進捗管理を行う。

【グランドデザイン】



学力向上に関する重点項目

○学校改善プランの具体的方策に基づく重点化した指導の継続
 ○单元レベルで「見通す」「振り返る」活動を取り入れた学習活動

重点項目の評価指標

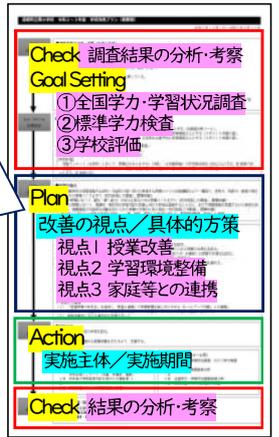
○学校改善プランの方策に基づく授業の推進【学校評価85%】
 ○授業は分かりやすい【児童85%】

Plan (計画策定)～改善の視点 (一部抜粋)

視点1 授業改善

- ① 問題解決的な学習過程や主体的・対話的で深い学びの共通理解を図り、思考力・判断力・表現力等を育むための授業づくりを行う。
- ② 国語科の授業において、「読む・書く能力」の向上を図るための授業づくりを行う。
- ③ 算数科の授業において、自力で問題場面を把握する力の育成を図るため、課題場面对話的な活動を取り入れた授業の日常化に取り組む。【校内研修との関連】

【学校改善プランの構成】



<成果> SMARTの視点を取り入れることにより目標や方策が具体的になり、検証改善の取組の日常化が図られた。
 <課題> 達成可能で現実的な目標を段階的に設定するなど、精度をさらに高める必要がある。

検証改善サイクルの確立 【釧路管内 釧路町立富原中学校の取組】

取組のポイント

・「KPTAシート(学校改善シート)」を活用した各教員の学校運営への参画意識の向上

Before

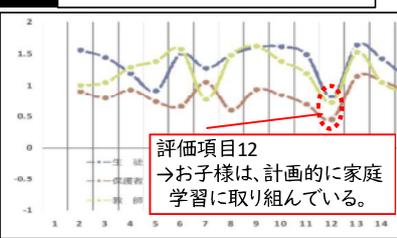
- ①学校評価アンケートを年2回実施し、検証改善サイクルを推進しているが、アンケート結果を効果的に学校改善に結び付けることが充分ではなかった。
- ②学校改善に向け、教員間で十分に課題意識を共有することができていなかった。
- ③各教員の学校運営への参画意識を高めるため、「KPTAシート(学校改善シート)」を活用するようにした。

After

(A) KPTAシートによる業務改善アイデアの募集(9月)

(P) Action (具体的な行動プラン、10月)

(C) 学校評価アンケートの実施(7月)



Keep (良かった点や続けたい理由)	Problem (問題点、改善が必要なこと)	Try (KPを受けて新たなアイデア)
Keep (良かった点や続けたい理由)	Problem (問題点、改善が必要なこと)	Try (KPを受けて新たなアイデア)

※左の学校評価アンケートの集計結果を踏まえ、教員一人一人が、学校改善に向け、アイデアを提案する。

- ①学級担任から教科担任へ家庭学習の確認の役割を変更
 ②確認する生徒を曜日ですらし、負担を分散
 ③家庭学習チェック表を活用(学級担任は週1回の確認)
 ※ワールド・カフェ方式の職員会議で最終決定

(D) 取組の推進(11月～)

・今後、1月の学校評価アンケートを踏まえ、取組状況を再評価し、次年度の計画に繋げる。

成果と課題

○ KPTAシートを活用し、家庭学習の取組の改善に取り組んだことにより、教員の学校運営への参画意識を高めるとともに、学校全体で共通理解を図り、学習習慣の定着に向けた取組を推進することができた。
 ● 学校運営に留まらず、日常の授業改善の方向性等においても、検討の段階から各教員の参画意識を高め、学校全体で共通理解が図られるよう、取組を工夫していく必要がある。

- ・Keep (よかった点や続けたい理由)
 → 生徒の学習状況を把握したり、支援したりすることができる。
- ・Problem (問題点、改善が必要なこと)
 → 他の設問と比較して、生徒、保護者、教員の3者ともに肯定的回答率の割合が低く、手立てが有効に働いていないので、改善を図る必要がある。
- ・Try (KPを受けて新たなアイデア)
 → 家庭学習の確認方法や役割の変更、家庭学習チェック表の作成が必要である。

(2) 小学校と中学校が連携した取組

小学校と中学校が連携した取組 【石狩管内 北広島市立大曲中学校の取組】

取組のポイント

・小学校への乗り入れ指導や中学校模擬テストなど、小・中学校で連携した学習活動の充実

Before

- ①小学校と中学校が連携した取組を実施する前は、小・中学校の教育活動の違いや、小学校段階からの学習面のつまづきなどの課題があった。
- ②要因としては、学習指導の方法等について義務教育9年間を見通しながら、共通した取組を推進することが難しかったためである。
- ③大曲中学校区では、中学校進学に際し、新しい環境での学習に対する不適応を未然に防ぐための効果的な対応の一つとして、中学校教員による小学校への乗り入れ指導や中学校模擬テストを実施した。

After

小学校第6学年を対象とした中学校模擬テストの実施



取組の成果と課題

- 中学校区において、各種調査結果を共有するとともに、中学校教員が模擬テストを作成、実施することにより、小学校と連携した乗り入れ指導の工夫改善や、日常の授業改善につなげることができた。
- 小学校第6学年の児童が、「中学校入学後にどのような学習をするのか見通しをもつことができた」と発言するなど、中学校入学に向けて、学習に対する意欲を高めることができた。
- 中学校区で目指す子ども像の実現に向けて、小・中学校が連携した取組の意識と質を向上させる必要がある。

小学校と中学校が連携した取組 【根室管内 標津町の取組】

取組のポイント

・全町で統一した問題（課題）解決型の学習スタイル（標津型学習スタイル）を設定した授業改善
・小中合同研修会や乗り入れ指導の実施

Before

- ①本取組を行うまでは、全国学力・学習状況調査において、小学校、中学校ともに全国の平均正答率を大幅に下回っていた。また、授業の進め方は一人一人の教員に任されており、特に小学校と中学校では大きな違いが見られた。
- ②その要因として、各教員に、全国学力・学習状況調査等の結果を授業改善に生かすという意識が希薄であること、小学校と中学校の連携が十分でないことが考えられた。
- ③問題（課題）解決型の学習スタイルである「標津型学習スタイル」を設定するとともに、小中一貫教育を進めることにより、全ての教員が目指す授業像を把握し、小学校と中学校が連携して授業改善を進められるようにした。

「標津型学習スタイル」の取組内容

- ・問題（課題）解決的な学習展開
- ・学習規律の徹底
- ・授業の流れが分かる板書及びノート指導
- ・家庭学習習慣の定着及び質の向上
- ・学び合う集団に育てる学級経営

After

「標津型学習スタイル」を全ての学校に取り入れたことにより、全ての教員が同じ視点で授業改善に取り組むことができるようになった。

特に、小学校と中学校の教員が、互いの授業を参観し合い、授業改善の成果と課題や児童生徒の学習状況等について協議できるようになり、教員一人一人の授業力が向上してきている。板書についても、1単位時間の授業の流れが分かるように工夫されるようになり、児童生徒のノート指導にも生かされるようになった。

その結果、全国学力・学習状況調査において、小学校は全国の平均正答率を上回るようになり、中学校は全国の平均正答率との差が改善傾向にある。

また、小学校と中学校が連携して、児童生徒の発達の段階を踏まえた学習規律を設定し、定着を図ったことにより、児童生徒が集中して学習に取り組むようになった。

今後は、「標津型学習スタイル」をより充実させる観点から、児童生徒に育成を目指す資質・能力を一層明確にした授業改善に取り組む必要がある。



【1単位時間の授業の流れが分かる板書】

(3) 望ましい学習習慣の確立

望ましい学習習慣の確立 【胆振管内 豊浦町立豊浦中学校の取組】

取組のポイント

・「学習集会」、「家庭学習ノート展」など、学校全体で家庭学習の取組方法等を共有

Before

- ①平成30年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」や「1日当たり1時間以上勉強している」と肯定的な回答をする生徒の割合が全国及び全道を下回っていた。
- ②その要因として、自分で計画を立てて、継続して勉強を進めることに課題が見られる生徒が多くいることが分かった。
- ③生徒が自主的・計画的に家庭学習を取り組むことができるように、生徒の家庭学習を支援する取組を強化することにした。

After

- ①家庭学習に関する冊子等の作成・活用
・家庭学習の手引「家庭学習のすすめ」を生徒に配付し、家庭学習の意義や教科ごとのポイントを示した。
・「とよらのおと」を合言葉に、ノート整理の7つのポイントを示した。
「と」…とにかく文頭は揃える
「よ」…余白は大胆に
「う」…写す必要がなければコピー
「ら」…ラインを引くなど効果的に
「の」…ノートは区切りが肝心
「お」…オリジナルのフォーマットをもつ
「と」…当然丁寧に書いている

- ②「学習集会」の実施
・年度初めに、全校生徒を対象とした家庭学習のガイダンスとして実施した。
・「学習集会」の担当教諭や教科担任から「家庭学習のすすめ」に記載されている家庭学習のポイントを解説した。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、学年ごとに実施した。



【「学習集会」の様子】

- ③「家庭学習ノート展」の実施
・生徒が見てほしいと思うノートのページを展示し、教師や他の生徒がノートを評価し、アンケートに記入した。
・アンケートから「家庭学習奨励賞」を選出し、生徒玄関付近に展示した。



【「家庭学習ノート展」の様子】

- 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と「1日当たり1時間以上勉強している」と肯定的に回答した生徒の割合が年々増えるとともに、平成31年度及び令和2年度で全道を上回った。
- 自分の家庭学習ノートが教師や他の生徒から評価されたことがきっかけとなり、積極的に家庭学習に取り組む生徒が増えた。
- 家庭学習においても、多様な生徒一人一人に、ICTを適切に活用した個別最適化された学びを実現できるように準備する必要がある。

望ましい学習習慣の確立 【渡島管内 七飯町立七重小学校の取組】

取組のポイント

・宿題に取り組む時間と自主学習に取り組む時間を発達の段階に応じて設定

Before

- ①学校全体で統一した目安がなく、6年間を見据えて児童の成長を促すことができない状況にあった。
- ②宿題や自主学習については、学年団や各学級担任に取組を一任しており、6年間の継続的な取組を推進していなかった。
- ③「学校力向上に関する総合実践事業」を進める上で、6年間を見据えた児童の成長を支えるための学校全体による継続的な取組が必要であったため、学習過程の統一や授業中の約束と合わせて設定することとした。

After

【宿題と家庭学習の提示】

目標

- ・学習習慣を身に付ける。
- ・自ら進んで学習する意欲をもつ。
- ・学習の基礎・基本を身に付ける。

宿題

- ・学級担任が課題を出し、全児童が提出。
- ・低学年は、家庭で丸付けを行い、中、高学年は翌日に学校で自分で丸付けを行う。

自主学習

- ・自分で課題を決めて取り組む。
- ・丸付けは各自（家庭も可）で行い、確認する。

【家庭や地域との取組の共有】

【学習の約束】

- ・机上の準備や筆記用具、姿勢等授業の約束を家庭学習においても同様に指導するよう各家庭に促し、学習習慣の定着を図った。

【手引きの配付】

- ・家庭学習の内容や時間等を示した「家庭学習の手引き」を全家庭に配付し、6年間の継続的な取組を推進した。

【ノート指導】

- ・ノート指導を徹底することで、ノートに自分の考えを書いたり、分かりやすく図や表にまとめたりする力を育み、自主学習におけるノートづくりに活かした。

【取組の改善】

- ・学校と家庭が連携した取組となるよう、学校評価で家庭学習の取組について評価し、改善した。

- これらの取組の徹底で、児童に望ましい学習習慣を確立させるための場面とスキル（方法）を身に付けさせることができた。
- 今後は、学習習慣の定着と質的な向上を目指し、自主学習を相互交流するなどの取組を行う必要がある。

望ましい学習習慣の確立【檜山管内 乙部町立明和小学校の取組】

取組のポイント

- ・「学習支援ツール『ジブンde勉強』」の活用

※「ジブンde勉強」とは檜山教育局が「ほっかいどうチャレンジテスト」を活用して作成した、児童生徒が自分の弱点を見つけ、教科書を使って、弱点を克服するための「学習支援ツール」のこと
URL: <http://www.dokyoji.pref.hokkaido.lg.jp/hk/hyk/jibundebennyou.htm>

Before

- ①全国学力・学習状況調査において、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対し、「している」と答えた児童の割合は全国平均を超えているものの、家庭学習の内容については、学校から提示された宿題が中心である状況があり、児童の主体的な学習習慣の確立に課題があると考えた。
- ②基礎的・基本的な知識及び技能の定着の様子について、児童が自ら振り返る機会の設定や、家庭学習や放課後学習に取り組む際に、教科や単元、学び方等を自ら考えて取り組む学習教材等の環境整備が不十分であった。
- ③檜山教育局が作成した「学習支援ツール『ジブンde勉強』（以下、「ジブンde勉強」）」を家庭学習や放課後学習の時間において活用することとした。「ジブンde勉強」は、全学年の学習内容をカバーしていることから、児童のつまずきを明確にすることができるとともに、その克服に向けて、自ら学習する教科や単元、学び方等を考えて取り組むことができるというよさがある。

After

- 取組によって、児童は家庭学習において、自ら取り組む教科や単元を考え、「ジブンde勉強」に取り組む姿が見られるようになり、主体的な学習習慣が確立されたと考えられる。
- 具体的には、校内にプリントを置くブースを設け、児童がいつでも「ジブンde勉強」を手に取り、気軽に取り組めるようにした。それにより、児童は自分が理解できていない内容について、下学年の内容のプリントを選び、何年生の内容から理解ができていないか振り返るなど、主体的に家庭学習に取り組むことができるようになった。

【取組によって見られた効果】

児童の家庭学習における主体的な学習習慣の確立とともに、放課後学習として行っている「パワーアップタイム」の時間において「ジブンde勉強」を活用することで、教員が児童の基礎的・基本的な知識及び技能の定着の様子を詳細に把握できるようになり、次に取り組むプリントについてアドバイスをしたことで、児童の意欲が高まり、主体的な学習習慣が確立し、学習量が増加する児童の様子が見られた。

【今後の課題】

児童の主体的な学習習慣の一層の充実に向けて、取り組む教科や単元について自分で考えることに加え、定着が十分でない学習内容について、同じプリントを複数回解くことや、下学年の内容に取り組むなど、学び方について自ら工夫することができるよう指導する必要がある。



【「ジブンde勉強」のブース】



【パワーアップタイムの様子】

望ましい学習習慣の確立【宗谷管内 枝幸町立歌登中学校の取組】

取組のポイント

- ・各種アンケート調査等の分析結果を踏まえた学ぶ意義や学習習慣等に関する組織的、計画的な指導
- ・生徒一人一人の自主的、実践的な活動が継続する学習計画書の活用

Before

- ①学年毎に家庭学習の時間の目安を設定し、取組を呼びかけたところ、学習習慣の定着と未定着の状況について二極化していた。
- ②主体的な学習態度等に関する指導が各学級担任によってのみ行われ、学校全体での組織的、計画的な指導が不十分であった。
- ③生徒一人一人のキャリア形成に向けて、生涯にわたって学び続けようとする態度を確実に育む必要があった。

After

教育課程編成委員会での検討

- 【アンケート結果の分析】
- ・学習習慣の定着状況が二極化
 - ・毎朝7時以降に起床する生徒が2割
 - ・平日2時間以上、メディアを利用する生徒が2割

・全学級の学級活動において、自己課題と課題の解決方法を明確にする指導を充実

・学習計画表を活用し、全教職員で生徒の主体的な学びを支援

学級活動における指導

活動の展開

- 問題の発見・確認**
→アンケート結果から生活、学習習慣に関する自己の課題を明確化
- 解決方法の話合い**
→望ましい生活・学習習慣に向けた話合い
- 解決方法の決定**
→自己の課題解決に向けた意思決定

実践

振り返り



自主的、実践的な活動の支援

〈学習計画表〉

生徒が、1週間の時間割を見ながら学習計画を立てる。

家庭での学習時間や内容を記入し、毎日、学級担任に提出する。

学級担任が励ましやアドバイスを記入し、生徒に返却する。

成果 (○) と課題 (●)

- 生徒の実態を踏まえ組織的、計画的な指導を行うとともに、学習計画表を活用し、一人一人の活動を継続的に支援したことにより、進んで学習する生徒の割合が増加した。
- 全ての生徒が自分にふさわしい学習方法を見だし、より主体的に学習に取り組むことができるよう、学びの成果や自己の成長を振り返る指導を充実させる必要がある。



(4) ICTを活用した取組

学び合いを深めるオンライン学習の取組 【胆振管内 伊達市立伊達小学校】

取組のポイント

- ・児童が端末の操作を繰り返す計画的、継続的な指導
- ・ブレイクアウトセッション、ブレイクアウトルームなどの機能を活用した児童相互の交流



Before

- ①教師が問題を提示し、児童が回答した後、答え合わせ、解説をするという、一方向の授業が多く見られた。
- ②「ZOOM」に入室できなかったり、ミュートを解除できなかったりするなど、機器の操作に慣れていないことで学習に深まりが生まれなかった。
- ③操作方法の習得はもとより、一人一台端末に向けて、ICTを活用した「主体的・対話的で深い学びの授業改善」の実現が必要であると考え、計画的・継続的な指導を行うこととした。

After

○ 子ども同士の対話を取り入れた指導

- ・総合的な学習の時間で調査課題についての中間まとめをノートを使って交流
→ブレイクアウトセッションを用いたランダムなグループでの交流
- ・算数での解決方法について考え方をブレイクアウトルームで交流
- ・友達の発表や発言に対してチャット機能を使ったリアクションや交流

○ 不登校児童等への学びの保障

- ・学級の授業の様子をZOOMで授業をライブ配信（算数、社会）
- ・通常学級のみでなく、通級指導をオンラインで実施

○ 保護者への教育活動の公開

- ・学校行事をYouTubeで配信→参観日を実施できない状況での保護者への情報提供
- ・Google Formを用いた保護者アンケートの実施・回収

○ 通常授業との違いの確認

- ・時間の使い方や話すスピード、立ち位置への配慮



【オンライン授業の様子】



【社会科授業をZOOMで配信】

組織的なオンライン学習の取組 【石狩管内 新篠津村立新篠津中学校】

取組のポイント

- ・「オンライン学習プロジェクトチーム」による組織的な取組
- ・各教科間の連携

Before

- ①生徒間の交流が少なく、教師主導の一方的な学習や、計算問題やクイズ形式の問題など、生徒にとって平易な学習活動が中心になっていた。
- ②教師、生徒とも端末操作が十分に身に付いておらず、端末操作に時間を費やすことが多く見られ、学習活動の深まりが生まれなかった。
- ③継続的に繰り返しオンライン学習を実施することで、生徒の興味・関心を高めるとともに、操作方法の習得はもとより、一人一台端末に向けて、ICTを活用した「主体的・対話的で深い学びの授業改善」の実現が必要であると考えたため校内体制を整備した。



【接続の状況を確認】

After

○ 生徒間の交流を増やすために…

ZOOMのブレイクアウトルーム（ミーティング内でグループ協議ができる機能）の活用

- ・国語～小グループで漢字ビンゴゲームの実施
- ・数学～小グループで生徒同士の教え合いの場の設定
- ・理科～小グループで交流の場を設定
- ・英語～小グループでコミュニケーション活動を実施

○ 生徒への指示を素早く、確実にを行うために…

- ・電子黒板の活用～音声で聞き取れない部分を補助

○ 時間の短縮を図るために…

- ・Google formによる学習の振り返り
- ・Google formによるオンライン復習教材の配布



【電子黒板を使った授業】

保護者の学校への理解の深化



生徒の家庭学習への意欲向上



教員の機器操作等を学ぼうとする姿

(5) 学力向上に向けた市町村の特色ある取組

学力向上に向けた市町村の特色ある取組 【空知管内 岩見沢市の取組】

取組のポイント

・市教育委員会が作成した授業スタイルの手引きに基づき、「子どもと創る授業」の推進

Before

- ①学校ごとの授業スタイル、学習規律の確立など、学力向上に向けた「組織的な学校改善」の取組に学校間で差が見られた。
- ②学校による授業改善の取組の差や中学校区ごとの小中連携した学力向上に向けた取組の推進状況に差があった。
- ③子どもが思考・判断・表現する活動時間を適切に位置付けた「日常授業の改善」により学習内容の確実な定着を図ることをねらいとした。

After

【目指すところ】

- 児童生徒の将来を見据え、協働による深い学びを実現
- 教えることをしっかりと教え(教師主導)、じっくり考えさせる(子ども主体)指導過程
- 日常の授業スタイルの統一による、学級担任が替わっても変わらない子どもの学習環境の構築

【取組の具体】

- 組織的な学校改善の中核として「日常授業の改善」を位置付け、子どもが身に付けた知識・技能を活用し、思考・判断・表現しながら課題解決に向けて学習する「教えて考えさせる」授業スタイルの推進
- 「ピア・サポート」による「傾聴・受容・共感」の信頼関係に基づく仲間づくりの取組
- 学習スキルの向上による子どもの学びに向かう力の育成の推進

【成果と課題】

- 「教えて考えさせる」授業スタイルの組織的な展開により、「日常授業の改善」が全校に浸透し、学力の向上が図られた。
- 学力向上における数値目標を確実に達成させるために、各校の検証改善サイクルの徹底を図る必要がある。

基本の授業スタイル

	教師の働き	形態
教える	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 課題を設定し、見直しをもたせる。 ◎ 対話を通して、指導事項を説明・演習 ※ 発話を極限まで減らす ※ 子どもの発言を進める ※ 指導事項の板書は最小限 ※ ICTを活用して時間短縮 	一斉
考えさせる	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 類似問題等で教えたことを説明させる。 ※ 発表する順番を習慣化させる ※ 条件を与えることも必要 	ペア
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教える場面での指導事項や既習事項を活用して解決できそうな問題(課題)を設定する。 ※ 話し合う必然性のある問題 ※ 自己解決→集団解決 	4人グループ
振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 振り返りを書かせる。 ※ 課題を確認する ※ 条件を与える ※ 振り返り後に家庭学習につなぐ 	個人

※課題は、本時の指導事項(身に付けてほしい資質・能力)が表れ、子どもが見直しをもてる課題を設定する。
※小学校は15分以内、中学校は18分以内でタイムマネジメントをする。(時間は目安)

※指導事項の基礎となる内容を教える段階で身に付け言葉や自分の言葉で説明させる。
※机間指導でT2を活用し、説明できているか確認する。

※解決する価値のある質の高い問題(課題)を設定する。グループの話し合いで解決できない問題の場合もある。

※メタ認知を促し、書く量を決めて文章で書かせる。

学力向上に向けた市町村の特色ある取組 【日高管内 浦河町の取組】

取組のポイント

・町内の全教職員を対象とした「浦河町現職教員研修」の実施

Before

- ①新学習指導要領における学習評価について、各学校の取組状況にばらつきがあるなど課題が見られた。
- ②各学校及び教職員の学習評価に係る理解が進んでいないことが要因として考えられる。
- ③町全体の学力向上に向けた取組を推進するため、学習評価と授業改善を関連付けた教育課程の編成について、指導資料を活用し、共通理解を図る取組を推進する必要があった。

After

【研修内容】

- (全体研修)
- ・新学習指導要領に基づいた学習評価について
- ・評価規準の作成と単元の指導計画について(教科グループ別研修)
- ・教科別学習評価の特徴
- ・事例を用いた観点別学習評価の工夫と注意点
- ・評価規準を明確にした単元の指導計画の具体



【全体研修】



【教科別グループ研修】

○ 成果

・参加者アンケートにおいて、「学習評価についての理解が深まった。」「教科ごとに研修する機会があったよかった。」等、肯定的意見があり、学習評価に係る教職員の意識の向上が見られた。
・学校教育指導訪問の際、本研修を踏まえた指導助言を行うことにより、学習評価をどのように授業改善につなげるかについて理解を深めることができた。

● 今後の課題

・学習評価を授業改善に生かした事例を発信し、小・中学校で共有する等、町内の小中連携と関連付けた取組を推進する必要がある。
・参加者アンケートにおいて、「今後もこのような研修を行ってほしい。」等の要望があることから、町教委と教育局が連携して、学校教育指導訪問等と関連付けた継続的、計画的な取組を推進する必要がある。

全体研修においては、「学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編)」を資料に、教育局指導主事が新学習指導要領に基づいた評価の観点について説明した。

教科グループ別研修においては、各教科毎に『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』に掲載されている事例に基づいた説明を行い、学習評価をどのように授業改善に結び付けるかを中心に説明した。

学力向上に向けた市町村の特色ある取組【留萌管内 増毛町の取組】

取組のポイント

- ・小・中学校9年間で活用を図る「家庭学習の手引き」の作成及び指導の徹底
- ・学校と家庭で共通理解を図った学習習慣の確立

Before

- ① これまでも、各学校において学習習慣の定着に向けた取組を行ってきただけのもの、学校段階間で継続性が図られず、小・中学校9年間の一貫した指導を行うことが困難な状況となった。
- ② 一貫した指導が図られていないことにより、各家庭においても学習習慣の確立に向けた取組を進めることが難しい状況が多く見られた。
- ③ 町の既存組織である「町教育振興会」を活用して「小中連携教育推進委員会」を設置し、学習習慣の確立など、小中連携を一層強化した取組を推進していくこととした。

After

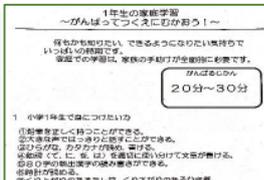
■「小中連携教育推進委員会」を設置し、町内の小・中学校における児童生徒の課題を明確にし、組織的・継続的な小中連携の取組を推進

取組の柱	具体的な取組内容
学習習慣	9年間を見通した学習の手引きの作成
授業改善	小中学校の教員による相互授業参観
生徒指導	児童生徒の学習面や生活面などの交流
⋮	⋮

小・中学校共通の家庭学習の手引きのポイント

- 発達の段階に応じて、具体的な取組内容の例を示す。
- 学年ごとに、家庭学習への取組目標を設定し、見通しをもたせて取り組ませる。
- 学年ごとに、児童生徒に身に付けさせたい力を示し、家庭と共通理解を図って取組を推進させる。
- 家庭において協力してもらいたい内容を明確化させる。

学習習慣の確立を図るために、9年間を通して身に付けたい力や何ができるようになるのかを手引きに具体的に示すなど、学校と家庭が共通理解を図った取組が推進されるよう工夫した。



<○成果、●今後の課題>

- 児童生徒に身に付けさせたい力を明確にして「家庭学習の手引き」を作成したことにより、一貫性のある学習習慣の定着に向けた取組につなげることができた。
- 保護者アンケートを実施するなど、活用状況を客観的に把握し、より効果的な活用が図られるよう内容の充実を図っていく必要がある。

学力向上に向けた市町村の特色ある取組【十勝管内 大樹町・広尾町の取組】

取組のポイント

- ・教職員の資質向上に向けた学力向上に係る校内研究の推進や授業改善等の推進

Before

- ① 大樹町では大樹小学校を実践指定校として「学校力向上に関する総合実践事業（学校指定）」に、広尾町では「授業改善等支援事業」に取り組む、一定の成果は得られていたが、連携校の指定事業への参画意識が低い、学校によって解決に向けた取組に差があるなど、どちらも町全体の取組になっていない。
- ② 小中連携の意識が醸成されておらず、授業参観や事後研究が形骸化している。特に中学校においては連携校の意識が薄いだけでなく、町内に中学校がそれぞれ1校しかないことから他校との連携が十分できず、授業改善による教員の資質能力の向上が図られていない。
- ③ 両町ともに全国学力・学習状況調査の結果が経年で全国平均を下回っているが、教職員の経験年数の偏り（若手教員が多く、ミドル層が少くない）など共通する課題が多いことから、組織的な学力向上に係る検証改善サイクルの確立がなされていない。

After

学校力向上に関する総合実践事業における「【地域指定】地域全体の学校力向上を図る仕組みづくり」

授業参観・事後研究の活性化

両町の授業参観に係る年間計画を作成したことで、教職員が町や校種を越えて授業参観を行うようになった。事後研究において、授業に対する感想のみで終わるのではなく、「主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善」等、各学校の校内研究と関わる建設的な意見が述べられるなど参加者の発言内容に明らかな変容が見られる。

人材育成

研修機会の充実により、初任段階教員が意欲的に授業改善に努め、メンター研修を通じたミドル層の資質能力の向上が見られる。

地域協議会の開催

各町・各学校における取組の推進状況を踏まえ、課題解決の手立てとその成果を定期的に協議している。

今後の課題

- ・組織的な授業改善を進めるために、各学校が育成を目指す資質・能力を教職員に周知徹底する必要がある。
- ・グランドデザインの構成を工夫するなど、学校経営方針と日常のつながりを具体的にイメージさせる必要がある。
- ・小中の連携をさらに推進し、教職員が9年間を見通した指導を充実させる必要がある。

2 令和2年度（2020年度）道教委の取組

事業名	概要
ほっかいどう学力向上推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査結果の分析、北海道版結果報告書の作成 ○ 「組織力強化会議」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村の校長会代表者、各小・中学校等の教諭を対象に、全国学力・学習状況調査結果の分析・活用方法や、学校マネジメントに関する理解を深めるための研修会を開催 ・14管内、16会場 年2回実施[H31(R1)：14管内18会場] ○ ほっかいどうチャレンジテスト（年間6回配信）
	<p>【北海道教育委員会ウェブサイト】</p> <p>「ほっかいどうチャレンジテストに取り組んでみましょう」 QRコード </p> <p>「ほっかいどうチャレンジテストの結果を活用した授業改善アイデア例」</p> <p>【国語】  QRコード 【算数・数学】  QRコード</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 義務教育学校や小中一貫型小学校・中学校の設置を目指す市町村・学校への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・9管内、10地域、22校[H31(R1)：9管内13地域30校] ・カリキュラム編成のための全道研修会を開催 <p>【北海道教育委員会ウェブサイト】</p> <p>「北海道の小中一貫教育」 QRコード </p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子どもの学力・生活習慣改善研修会」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・管内PTA連合会との共催等により、保護者、地域住民、学校、教育委員会が共通理解を深め、地域が一体となった取組を進めるための研修会を開催 ・14管内、16会場で実施予定[H31(R1)：14管内14会場] <p>【北海道教育委員会ウェブサイト】</p> <p>「時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える！」リーフレット QRコード </p>	
学校力向上に関する総合実践事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管理職のリーダーシップの下で包括的な学校改善の推進 ○ 将来のスクールリーダーを継続的に育成する新たな仕組みの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・学校指定47校 地域指定15地域 ・[H31(R1):実践指定校67校（14管内で実施、連携校38校）]
eラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公立千歳科学技術大学との連携により提供しているeラーニングシステムの普及 <ul style="list-style-type: none"> ・利用校441校 [H31(R1):87校] <p>【北海道教育委員会ウェブサイト】</p> <p>「eラーニングシステムを活用してみませんか」 QRコード </p> <p>「eラーニングシステムの効果的な活用事例について」 QRコード </p>
子ども未来塾	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域住民の協力により学習が遅れがちな児童生徒への学習支援 <ul style="list-style-type: none"> ・73市町村（小200校、中79校、義務2校）で実施予定 ・[H31(R1)：78市町村（小169校、中82校、義務2校）]

事業名	概要
地域学校協働本部事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域住民等の参画により、学校の教育活動を支援する仕組み（本部）をつくり、様々な学校支援活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 142 市町村 [H31(R1)：99 市町村]
どさんこ アウトメディア プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ○ ネット利用も含めた望ましい生活習慣の定着 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ノーゲームデー」を設定・推進 ・ 「早寝早起き朝ごはん」フォーラム事業を実施
教職員定数加配 (指導方法工夫改善 加配)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査等の各種調査で明らかとなった課題などに対応するため、教育課程や指導方法・指導体制の改善に積極的に取り組み、優れた成果を上げることが期待される学校に加配措置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 加配校 656 校、896 名 [H31(R1)：656 校、920 名]
授業改善推進チーム 活用事業 (指導方法工夫改善 加配の再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指定校に 1 名配置した授業改善推進教員が 2～3 名のチームを組み、1 週間単位で同一の学校に勤務し全学級でチーム・ティーチングを行い、学校全体の授業改善の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善推進教員 82 名 (38 市町、32 チーム 82 校) [H31(R1)：69 名 (30 市町、26 チーム、69 校)] <p>【北海道教育委員会ウェブサイト】</p> <p>「平成 30 年度授業改善推進チーム実践事例集」</p> <p>「令和元年度授業改善推進チーム実践事例集」</p> <div style="text-align: right;">  <p>QRコード</p>  <p>QRコード</p> </div>
退職教員等外部人材 活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上非常勤講師の配置 227 名 [H31(R1)：207 名] ○ 小学校外国語活動における社会人等外部人材の配置 66 名 [H31(R1):80 名]
北海道学力向上 Web システム	<ul style="list-style-type: none"> ○ Web サイトを活用し「ほっかいどうチャレンジテスト」の配信、採点結果の分析集計を行うシステムの運用（年間 6 回配信） <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 24 年 9 月から運用を開始 ・ 各学校の平均正答率が表示され、全道・管内での比較が可能 ・ 正答率が低い問題には、補足的な指導のための「サポート問題」を配信 ○ 市町村教委や学校で学力調査の主要データを分析できる「分析ツール北海道版」の配信
事務職員加配 (新たなミッション)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の子どもと向き合う時間の確保や、学校間の連携、地域・保護者との連携の充実に図るため、複数の事務職員がチームとなって業務を担う学校に加配措置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 加配校 73 校、73 名 [H31(R1)：加配校 72 校、72 名]
指導主事の学校訪問に よる学校教育指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複数回の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 概ね 1 校 3 回程度実施予定
公立小中学校教職員 広域人事	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平均年齢の高い管内と平均年齢の低い地域を有する管内との間で教職員の広域人事（原則 3 年間勤務）の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 22 名（うち離島交流人事 10 名） [H31(R1)：15 名（うち離島交流人事 7 名）]
子どもと向き合う 時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道共同利用型校務支援システムの全道への普及 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全道共通のシステムを導入することにより、校務の標準化を推進するとともに、教員の業務負担の軽減を実現し、生み出された時間を教材研究や子どもと向き合う時間にあて、教育の質の向上を図る ・ 76 自治体、483 校 [H31(R1)：63 自治体、444 校]
コミュニティ・ スクール	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校運営協議会」を設置し、保護者や地域住民の参画により地域とともにある学校づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> [H31(R1)：小 415 校、中 245 校、義務 6 校] ・ コミュニティ・スクールの導入促進や取組の充実に向けた協議会を開催（全道 14 管内で実施予定） [H31(R1)：14 会場]
北海道学力・体力向上 推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本道の児童生徒の学力や生活習慣等について、道内の市町村教育委員会や校長会、PTA、社会教育関係者等と北海道教育庁職員との意見交換及び協議